

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号

特許第6999308号

(P6999308)

(45)発行日 令和4年1月18日(2022.1.18)

(24)登録日 令和3年12月24日(2021.12.24)

(51)国際特許分類

F I

H 0 4 N 21/4623(2011.01)

H 0 4 N 21/4623

H 0 4 N 21/426(2011.01)

H 0 4 N 21/426

H 0 4 L 9/08 (2006.01)

H 0 4 L 9/08

B

H 0 4 B 1/16 (2006.01)

H 0 4 L 9/08

E

H 0 4 H 20/28 (2008.01)

H 0 4 B 1/16

G

請求項の数 1 (全87頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願2017-133861(P2017-133861)

(22)出願日 平成29年7月7日(2017.7.7)

(65)公開番号 特開2019-16949(P2019-16949A)

(43)公開日 平成31年1月31日(2019.1.31)

審査請求日 令和2年6月25日(2020.6.25)

(73)特許権者 000214984

T V S R E G Z A株式会社

青森県三沢市南町三丁目3番地277

6号

(74)代理人 110001737

特許業務法人スズエ国際特許事務所

(72)発明者 野中 康行

青森県三沢市南町三丁目3番地277

6号 東芝映像ソリューション株式会社内

(72)発明者 田中 克則

青森県三沢市南町三丁目3番地277

6号 東芝映像ソリューション株式会社内

(72)発明者 渡邊 浩成

青森県三沢市南町三丁目3番地277

6号 東芝映像ソリューション株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 受信装置

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

BSデジタル放送による番組と前記番組に付加された通信サービスとを受けることが可能な受信装置において、

前記BSデジタル放送による前記番組を受信する受信部と、前記通信サービスを受けるためにネットワークを介して通信サービス事業者と通信を行う通信制御部と、前記通信制御部が前記ネットワークを介して通信が行われている場合、通信が実行中であることを表示する手段と、

前記受信部で受信した前記番組を出力する表示制御部と、

前記受信部で受信した前記BSデジタル放送の前記番組の放送信号に配置されている前記通信サービスが前記番組に付加されていることを示す第1の指定情報を解析する解析部と、前記解析部の解析結果にもとづいて前記通信制御部を介して、前記通信サービスを実行する制御部とを有し、

前記制御部は、

前記解析部により前記BSデジタル放送の前記番組に前記第1の指定情報が付加されているとの解析結果を得たときに、前記通信制御部が前記通信サービス事業者と正しく通信ができる状態にあるかを確認し、

前記通信制御部が前記通信サービス事業者と正しく通信ができる状態にない場合、前記通信制御部が通信サービス事業者と正しく通信出来ないために発生するエラーを示す通知を行う通知手段と、

ユーザの視聴を妨げないために次回以降前記通知手段による通知を行わないよう制御する手段とを有する、受信装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

実施形態の説明は、放送信号を受信する受信装置に関するが、さらに放送信号の送信装置、及び放送信号の送受信装置、ならびに該装置を実現する方法にも及ぶものである。

【背景技術】

【0002】

近年のテレビジョン放送分野においては、種々の放送方式が開発され、試験放送の段階を経て実運用に移行しつつある。

10

例えば放送波種別として、地上デジタルテレビジョン、ＢＳデジタル、広帯域ＣＳデジタルに加え、高度ＢＳデジタル、高度広帯域ＣＳデジタルが今後運用されることが期待されている。

【0003】

また、地上デジタルテレビジョン放送、ＢＳデジタル放送、広帯域ＣＳデジタル放送を受信する機器において、異なる２番組を同時に録画する機能（ダブル録画機能）、さらには全チャンネル録画機能など、複数の同時刻に放送される番組を同時録画（記録）可能な機器が製品化されている。

【0004】

20

一方で、これら放送は有料放送、無料放送に関わらずほとんどのチャンネルでスクランブルがかけられており、番組を受信し視聴するには、ＣＡＳ（Conditional Access System）モジュール（ＩＣカード）が必須となっている。

番組に対してスクランブルを行うようにした目的の１つは、業界において有料放送ビジネスが可能となるように工夫したためである。

【0005】

さらには、テレビジョン受信装置によっては、放送信号を受信するほかに、さらに通信ネットワークを介して通信（ＩＰＴＶによるＩＰ放送の受信）を行うものもある。このようなテレビジョン受信装置は、サービス事業者等とインターネット等の通信ネットワークで接続され、サービス事業者等から通信機能による各種のデータサービスを受けることが可能である。

30

【先行技術文献】

【非特許文献】

【0006】

【文献】「デジタル放送におけるアクセス制御方式 標準規格」 ARIB STD-B25 6.5版 2015年3月17日改定、一般社団法人 電波産業会

「デジタル放送におけるアクセス制御方式（第２世代）及びＣＡＳプログラムのダウンロード方式 標準規格」 ARIB STD-B61 1.2版 2015年12月3日改定、一般社団法人 電波産業会

「地上デジタルテレビジョン放送運用規定 技術資料」 ARIB TR-B14 6.2版 2016年7月6日改定、一般社団法人 電波産業会

40

「ＢＳ／広帯域ＣＳデジタル放送運用規定 技術資料」 ARIB TR-B15 7.1版 2016年7月6日改定、一般社団法人 電波産業会

「高度広帯域衛星デジタル放送運用規定 技術資料」 ARIB TR-B39 1.0版 2016年7月6日改定、一般社団法人 電波産業会

「デジタル放送におけるＭＭＴによるメディアトランスポート方式 標準規格」 ARIB STD-B60 1.9版 2017年3月24日改定、一般社団法人 電波産業会

「高度広帯域衛星デジタル放送運用規定式 技術資料」 ARIB TR-B39 1.3版 2017年3月24日改定、一般社団法人 電波産業会

【発明の概要】

50

【発明が解決しようとする課題】**【 0 0 0 7 】**

今後、テレビジョン受信装置（受信機とも言う）は、多種多様な機能を持つことになる。この結果、各種の放送種別と、受信機の各種機能との関連性は、複雑化してくる。例えば複数のチャンネルを同時受信しながら、あるチャンネルの番組はモニタし、他のチャンネルの番組は録画を行う場合がある。さらには、モニタされている番組が、データ放送サービスを伴う場合、視聴者の操作入力（いわゆる d ボタン操作とも称される）が関連する場合もあり得る。

【 0 0 0 8 】

このようなケースにおいて、従来の送受信システムであると、視聴者の番組視聴、或いはデータ放送サービスに対する視聴者参加において、受信機の動作に破たんを来す、或は、不具合を生じることが考えられる。

10

例えば、複数チューナを利用して、あるチャンネルの番組視聴と同時に他チャンネルの受信と録画（いわゆる裏番組録画）が実施されることがある。このような場合に、複数チューナと各チャンネル番組のデスクランブルのための C A S モジュール（I C カード）との連携動作が破たんなく行われるかどうかが問題となる。また、デスクランブルがなされた番組に関連してデータ放送サービスが実施されている場合、受信機によっては、ネットワーク接続に不具合が生じていることがある。このような場合、受信機の不安定な動作が、頻繁に生じ、例えば警告メッセージが頻繁に表示され、視聴者は放送業者や受信機に対する疑念を生じるような不具合がある。しかし、一方では、何ら警告メッセージが出力されないまま、受信機の機能が十分に発揮されない場合も、視聴者は放送業者や受信機に対する疑念を生じるという不具合がある。

20

【 0 0 0 9 】

そこで実施形態では、チューナ増設などで多機能化しても動作が安定化すること、また、警告メッセージ等を出力する場合の不具合を低減させる受信装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【 0 0 1 0 】**

一実施形態によると、BSデジタル放送による番組と前記番組に付加された通信サービスとを受けることが可能な受信装置において、前記BSデジタル放送による前記番組を受信する受信部と、前記通信サービスを受けるためにネットワークを介して通信サービス事業者と通信を行う通信制御部と、前記通信制御部が前記ネットワークを介して通信が行われている場合、通信が実行中であることを表示する手段と、前記受信部で受信した前記番組を出力する表示制御部と、前記受信部で受信した前記BSデジタル放送の前記番組の放送信号に配置されている前記通信サービスが前記番組に付加されていることを示す第 1 の指定情報を解析する解析部と、前記解析部の解析結果にもとづいて前記通信制御部を介して、前記通信サービスを実行する制御部とを有し、前記制御部は、前記解析部により前記BSデジタル放送の前記番組に前記第 1 の指定情報が付加されているとの解析結果を得たときに、前記通信制御部が前記通信サービス事業者と正しく通信ができる状態にあるかを確認し、前記通信制御部が前記通信サービス事業者と正しく通信ができない場合、前記通信制御部が通信サービス事業者と正しく通信出来ないために発生するエラーを示す通知を行う通知手段と、ユーザの視聴を妨げないために次回以降前記通知手段による通知を行わないよう制御する手段とを有する、受信装置を提供する。

30

40

【図面の簡単な説明】**【 0 0 1 1 】**

【図 1】図 1 は、一実施形態に係る放送局と受信機（受信装置とも呼ぶ）のシステム全体の構成例を示す図である。

【図 2】図 2 は、放送局の主な構成を概略的に示した図である。

【図 3】図 3 は、一実施形態に係る受信機の構成を詳細に示した図である。

【 0 0 1 2 】

50

【図 4 A】図 4 A は、非特許文献 1 に記載の、限定受信方式の概念図を示したものである。

【図 4 B】図 4 B は、地上デジタルテレビジョン放送、BS デジタル放送、広帯域 CS デジタル放送の場合の ECM およびその中に含まれるスクランブル鍵 (Ks) と、そのスクランブル鍵 (Ks) を用いてデスクランブルする対象の放送信号の時間的な関係を示す図である。

【0013】

【図 4 C】図 4 C は、非特許文献 2 に記載されている限定受信方式の概念図である。

【図 5】図 5 は、非特許文献 4 に記載の、受信機がデスクランブルする際の基本構成図である。

【図 6】図 6 は、非特許文献 1 に記載の、図 5 に示した受信機が行う限定受信処理の処理フローチャートである。

10

【0014】

【図 7】図 7 は、スクランブル鍵 (Ks) の更新周期と ECM、EMM の処理を概念的に示した図である。

【図 8】図 8 は、図 5 に示したチューナを 1 つ持つ場合の受信機の基本構成に対して、チューナを 2 つ持つ場合の、放送波をデスクランブルする際の受信機の基本構成図である。

【0015】

【図 9】図 9 は、図 8 に示したチューナを 2 つ持つ場合の受信機の基本構成に対して、チューナを 3 つ持つ場合の、放送波をデスクランブルする際の受信機の基本構成図である。

【図 10】図 10 は、ECM、EMM、スクランブル鍵 (Ks) の時間的な関係を示した図である。

20

【0016】

【図 11】図 11 は、非特許文 4 に記載の送信側がスクランブル鍵 (Ks) を含む ECM を送信するタイミングと、ECM に含まれるスクランブル鍵 (Ks) を用いてデスクランブルする映像信号を送信するタイミングを図示したものである。

【図 12】図 12 は、図 11 に示した送出ルールに従う送受信系での受信機の限定受信の実装例に係る説明図である。

【0017】

【図 13】図 13 は、図 5 に示した受信機の基本構成に対して、チューナ部を 3 個に増やし、さらに録画・記録部を追加した実施形態を示す図である。

30

【図 14】図 14 は、図 13 に示した受信機の限定受信の実装例に係る説明図である。

【図 15】図 15 は、非特許文献 5 に記載の高度 BS デジタル放送、高度広帯域 CS デジタル (以下 4K8K) 放送受信機の基本構成図である。

【0018】

【図 16】図 16 は、図 15 の基本構成の受信機に対して、チューナー部を 3 つ持つ場合の、放送波をデスクランブルする際の他の受信機の基本構成図である。

【図 17】図 17 は、図 16 に示した受信機の限定受信の実装例に係る説明図である。

【0019】

【図 18】図 18 は、他の実施形態であり、4K8K 受信用のチューナ部として 2 個、2K 受信用のチューナ部として 3 個をもつ受信機の基本構成例を示す図である。

40

【図 19】図 19 は、図 18 に示した受信機の限定受信の実装例に係る説明図である。

【0020】

【図 20】図 20 は、図 12 と同じく受信機の限定受信の実装例に係る説明図である。

【図 21 A】図 21 A は、図 18 に示した受信機において、第 1 チューナ部 (4K8K) 1801-1、第 2 チューナ部 (4K8K) 1801-2、第 3 チューナ部 (2K) 1801-3、第 4 チューナ部 (2K) 1801-4、第 5 チューナ部 (2K) 1801-5 から ECM、EMM を受信したタイムチャートの例を示す図である。

【0021】

【図 21 B】図 21 B は、図 21 A で示した ECM/EMM を図 18 の一体型 CAS モジュールが、ECM、EMM の処理を行う時間的遷移を示す図である。

50

【図 2 2】図 2 2 は、図 2 1 A、図 2 1 B で説明した、2 K 放送の E C M の処理を最優先にするための、受信機が C A S モジュールに E C M、E M M の処理を依頼するフローチャートである。

【0 0 2 2】

【図 2 3】図 2 3 は、E M M を受信した時刻を保存する保存エリアを持つ E M M 受信バッファの例を示す図である。

【図 2 4】図 2 4 は、所定の規定により動作する実施形態に係る受信機のデータ処理フローチャートである。

【図 2 5】図 2 5 は、図 2 4 に示す処理フローチャートに、“事業体毎に管理し、処理待ちの E M M のバッファの受信時刻を判断し、E M M 処理猶予期間（30 秒）以内に受信した E M M が E M M バッファ内に既に存在する場合に、あとから受信した E M M を破棄する”規定を加えた場合の、受信機の E M M 受信の処理フローチャートである。

10

【0 0 2 3】

【図 2 6】図 2 6 は、番組情報保存エリアの構成を示した図である。

【図 2 7 A】図 2 7 A は、タイプ 1 のデータコンテンツサービスの構成を示した図である。

【図 2 7 B】図 2 7 B は、タイプ 2 のデータコンテンツサービスの構成を示した図である。

【0 0 2 4】

【図 2 8】図 2 8 は、アプリケーションサービス記述子のフォーマットを示した図である。

【図 2 9 A】図 2 9 A は、受信機が受信している番組のチャンネルが時間とともに変わらず番組だけが変わる場合の、表示器が表示している表示内容、解析部が M P T（アプリケーションサービス記述子が配置されているものとする）を受信して解析するタイミング、および制御部が、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示を表示器に通知するタイミング、の時間的な遷移の例を示した図である。

20

【0 0 2 5】

【図 2 9 B】図 2 9 B は、受信機が受信している番組のチャンネルが変わる場合の、表示器が表示している表示内容、解析部が M P T（アプリケーションサービス記述子が配置されているものとする）を解析するタイミング、および制御部が、表示制御部に対してデータコンテンツサービスが行われていない旨の表示を通知するタイミング、の時間的な遷移の他の例を示した図である。

【0 0 2 6】

【図 2 9 C】図 2 9 C は、受信機への入力切り替えにより、受信機が受信している番組から例えば録画番組に切り変わる場合の、表示器が表示している表示内容、解析部が M P T（アプリケーションサービス記述子が配置されているものとする）を解析するタイミング、および制御部が、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示を表示制御部に通知するタイミング、の時間的な遷移の例を示した図である。

30

【0 0 2 7】

【図 3 0】図 3 0 は、リモコンに存在する d ボタンおよびその周辺の例を示す図である。

【図 3 1 A】図 3 1 A は、図 2 9 A（a）に、制御部が、リモコンの d ボタンが押下されたことを認識したタイミング、およびその d ボタン押下の認識をもとにデータコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部に通知するタイミングを追加した図である。

40

【0 0 2 8】

【図 3 1 B】図 3 1 B は、図 2 9 B（a）に、制御部が、リモコンの d ボタンが押下されたことを認識したタイミング、およびその d ボタン押下の認識をもとにデータコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部に通知するタイミングを追加した図である。

【0 0 2 9】

【図 3 1 C】図 3 1 C は、図 2 9 C（a）に、制御部が、リモコンの d ボタンが押下されたことを認識したタイミング、およびその d ボタン押下の認識をもとにデータコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部に通知するタイミングを追加した図である。

【0 0 3 0】

【図 3 2 A】図 3 2 A は、放送番組にデータコンテンツサービスが付加されている場合の

50

、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部に通知する通知処理の処理フローチャートである。

【図 3 2 B】図 3 2 B は、放送番組にデータコンテンツサービスが付加されている場合の、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部に通知する通知処理の処理フローチャートである。

【 0 0 3 1 】

【図 3 2 C】図 3 2 C は、受信機に対する入力切り替えにより、放送番組以外を表示器 3 2 8 に表示している場合の、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部に通知する通知処理の処理フローチャートである。

【図 3 2 D】図 3 2 D は、図 3 2 B の S 9 1 4 W の第 1 の条件判定処理の処理フローチャートである。

10

【 0 0 3 2 】

【図 3 2 E】図 3 2 E は、図 3 2 B の S 9 1 4 W の第 1 の条件判定処理の他の処理フローチャートである。

【図 3 3】図 3 3 は、図 3 1 A、図 3 1 B、図 3 1 C に示したリモコン操作によるデータコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部に通知する通知処理の処理フローチャートである。

【 0 0 3 3 】

【図 3 4】図 3 4 は、表示器 1 1 0 0 W の表示画面と表示画面内に表示する番組の表示領域の関係を示した図である。

20

【図 3 5 A】図 3 5 A は、MH - プロトコル記述子の構成を表した図である。

【図 3 5 B】図 3 5 B は、`protocol__id` (プロトコル識別) フィールドの一覧を示す図である。

【 0 0 3 4 】

【図 3 5 C】図 3 5 C は、`protocol__id` (プロトコル識別) フィールドが HTTP / HTTPS 伝送あるいは MMT `non-tim` 伝送の場合の、`selector__byte` (セレクトア領域) フィールドの構成を示した図である。

【図 3 6 A】図 3 6 A は、図 2 9 A (a) 同様、受信機が受信して表示している番組のチャンネルが変わらず番組だけが変化する場合の、表示器が表示している番組の表示内容、解析部が MPT (アプリケーションサービス記述子が配置されているものとする) を受信して解析するタイミング、および制御部が、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示を表示制御部 3 2 7 に通知するタイミング、の時間的な遷移の例を示す図である。

30

【 0 0 3 5 】

【図 3 6 B】図 3 6 B は、図 2 9 B (a) 同様、受信機が受信して表示している番組のチャンネル番号が変わる場合の、表示器が表示している番組の表示内容、解析部が MPT (アプリケーションサービス記述子が配置されているものとする) を受信して解析するタイミング、および制御部が、データコンテンツのサービスが行われていない旨の表示を表示制御部に通知するタイミング、の時間的な遷移の例を示す図である。

【 0 0 3 6 】

【図 3 7】図 3 7 は、図 3 6 A および図 3 6 B に示した URL のスキームも判断して、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示を表示制御部に通知の、第 1 の条件判定処理の処理フローチャートである。

40

【発明を実施するための形態】

【 0 0 3 7 】

以下、実施の形態について図面を参照して説明する。

図 1 は、一実施形態に係る放送局と受信機 (受信装置とも呼ぶ) のシステム全体の構成例を示す図である。

放送局 1 0 0 は、放送局サーバ 1 0 1、第 1 のセキュリティ機能 1 0 2、第 1 の基本機能 1 0 3 を備える。

【 0 0 3 8 】

50

第1の基本機能103は、放送局100の基本的な機能であり、放送する番組の映像信号や音声信号等を符号化（エンコードとも言う）して多重化し、放送信号（放送信号は、地上デジタルテレビジョン放送、BSデジタル放送、広帯域CSデジタル放送、高度BSデジタル放送、高度広帯域CSデジタル放送、などいずれの放送波種別の放送信号であってもよい）として送出する機能を持つ。したがって送信信号は、衛星を経由する経路も含むものとする。その他に送信信号は、ケーブルによる経路を含んでもよい。

【0039】

また放送局100は、放送する番組に、BML、HTML等のアプリケーション機能を同時に提供するサービスを付加することができる。この場合放送局100は、放送する番組にアプリケーション機能が付加されていることを示す第1の指定情報を伝送制御信号に配置して、第1の基本機能103により放送信号として送出することができる。

10

【0040】

放送局サーバ101は、番組タイトル、番組ID、番組概要、出演者、放送日時、その他のデータ等のメタデータを、放送信号により受信機に送出するために、予め保存しておくエリアである。

第1のセキュリティ機能102は、放送局が送出する放送波に含まれるコンテンツ（番組）の保護に関する設定を行うことができる。

【0041】

サービス事業者装置（サービス事業者と称する場合もある）120は、放送局100と連携して、放送局100が放送する番組に付加されたアプリケーション機能を同時に提供するサービスにおいて、コンテンツの作成、管理、提供（配布とも呼ぶ）を行う。サービス事業者装置120は、アプリケーション管理・配布121とアプリケーションサーバー122を含む。

20

【0042】

アプリケーション管理・配布121は、アプリケーションサーバー122に保存されているコンテンツやアプリケーションの管理や、受信機140への配布を行う。

アプリケーションサーバー122は、受信機140に対して提供するコンテンツやアプリケーションを保存するエリアである。

【0043】

またサービス事業者装置120は、第1の指定情報を受信した受信機140からの要求に対応して、アプリケーションサーバー122に保存してあるアプリケーションやコンテンツをアプリケーション管理・配布121によりインターネット等の通信ネットワークを経由して、受信機140に送付する。

30

【0044】

受信機140は、デジタル放送の受信機能（第2の基本機能141）、通信制御部142、第2のセキュリティ機能143、アプリケーション管理機能144、API（API:Application Programming Interface）145、アプリケーション146、および制御部147を含み、放送局100から放送された放送信号を受信して各種放送番組および各種サービス情報を受信したり、サービス事業者装置120から通信ネットワークを経由してアプリケーションを取得して動作させたりすることができる。

40

【0045】

第2の基本機能141は、受信機の基本的な機能であり、放送局100から送られてくる放送波を受信し、放送波に含まれる符号化された映像信号（映像ストリームとも呼ぶ）、符号化された音声信号（音声ストリームとも呼ぶ）および伝送制御信号等の制御信号を分離し、映像信号および音声信号をデコードしたり伝送制御信号等の制御信号を解析したりする機能を持つ。

【0046】

また第2の基本機能141は、受信機140に接続されている周辺機器、例えば、受信機140にバインドされているHDD（Hard Disk Drive）162、リムーバブルメディア170、との接続やデータの送受信の管理も行う。

50

アプリケーション管理機能 144 は、受信機 140 が予め備えているアプリケーションや通信ネットワークを経由して取得したアプリケーションの管理を行う。またアプリケーション管理機能 144 は、受信機 140 が予め備えているアプリケーション 146 や通信ネットワークを経由して取得したアプリケーション 146 の実行を、アプリケーションインターフェース (I/F) である API 145 を介して制御する。

【0047】

通信制御部 142 は、通信ネットワークとの I/F を持ち、通信ネットワークを介してサービス事業者装置 120 が管理するアプリケーションやコンテンツを取得することができる。

表示器 160 は、スピーカ 161 を内蔵しており、第 2 の基本機能 141 においてデコードされた映像信号を表示領域に表示したり、音声信号をスピーカ 161 に出力したりする。なお、表示器 160 に内蔵されているスピーカ 161 は、USB 等の I/F により接続した外部のスピーカであってもよい。また表示器 160 は、受信機 140 に内蔵されていても、あるいは受信機 140 と HDMI (登録商標) 等の I/F により接続された外部の表示器であってもよい。

【0048】

図 2 は、放送局 200 (図 1 の 100 に対応) の主な構成を概略的に示した図である。放送局 200 は、映像エンコーダ 201、音声エンコーダ 202、字幕エンコーダ 203、ならびに伝送制御信号等の制御データ、サービスデータおよび受信機 140 で動作するアプリケーション 145 を制御するアプリケーション制御情報等を含む付属データを生成する付属データ生成部 204 を備える。また放送局 200 は、放送局サーバ 211 (図 1 の 101 に対応)、第 1 のセキュリティ機能 212 (図 1 の 102 に対応) および送受信部 213 が連携している。映像エンコーダ 201、音声エンコーダ 202、字幕エンコーダ 203、付属データ生成部 204、多重化部 205、スクランブラ 206、送信機 207、送受信部 213 を合わせて第 1 の基本機能 210 (図 1 の 103 に対応) と呼ぶ。

【0049】

映像エンコーダ 201 のコーデック種別は、MPEG-2、H.264 (MPEG-4 AVC (AVC: Advanced Video Coding))、H.265 (HEVC: High Efficiency Video Coding) のいずれでもよいものとする。またコーデック種別は、これに限るものではない。

【0050】

また多重化方式は、MPEG-2 Systems の多重化方式あるいは MMT (Mpeg Media Transport) の多重化方式の方式を用いてもよいし、両方を混在して用いてもよいものとする。また多重化方式は、これに限るものではない。

【0051】

映像エンコーダ 201、音声エンコーダ 202、字幕エンコーダ 203、付属データ生成部 204 の各出力はストリーム化されており、これらのストリームは、多重化部 205 において多重化される。多重化されたストリーム (放送信号) は、スクランブラ 206 でスクランブルされ、スクランブルされた多重化ストリームとして送信機 207 に送出され、放送電波によりアンテナから送信される。

【0052】

付属データ生成部 204 が生成する伝送制御信号は、テーブルと呼ばれる特定のフォーマットで構成されており、記述子と呼ばれる情報記述領域を持つ。

図 3 は、一実施形態に係る受信機 300 (図 1 の 140 に対応) の構成を詳細に示した図である。受信機 300 は、放送波を受信する受信機能である第 2 の基本機能 315 (図 1 の 141 に対応) を有する。

【0053】

第 2 の基本機能 315 は、放送チューナ 301、デスクランブラ 302、CAS モジュール 303、デマルチプレクサ 304、データ放送受信処理部 305、映像デコーダ 306、音声デコーダ 307、字幕デコーダ 308、解析部 309、データ放送エンジン 310

10

20

30

40

50

を含む。

【 0 0 5 4 】

放送チューナ 3 0 1 は、放送波で送られてきたストリーム（放送信号）を復調する。復調されたストリーム（放送信号）は、デスクランブラ 3 0 2 に入力される。デスクランブラ 3 0 2 は、入力されたストリームを C A S（C o n d i t i o n a l A c c e s s S y s t e m）モジュール 3 0 3 からの鍵を用いてデスクランブルする。デスクランブラ 3 0 2 によりデスクランブルされたストリームは、デマルチプレクサ 3 0 4 に入力される。

【 0 0 5 5 】

デマルチプレクサ 3 0 4 は、多重化されているストリームを映像ストリーム、音声ストリーム、データ放送ストリーム、字幕ストリーム、付属データに分離し、映像ストリームを映像デコーダ 3 0 6 に、音声ストリームを音声デコーダ 3 0 7 に、データ放送ストリームをデータ放送受信処理部 3 0 5 に、字幕ストリームを字幕デコーダ 3 0 8 に、付属データを解析部 3 0 9 にそれぞれ入力する。

10

【 0 0 5 6 】

映像ストリームは映像デコーダ 3 0 6 でデコードされ、音声ストリームは音声デコーダ 3 0 7 でデコードされ、字幕ストリームは字幕デコーダ 3 0 8 でデコードされる。

また付属データに含まれるアプリケーション制御情報、サービスデータ、伝送制御信号等を含む制御データは、解析部 3 0 9 で解析される。

【 0 0 5 7 】

またデマルチプレクサ 3 0 4 で分離されたデータ放送ストリームは、データ放送受信処理部 3 0 5 に送られ、受信処理が行われる。データ放送受信処理部 3 0 5 は、デマルチプレクサ 3 0 4 から送られてきたデータ放送ストリームから、データ放送として表示器 3 2 8 に表示する表示用信号を取り出し、この取り出した表示用信号をデータ放送エンジン 3 1 0 に入力する。データ放送エンジン 3 1 0 は、送られてきた表示用信号を解析し、合成器 3 2 6 を介して解析した内容を表示制御部 3 2 7 に出力する。表示制御部 3 2 7 は、送られてきた表示用信号の解析内容を元に、表示器 3 2 8（図 1 の 1 6 0 に対応）に表示内容を表示する。

20

【 0 0 5 8 】

デコードされた映像信号および字幕信号は、合成器 3 2 6 で合成され表示制御部 3 2 7 を介して表示器 3 2 8 に出力される。表示制御部 3 2 7 は、ガンマ特性の設定、表示画面サイズの設定、表示信号レベルの設定などを行う。

30

また音声デコーダ 3 0 7 でデコードされた音声データは、スピーカ 3 2 9（図 1 の 1 6 1 に対応）に出力される。

【 0 0 5 9 】

なお図 3 は、表示器 3 2 8 およびスピーカ 3 2 9 は、受信機 3 0 0 に内蔵されている例として記載しているが、例えば H D M I 等の I / F により接続された外部の表示器およびスピーカであってもよい。表示制御部 3 2 7 は、表示器 3 2 8 が受信機 3 0 0 に H D M I 等の I / F で接続された外部の表示器の場合も、表示器 3 2 8 に表示する内容の制御を行う。

【 0 0 6 0 】

解析部 3 0 9 は、アプリケーション制御情報、サービスデータ、制御データの解析を行い、解析結果を随時制御部 3 3 0 に送付する。

40

制御データに含まれる伝送制御信号の中には、多重化されている映像信号の番組のチャンネル識別情報と番組識別情報とが含まれ、さらにこの多重化された映像信号の番組対してアプリケーション機能を同時に提供するサービスが付加されていることを示す第 1 の指定情報が含まれている。解析部 3 0 9 は、受信した制御データを解析することでこれらチャンネル識別情報、番組識別情報、および第 1 の指定情報を抽出し、この抽出結果を随時制御部 3 3 0 に送信する。

【 0 0 6 1 】

さらに受信機 3 0 0 は、全体的な動作を制御する手段として制御部 3 3 0 を有する。制御部 3 3 0 は、第 2 のセキュリティ機能 3 2 2（図 1 の 1 4 3 に対応）、アプリケーション

50

管理機能 3 2 3 (図 1 の 1 4 4 に対応)、API 3 2 4 (図 1 の 1 4 5 に対応)、アプリケーション 3 2 5 (図 1 の 1 4 6 に対応)を含む。

【 0 0 6 2 】

第 2 のセキュリティ機能 3 2 2 は、放送波に含まれる伝送制御信号の中からコンテンツの保護に関する情報を読み出し、ネットワーク I / F 3 4 1 を介してホームネットワーク上の他の機器 (図示しない) に出力する際や、接続されている周辺機器 (図示しない、図 1 の 1 6 2、1 7 0 に対応) に出力する際にコンテンツ保護の処理を行う。API 3 2 4 は、アプリケーション管理機能 3 2 3 とアプリケーション 3 2 5 とが連携して動作するための I / F である。

【 0 0 6 3 】

アプリケーション管理機能 3 2 3 は、受信機 3 0 0 が予め備えているアプリケーションや通信ネットワークを経由して取得したアプリケーションの管理を行う。またアプリケーション管理機能 3 2 3 は、受信機 3 0 0 が予め備えているアプリケーション 3 2 5 や通信ネットワークを経由して取得したアプリケーション 3 2 5 の実行を、アプリケーションインターフェース (I / F) である API 3 2 4 を介して制御する。

【 0 0 6 4 】

なお、映像デコーダ 3 0 6 のコーデック種別は、放送チューナ 3 0 1 で受信する放送メディア、すなわち地上デジタルテレビジョン放送、BS デジタル放送、広帯域 CS デジタル放送、高度 BS デジタル放送、高度広帯域 CS デジタル放送、狭帯域 CS デジタル放送等、受信する放送に応じたコーデック種別として MPEG - 2 (地上デジタルテレビジョン放送、BS デジタル放送、広帯域 BS デジタル放送)、H. 2 6 4 (AVC: Advanced Video Coding) (狭帯域 CS デジタル放送)、H. 2 6 5 (HEVC: High Efficiency Video Coding) (高度 BS デジタル放送、高度広帯域 CS デジタル放送) のいずれでもよい。またコーデック種別は、これに限るものではない。通信制御部 3 4 0 は、通信ネットワーク 3 5 1 との I / F であるネットワーク I / F 3 4 1 と、リモートコントローラ (リモコン) 3 5 2 との I / F であるリモコン I / F 3 4 2 を持つ。

【 0 0 6 5 】

さらに制御部 3 3 0 は、解析部 3 0 9 から送られてきた暗号化された ECM、EMM から、デスクランブルに必要なスクランブル鍵 (Ks) を抽出するために、CAS モジュール 3 0 3 に対して ECM、EMM を復号するように指示を出す。CAS モジュール 3 0 3 は、制御部 3 3 0 の指示にもとづき、ECM、EMM を復号しスクランブル鍵 (Ks) を抽出する。CAS モジュール 3 0 3 は、スクランブル鍵 (Ks) を抽出すると、抽出したスクランブル鍵 (Ks) を制御部 3 3 0 に送信する。制御部 3 3 0 は、CAS モジュール 3 0 3 からスクランブル鍵 (Ks) を受信すると、受信したスクランブル鍵 (Ks) をデスクランブラ 3 0 2 に送信する。デスクランブラ 3 0 2 は、制御部 3 3 0 からスクランブル鍵 (Ks) を受信すると、受信したスクランブル鍵 (Ks) を内部に設定する。デスクランブラ 3 0 2 は、スクランブルされている放送信号をデスクランブルする際に、内部に保存してあるスクランブル鍵 (Ks) を用いてデスクランブルを行う。

【 0 0 6 6 】

なお、デスクランブルに必要なスクランブル鍵 (Ks) を抽出する過程は、図 4 A、図 4 B を用いて詳細に説明する。

図 4 A は、非特許文献 1 に記載の、限定受信方式の概念図を示したものである。

この方式は一般的には 3 重鍵方式と称されており、スクランブル鍵 (Ks) 4 0 1、ワーク鍵 (Kw) 4 0 2、マスター鍵 (Km) 4 0 3 の 3 つの鍵が利用される。

【 0 0 6 7 】

スクランブル鍵 (Ks) 4 0 1 と、ワーク鍵 (Kw) 4 0 2 と、マスター鍵 (Km) 4 0 3 は、放送局 2 0 0 が管理する鍵である。またワーク鍵 4 0 2 を用いて ECM を暗号化する暗号化部 4 0 5、マスター鍵 4 0 3 を用いて EMM を暗号化する暗号化部 4 0 6 も、放送局 2 0 0 が管理する暗号化部である。

【 0 0 6 8 】

10

20

30

40

50

一方受信機 300 に挿入されている CAS モジュール 303 は、ワーク鍵 422 を用いて ECM を復号化する復号化部 425、マスター鍵 423 を用いて EMM を復号化する復号化部 426 は、受信機 300 に挿入されている CAS モジュール 303 が管理する復号化部である。また CAS モジュール 303 から入手したスクランブル鍵 (Ks) を用いて放送波をデスクランブルするデスクランブラ 420 は、図 3 が示す受信機 300 が管理するデスクランブラ 302 である。

【0069】

放送局 200 は、スクランブル鍵 (Ks) を含む ECM 410 およびワーク鍵 (Kw) を含む EMM 411 を、各々の必要なタイミングで生成する。放送局 200 は、生成した ECM 410 および EMM 411 を、他の番組コンテンツ等と多重化し、その時点でのし放送波により送出するスクランブル鍵 (Ks) 401 を用いてスクランブラ 400 によりスクランブルし、放送波により送信する。

10

【0070】

受信機 300 は、CAS モジュール 303 より入手したスクランブル鍵 (Ks) 421 を用いて、受信した放送波をデスクランブラ 420 によりデスクランブルし、放送波に含まれている番組コンテンツをユーザに提供する。

限定受信方式の目的は、特定の放送局が放送する番組を視聴する権利を取得した加入者のみが、その放送局が放送する番組を視聴出来るようにすることである。このため、加入者の受信機 300 のみが、放送波で送られてくるスクランブル鍵 (Ks) 421 を取り出せることが必要である。

20

【0071】

ECM 410 は、放送局 200 が送信する受信機共通の関連情報である。ECM 410 は、スクランブル鍵 (Ks) を含んでいる。この ECM 410 は、ワーク鍵 (Kw) 402 を用いて暗号化部 405 により暗号化されている。

EMM 411 は、放送局 200 が送信する受信機識別単位 (CAS モジュール ID 単位) の関連情報である。EMM 411 は、ECM 410 を暗号化するのに用いるワーク鍵 (Kw) 402 を含んでいる。この EMM 411 は、マスター鍵 (Km) 403 により暗号化部 406 により暗号化されている。つまり、受信機 300 は、放送局 200 が放送するマスター鍵 (Km) と 1 対 1 に紐づけられた受信機識別単位 (CAS モジュール ID 単位) の関連情報である EMM の中から、搭載した CAS モジュール 303 から得られる CAS モジュール ID (カード ID) により自分宛での EMM を認識できれば、CAS モジュール (IC カード) に秘匿されたマスター鍵 (Km) を用いて暗号化された EMM を復号し中に含まれるワーク鍵 (Kw) を取り出すことができ、その取り出したワーク鍵 (Kw) を用いて暗号化された ECM を復号し中に含まれるスクランブル鍵 (Ks) を取り出すことができる。

30

【0072】

マスター鍵 (Km) 423 は、CAS モジュール (IC カード) に秘匿された状態で格納されている。加入者は、特定の放送局 200 が放送する番組の視聴する権利を取得する際に CAS モジュール (IC カード) 303 の識別情報である CAS モジュール ID (カード ID) を放送局に申請することで、放送局 200 は、管理する鍵管理システム (図示しない) により、申請された CAS モジュール ID (カード ID) に相対する加入者の CAS モジュール 303 のマスター鍵 (Km) 423 を判別することが可能となる。このようにして放送局 200 は、加入者の CAS モジュール 303 のマスター鍵 423 と同一のマスター鍵 403 を前述の鍵管理システムから入手することができる。

40

【0073】

つまり、放送局 200 は、加入者の申請の際に入手した情報 CAS モジュール ID (カード ID) によりマスター鍵 (Km) 403 を用いて、EMM 411 を暗号化することができる。さらに放送局 200 は、加入者の申請の際に入手した CAS モジュール ID (カード ID) の情報を、EMM 411 の非暗号化部分に設定することで、送信する EMM 411 を加入者ごとに設定することができる。

50

【 0 0 7 4 】

受信機 3 0 0 は、受信した E M M 4 1 1 の非暗号化部分にある C A S モジュール I D (カード I D) の情報から、自分宛ての E M M 4 1 1 を抽出し、抽出した自分宛ての E M M 4 1 1 を C A S モジュール 3 0 3 に送信する。E M M 4 1 1 を受信した C A S モジュール 3 0 3 は、内部に秘匿した状態で格納してあるマスター鍵 (K m) 4 2 3 を用いて E M M 4 1 1 を復号化部 4 2 6 で復号し、ワーク鍵 (K w) 4 2 2 を抽出する。さらに C A S モジュール 3 0 3 は、抽出したワーク鍵 (K w) 4 2 2 を用いて、E C M 4 1 0 を復号化部 4 2 5 で復号化し、中に含まれているスクランブル鍵 (K s) 4 2 1 を抽出する。C A S カードモジュール 3 0 3 は、抽出したスクランブル鍵 (K s) 4 2 1 を制御部 3 3 0 に送信する。スクランブル鍵 (K s) 4 2 1 を受信した制御部 3 3 0 は、受信したスクランブル鍵 (K s) をデスクランブラ 4 2 0 に送信する。制御部 3 3 0 からスクランブル鍵 (K s) を受信したデスクランブラ 4 2 0 は、受信したスクランブル鍵 (K s) を内部に設定する。

10

【 0 0 7 5 】

受信機 3 0 0 のデスクランブラ 4 2 0 は、内部に設定しているスクランブル鍵 (K s) 4 2 1 を用いて受信した放送波をデスクランブル 4 2 0 し、放送波に含まれている番組コンテンツをユーザに提供する。

先に説明したように放送局 2 0 0 は、デスクランブル対象の映像より先行して、デスクランブル対象の映像のスクランブルキー (K s) を持つ E C M を送付する。

【 0 0 7 6 】

図 4 B は、地上デジタルテレビジョン放送、B S デジタル放送、広帯域 C S デジタル放送の場合の E C M およびその中に含まれるスクランブル鍵 (K s) と、そのスクランブル鍵 (K s) を用いてデスクランブルする対象の放送信号の時間的な関係を示す図である。

20

【 0 0 7 7 】

4 4 0 は、受信機 3 0 0 が受信する番組の放送信号の時間的な遷移である。4 4 1 は、その放送信号 4 4 0 をデスクランブルするのに用いるスクランブル鍵 (K s) の時間的な遷移を示している。K s 0、K s 1、K s 2 が、放送信号をデスクランブルするのに用いるスクランブル鍵 (K s) である。放送信号をデスクランブルするのに用いるスクランブル鍵 (K s) は、2 0 0 0 m s 単位で更新される。

【 0 0 7 8 】

4 4 2 は、受信機 3 0 0 が受信した E C M およびその中に含まれるスクランブル鍵 (K s) の時間的な遷移を表している。E C M 1 は、スクランブル鍵 K s 0 と K s 1 を含んでおり、E C M 2 はスクランブル鍵 K s 1 と K s 2 を含んでおり、E C M 3 はスクランブル鍵 K s 2 と K s 3 を含んでいる。このように E C M には、O D D (奇数) 鍵と E V E N (偶数) 鍵の両方のスクランブル鍵 (K s) を格納可能である。

30

【 0 0 7 9 】

図 4 B に示すように、受信機 3 0 0 は、E C M に含まれるスクランブル鍵 (K s) を、そのスクランブル鍵 (K s) を用いてデスクランブルする対象の放送信号より 1 6 0 0 m s 先行して受信することができる。具体的には、時刻 T 1 1 から T 1 2 の 2 0 0 0 m s における放送信号は、スクランブル鍵 K s 2 を用いてデスクランブルされる。このスクランブル鍵 K s 2 は、E C M 2 の中に配置されて放送局 2 0 0 より送られてくる。

40

【 0 0 8 0 】

受信機 3 0 0 がこの E C M 2 を受信するタイミングは、T 1 1 より 1 6 0 0 m s 先行した T 2 0 のタイミングである。このように受信機 3 0 0 は、デスクランブルする対象の放送信号より先行してスクランブル鍵 (K s) を受信することで、受信した放送信号に対して遅延することなくデスクランブルすることが可能となる。

【 0 0 8 1 】

高度 B S デジタル放送、高度広帯域 C S デジタル放送における、E C M およびその中に含まれるスクランブル鍵 (K s) と、そのスクランブル鍵 (K s) を用いてデスクランブルする対象の放送信号の時間的な関係は、図 4 B におけるスクランブル鍵 (K s) の更新周

50

期を2000msから8000msに、ECMを先行して受信するタイミングを1600msから7600msに読み替えれば原理的には同一である。

【0082】

図4Cは、非特許文献2に記載の、限定受信方式の概念図を示したものである。図4Cの概念図は、図4Aと同様である。図4Cの450、451、452、453、454、455、456、460、461、470、471、472、473、474、475、476は、それぞれ図4Aの400、401、402、403、404、405、406、410、411、420、421、422、423、424、425、426に対応している。

【0083】

放送では、あまねく受信者に同じ信号が送られるために、スクランブル鍵(Ks)を長期にわたり使い続けると、スクランブル方式自体は省令告示で定められた公開方式であるので、鍵長分のすべての鍵の総当たり等でKsを解析することが可能である。このような事態が生じると、限定受信の目的を達成することができない。そのため、現状の放送においては、時間と共に変化するスクランブル鍵(Ks)が利用されている。非特許文献1では、同一のKsの使用時間を1つのECMあたり最短1秒程度と定めている。

【0084】

次に受信機300が、デスクランブルする際の基本的な動作について説明する。

図5は、非特許文献4に記載の、受信機300がデスクランブルする際の基本構成図である。

受信機500は、チューナ部501(図3の301に対応)、デスクランブラ502(図3の302に対応)、TS(Transport Stream)デコード部503(図3の304に対応)、映像・音声デコード部504(図3の306、307に対応)、表示部505(図3の327に対応)、制御部506(図3の330に対応)、キー入力部507(図3の342に対応)を含む。TSデコード部503は、送られてきたデスクランブル後の放送信号を解析して伝送制御信号を逐次抽出して、制御部506に送信する。制御部506は、TSデコード部503から送られてきた伝送制御信号をもとに、チューナ部501、デスクランブラ502、表示部505を制御することができる。また制御部506は、リモコン510からの操作入力の信号をキー入力部507を介して受け取ることができる。ICカード511(図3の303に対応)は、制御部506から与えられるコマンドにもとづきECMやEMMの処理を行い、ワーク鍵(Kw)、スクランブル鍵(Ks)を抽出することができるCASモジュールである。図5の受信機500は、チューナ部を1個搭載する場合である。

【0085】

図6は、非特許文1に記載の、図5に示した受信機500が行う限定受信処理の処理フローチャートである。

ユーザによるリモコン510操作により特定のチャンネル(service_id)が選択された場合、制御部506は、現在受信中の放送波において、当該service_idのPMT(Program Map Table)が伝送されているかを、TSデコード部503で抽出されたPAT(Program Association Table)を受信して判断する(S601)。

【0086】

判断の結果伝送されていない場合(S603のNo)、制御部506は、TSデコード部503から送られてくるNIT(Network Information Table)を参照して当該service_idが伝送されている放送波を選局するため、チューナ部501を制御する(S610)。

【0087】

制御部506は、選局した放送波に配置されたCAT(Conditional Access Table)の内部に含まれるEMMのPID(Packet Identifier)を認識し、EMMを受信する。制御部506は、受信したEMMの中から自分宛て

10

20

30

40

50

の E M M を、E M M の非暗号化部分に設定されているカード I D の情報から判断する。制御部 5 0 6 は、自分宛の E M M をカード I D の情報をもとに抽出すると、その E M M を I C カード 5 1 1 に送信する。制御部 5 0 6 から E M M を受信した I C カード 5 1 1 は、内部にもつマスター鍵 (K m) を用いて暗号化された E M M を復号し、ワーク鍵 (K w) を抽出し保存 (S 6 1 1) する。

【 0 0 8 8 】

また制御部 5 0 6 は、受信した P A T (S 6 0 5) を参照して、選局したい s e r v i c e _ i d の P M T を受信し (S 6 0 6)、受信した P M T の内部に含まれる E C M P I D を認識して E C M を受信する (S 6 0 7)。制御部 5 0 6 は、E C M を受信すると、I C カード 5 1 1 に対して E C M 受信コマンドを発行する。

10

【 0 0 8 9 】

E C M 受信コマンドを受信した I C カード 5 1 1 は、抽出済みのワーク鍵 (K w) を用いて暗号化された E C M を復号してスクランブル鍵 (K s) を取り出す (S 6 1 2)。

I C カード 5 1 1 は、スクランブル鍵 (K s) を正常に取り出すと (S 6 1 2 の Y e s)、E C M 受信コマンドに対する正常応答として、スクランブル鍵 (K s) を制御部 5 0 6 に送信する。

【 0 0 9 0 】

スクランブル鍵 (K s) を受信した制御部 5 0 6 は、受信したスクランブル鍵 (K s) をデスクランブラ 5 0 2 に送信する。デスクランブラ 5 0 2 は、受信したスクランブル鍵 (K s) を内部に設定する。

20

デスクランブラ 5 0 2 は、図 4 B に示したような必要なタイミングにおいて、設定したスクランブル鍵 (K s) を用いてチューナ部 5 0 1 から送られてくる放送信号をデスクランブルする (S 6 0 8)。

【 0 0 9 1 】

デスクランブラ 5 0 2 でデスクランブルされた放送信号に含まれる映像信号や音声信号は、T S デコード部 5 0 3 で分離された後、映像・音声デコード部 5 0 4 でデコードされる (S 6 0 9)。デコードされた映像信号や音声信号は、モニタやスピーカー (図示せず) に出力する。

【 0 0 9 2 】

非契約ないし契約済みでも E M M が未受信の状態であれば、E C M 受信コマンドの応答として、C A S モジュール (I C カード) から非契約等の E M M 未受信を意味する応答が返る (S 6 1 2 の N o)。その応答を受信した制御部 5 0 6 は、表示部 5 0 5 にて非契約などの所定のエラーメッセージを生成しモニターに表示する。

30

【 0 0 9 3 】

次に受信機 3 0 0 が、チューナ部を 2 個搭載する場合について説明する。

まずはじめに、E C M および E M M の更新周期と、C A S モジュール (I C カード) の処理の関係について説明する。

上述したように非特許文献 1 では、スクランブル鍵 (K s) の更新周期つまり E C M の更新周期は最短 1 秒程度と規定されている。

【 0 0 9 4 】

40

つまり、最大処理時間を考慮すると、非特許文献 1 準拠の C A S モジュール (I C カード) は、この 1 秒のスクランブル鍵 (K s) の更新の間に E C M と E M M の処理が可能な性能を持つ C A S モジュール (I C カード) であることが期待されることになる。

【 0 0 9 5 】

非特許文献 1 準拠の C A S モジュール (I C カード) 1 つで、複数のチャンネル (複数のチューナ) を処理するためには、スクランブル鍵 (K s) の更新周期を伸ばす方法と、C A S モジュール (I C カード) の性能を上げることにより 1 秒のスクランブル鍵 (K s) の更新周期の時間内に複数の E C M、E M M の処理を可能とする方法とが考えられる。

【 0 0 9 6 】

実際には、非特許文献 4 では下記のように解説されている。

50

「 A - 3 - 2 更新周期、

E C Mの更新周期に関しては、本編 5 . 8 . 5 E C Mの更新・再送に記載されている。I Cカードの処理能力に応じたタイミングとしては、

- ・ 1 E C Mの処理最大 8 0 0 m s を想定
- ・ 異なる E C Mの更新間隔は 1 0 0 0 m s 以上

という前提のもと、受信機仕様を想定している。本書 v e r 1 . 0 の改定に伴い、下記のことを想定して更新周期を見なおした。

- ・ B S 放送を T V 画面でみながら B S 裏番組録画が 1 枚の I C カードで処理されきる。
- ・ 同様のことが任意の B S チャンネル 2 画面同時表示も I C カードとして 1 枚で処理。

以上のことから、E C Mの更新間隔が 2 0 0 0 m s 以上であれば、異なる T S における少なくとも入力に 2 つのスクランブルサービスが 1 枚の I C カードで処理可能になる。」

つまり非特許文献 1 に準拠の C A S モジュール (I C カード) は、スクランブル鍵 (K s) の更新周期 1 秒に対しては処理が可能であるので、E C Mの更新周期を 2 秒とすることで、少なくとも 2 チャンネル (2 つのチューナ) を処理することが可能となる。

【 0 0 9 7 】

すなわち、E C Mの更新周期を 2 秒にすることで、非特許文献 1 準拠の C A S モジュール (I C カード) であれば、そのコマンド応答性能に関わらず運用規定で 2 チャンネル (2 つのチューナ) までを許容したことになる。

図 7 は、スクランブル鍵 (K s) の更新周期と E C M、E M Mの処理を概念的に示した図である。

【 0 0 9 8 】

7 0 1 非特許文献 1 準拠の C A S モジュール (I C カード) に対して期待される E C M、E M Mの処理時間を表している。非特許文献 1 準拠の C A S モジュール (I C カード) は、1 0 0 0 m s 以内に、1 つの E C Mおよび E M Mの処理を完了することが期待されている。

【 0 0 9 9 】

7 0 2 は、非特許文献 4 準拠の C A S モジュール (I C カード) が、2 つのチューナ部 (第 1 チューナ部 1 と第 2 チューナ部) を持つ受信機に挿入された場合の E C M、E M Mの処理の様子を示している。7 0 2 - 1 が第 1 チューナ部に対する E C M、E M Mの処理の様子、7 0 2 - 2 が第 2 チューナ部に対する E C M、E M Mの処理の様子である。

【 0 1 0 0 】

チューナが 2 個の場合、C A S モジュール (I C カード) は、受信機からのコマンドに従って、各々のチューナで受信した放送波に含まれる E C Mの処理、E M Mの処理をシリアルに行う。第 1 チューナに対する E C M、E M Mの処理、第 2 チューナに対する E C M、E M Mの処理は、スクランブル鍵 (K s) の更新周期である 2 秒以内に行わなければならない。

【 0 1 0 1 】

図 8 は、図 5 に示したチューナ部を 1 つ持つ場合の受信機の基本構成に対して、チューナ部を 2 つ持つ場合の、放送波をデスクランブルする際の受信機 8 0 0 の基本構成図である。図 8 の図 5 との相違点は、チューナ部が 1 つ追加され第 1 チューナ部 8 0 1 - 1 と第 2 チューナ部 8 0 1 - 2 で構成されている点、2 つのチューナ部に対応するために分配器 8 1 3 が追加されている点、内蔵の録画・記録部 8 1 2 が追加されている点である。それ以外の 8 0 2 から 8 1 0 および 8 1 1 は、図 5 の 5 0 2 から 5 1 0 および 5 1 1 と同一である。

【 0 1 0 2 】

受信機 8 0 0 は、第 1 チューナ部 8 0 1 - 1 と第 2 チューナ部 8 0 1 - 2 の 2 つチューナ部をもつことで、1 つのチューナ部で選局した番組をモニタに出力すると同時に、他のチューナ部で選局した、モニタに出力している番組とは異なる番組を録画して録画・記録部 8 1 2 に保存することが出来る。録画・記録部 8 1 2 は、例えば内蔵の H D D (ハードディスクドライブ) である。

10

20

30

40

50

【 0 1 0 3 】

モニター出力するチャンネル 1 の放送波を第 1 チューナ部 8 0 1 - 1 で選局し、同時に録画・記録部 8 1 2 で記録するチャンネル 2 の放送波を第 2 チューナ部 8 0 1 - 2 で選局する場合の処理を説明する。

ユーザによるリモコン 8 1 0 操作によりモニターに出力するチャンネル 1 (`service__id__1`) が選択された場合、制御部 8 0 6 は、現在受信中の放送波において、`service__id__1` の PMT が伝送されているかを、TS デコード部 8 0 3 で抽出された PAT を受信して判断する。

【 0 1 0 4 】

判断の結果伝送されていない場合、制御部 8 0 6 は TS デコード部 5 0 3 から送られてくる NIT を参照して `service__id__1` が伝送されている放送波を選局するため、第 1 チューナ部 8 0 1 - 1 を制御する。

制御部 8 0 6 は、選局した放送波に配置された CAT の内部に含まれる EMM の PID を認識し、EMM を受信する。制御部 8 0 6 は、受信した EMM の中から自分宛の EMM を、EMM の非暗号化部分に設定されているカード ID の情報から判断する。制御部 8 0 6 は、自分宛の EMM をカード ID の情報をもとに抽出すると、その EMM を IC カード 8 1 1 に送信する。制御部 8 0 6 から EMM を受信した IC カード 8 1 1 は、内部にもつマスター鍵 (Km) を用いて暗号化された EMM を復号し、ワーク鍵 (Kw) を抽出し保存する。

【 0 1 0 5 】

また制御部 8 0 6 は、受信した PAT を参照して、選局したい `service__id__1` の PMT を受信し、受信した PMT の内部に含まれる ECM PID を認識して ECM を受信する。制御部 8 0 6 は、ECM を受信すると、IC カード 8 1 1 に対して ECM 受信コマンドを発行する。

【 0 1 0 6 】

ECM 受信コマンドを受信した IC カード 8 1 1 は、抽出済みのワーク鍵 (Kw) を用いて暗号化された ECM を復号してスクランブル鍵 (Ks) を取り出す。

IC カード 8 1 1 は、スクランブル鍵 (Ks) を正常に取り出すと、ECM 受信コマンドに対する正常応答として、スクランブル鍵 (Ks) を制御部 8 0 6 に送信する。

【 0 1 0 7 】

スクランブル鍵 (Ks) を受信した制御部 8 0 6 は、受信したスクランブル鍵 (Ks) をデスクランブラ 8 0 2 に送信する。デスクランブラ 8 0 2 は、受信したスクランブル鍵 (Ks) を内部に設定する。

デスクランブラ 8 0 2 は、図 4 B に示したような必要なタイミングにおいて、設定したスクランブル鍵 (Ks) を用いて第 1 チューナ部 8 0 1 - 1 から送られてきた放送信号をデスクランブルする。

【 0 1 0 8 】

デスクランブラ 8 0 2 でデスクランブルされた放送信号に含まれる映像信号や音声信号は、TS デコード部 8 0 3 で分離された後、映像・音声デコード部 8 0 4 でデコードされる。デコードされた映像信号や音声信号は、モニタやスピーカー (図示せず) に出力する。

【 0 1 0 9 】

予約録画は、ユーザが電子番組表 (EPG、図示せず) 等で所望の番組の録画予約を行う。制御部 8 0 6 は、録画予約の設定内容に従い、録画予約された番組の開始時刻近傍になった時点で第 2 チューナ部 8 0 1 - 2 を制御し、録画予約したチャンネルを選局する。

【 0 1 1 0 】

制御部 8 0 6 は、選局した放送波に配置された CAT の内部に含まれる EMM の PID を認識して、EMM を受信する。制御部 8 0 6 は、受信した EMM の中から自分宛の EMM を、EMM の非暗号化部分に設定されているカード ID の情報から判断する。制御部 8 0 6 は、自分宛の EMM をカード ID の情報をもとに抽出すると、その EMM を IC カード 8 1 1 に送信する。制御部 8 0 6 から EMM を受信した IC カード 8 1 1 は、内部にもつ

10

20

30

40

50

マスター鍵 (K m) を用いて暗号化された E M M を復号し、ワーク鍵 (K w) を抽出し保存する。

【 0 1 1 1 】

また制御部 8 0 6 は、P A T を参照して、選局したい s e r v i c e _ i d _ 2 の P M T を受信し、受信した P M T の内部に含まれる E C M P I D を認識して E C M を受信する。制御部 8 0 6 は、E C M を受信すると、I C カード 8 1 1 に E C M 受信コマンドを発行する。

【 0 1 1 2 】

I C カード 8 1 1 は、1 枚の I C カード (1 つの C A S モジュール) で第 1 チューナ部 8 0 1 - 1 で選局された放送波に含まれる E C M の処理と第 2 チューナ部 8 0 1 - 2 で選局された放送波に含まれる E C M の処理の両方の処理を行う必要がある。

I C カード 8 1 1 の処理は、受信機からの要求により処理を開始するものであるが、制御部 8 0 6 と I C カード 8 1 1 との間のデータのやり取りは、制御部 8 0 6 から I C カード 8 1 1 への要求に対する、I C カード 8 1 1 から制御部 8 0 6 への応答が返るまで、制御部 8 0 6 は次の要求を I C カード 8 1 1 に送信できないルールになっている。

【 0 1 1 3 】

このため制御部 8 0 6 は、T S デコード部から連続して E C M を受信した場合、E C M の再送周期等を鑑みて、E C M の処理を要求するタイミングを調整して、処理を要求する E C M 受信コマンドを発行する。

また E M M の処理においても同様に、I C カード 8 1 1 は、第 1 チューナ部 8 0 1 - 1 で選局した放送波に含まれる E M M の処理と、第 2 チューナ部 8 0 1 - 2 で選局した放送波に含まれる E M M の処理の両方の処理を行う必要があるため、制御部 8 0 6 は、各々の E M M の処理を要求するタイミングを、E C M の処理を要求するタイミングとも重複しないように調整して I C カード 8 1 1 に対して、コマンドを発行する。

【 0 1 1 4 】

I C カード 8 1 1 は、第 1 チューナ部 8 0 1 - 1 で選局した放送波に含まれる E C M を処理する時点では、既に契約済みの E M M を受信済みであり、その受信した E M M の中からワーク鍵 (K w) を抽出済みであれば、そのワーク鍵 (K w) を用いて、処理を要求された E M C を復号化しスクランブル鍵 (K s) を抽出することができる。I C カード 8 1 1 は、E M C を復号化しスクランブル鍵 (K s) を抽出できると、制御部 8 1 1 に対して E C M 受信コマンドの正常応答として、スクランブル鍵 (K s) を制御部 8 0 6 に送信する。

【 0 1 1 5 】

スクランブル鍵 (K s) を受信した制御部 8 0 6 は、受信したスクラブル鍵 (K s) をデスクランブラ 8 0 2 に送信する。デスクランブラ 8 0 2 は、受信したスクランブル鍵 (K s) を内部に設定する。デスクランブラ 8 0 2 は、設定したスクランブル鍵 (K s) を用いて第 2 チューナ部 8 0 1 - 2 で選局した放送波をデスクランブルする。デスクランブルされた放送波は、T S デコード部 8 0 3 でデコードし、録画・記録部 8 1 2 に所定の記録用フォーマット (例えば機器バインドの固有鍵にて暗号化した T S フォーマット) に変換して記録される。

【 0 1 1 6 】

録画・記録部 8 2 1 に保存されている録画した番組を再生する場合は、録画・記録部 8 2 1 に保存されている記録用フォーマットを、T S デコード部 8 0 3 でデコードされたフォーマットに戻し、映像・音声デコード部 8 0 4 においてモニターに出力する。

さらに受信機は、3 個以上のチューナを搭載することができる。

【 0 1 1 7 】

受信機が 3 個以上のチューナを搭載する場合、例えば視聴中の番組以外に同時に異なる 2 チャンネルを録画可能ないわゆる W 裏録機能に対応させる場合には、E C M の処理、E M M の処理が煩雑になる。

C A S モジュール (I C カード) 1 つで 2 チャンネルまでの対応が可能とした場合、3 つのチューナを確実に処理する場合には、C A S モジュール (I C カード) を 2 つ搭載する

10

20

30

40

50

必要がある。

【 0 1 1 8 】

図 9 は、図 8 に示したチューナを 2 つ持つ場合の受信機の基本構成に対して、チューナを 3 つ持つ場合の、放送波をデスクランブルする際の受信機 9 0 0 の基本構成図である。

図 9 の図 8 との相違点は、第 3 チューナ部 9 0 1 - 3 が追加されている点と、IC カードが 1 つ追加され第 1 IC カード 9 1 1 - 1 と第 2 IC カード 9 1 1 - 2 で構成されている点である。それ以外の 9 0 2 から 9 1 0 と 9 1 2 は、図 8 の 8 0 2 から 8 1 0 と 8 1 2 と同一である。

【 0 1 1 9 】

モニター出力するチャンネル 1 の放送波を第 1 チューナ部 9 0 1 - 1 で選局し、同時に録画・記録部 9 1 2 で記録するチャンネル 2 の放送波を第 2 チューナ部 9 0 1 - 2 で選局し、同時に録画・記録部 9 1 2 で記録するチャンネル 3 の放送波を第 3 チューナ部 9 0 1 - 3 で選局する場合の処理を説明する。

【 0 1 2 0 】

ユーザによりリモコン 8 1 0 操作によりモニターに出力するチャンネル 1 (service__id__1) が選択された場合、制御部 9 0 6 は、現在受信中の放送波において、service__id__1 の PMT が伝送されているかを、TS デコード部 9 0 3 で抽出された PAT を受信して判断する。

【 0 1 2 1 】

判断の結果伝送されていない場合、制御部 9 0 6 は TS デコード部 9 0 3 から送られてくる NIT を参照して service__id__1 が伝送されている放送波を選局するため、第 1 チューナ部 9 0 1 - 1 を制御する。

制御部 9 0 6 は、選局した放送波に配置された CAT の内部に含まれる EMM の PID を認識して、EMM を受信する。制御部 9 0 6 は、受信した EMM の中から自分宛の EMM を、EMM の非暗号化部分に設定されているカード ID の情報から判断する。制御部 9 0 6 は、自分宛の EMM をカード ID の情報をもとに抽出すると、その EMM を予め決められた第 1 IC カード 9 1 1 - 1 あるいは第 2 IC カード 9 1 1 - 2 のいずれかに送信する。制御部 9 0 6 から EMM を受信した第 1 IC カード 9 1 1 - 1 あるいは第 2 IC カード 9 1 1 - 2 は、内部にもつマスター鍵 (Km) を用いて暗号化された EMM を復号し、ワーク鍵 (Kw) を抽出し保存する。

【 0 1 2 2 】

また制御部 9 0 6 は、受信した PAT を参照して、選局したい service__id__1 の PMT を受信し、受信した PMT の内部に含まれる ECM PID を認識し、ECM を受信する。制御部 9 0 6 は、ECM を受信すると、予め決められた第 1 IC カード 9 1 1 - 1 あるいは第 2 IC カード 9 1 1 - 2 のいずれかに対して ECM 受信コマンドを発行する。

【 0 1 2 3 】

ECM 受信コマンドを受信した第 1 IC カード 9 1 1 - 1 あるいは第 2 IC カード 9 1 1 - 2 は、抽出済みのワーク鍵 (Kw) を用いて暗号化された ECM を復号してスクランブル鍵 (Ks) を取り出す。

第 1 IC カード 9 1 1 - 1 あるいは第 2 IC カード 9 1 1 - 2 は、スクランブル鍵 (Ks) を正常に取り出すと、ECM 受信コマンドに対する正常応答として、スクランブル鍵 (Ks) を制御部 9 0 6 に送信する。

【 0 1 2 4 】

スクランブル鍵 (Ks) を受信した制御部 9 0 6 は、受信したスクランブル鍵 (Ks) をデスクランブラ 9 0 2 に送信する。デスクランブラ 9 0 2 は、受信したスクランブル鍵 (Ks) を内部に設定する。デスクランブラ 9 0 2 は、図 4 B に示したような必要なタイミングにおいて、設定したスクランブル鍵 (Ks) を用いて第 1 チューナ部 9 0 1 - 1 から送られてきた放送信号をデスクランブルする。

【 0 1 2 5 】

10

20

30

40

50

デスクランブラ 9 0 2 でデスクランブルされた放送信号に含まれる映像信号や音声信号は、TSデコード部 9 0 3 で分離された後、映像・音声デコード部 9 0 4 でデコードされる。デコードされた映像信号や音声信号は、モニタやスピーカー（図示せず）に出力する。

【0126】

予約録画は、ユーザが電子番組表（EPG、図示せず）等で同時刻に異なる2チャンネルの所望の番組録画予約を行っており、制御部 9 0 6 は、録画予約の設定内容に従い、その番組の開始時刻近傍になった時点で、第2チューナ部 9 0 1 - 2、および第3チューナ部 9 0 1 - 3 を制御して、録画予約したチャンネルを選局する。

【0127】

制御部 9 0 6 は、選局した放送波に配置されたCATの内部に含まれるからEMMのPIDを認識して、EMMを受信する。、制御部 9 0 6 は、受信したEMMの中から自分宛のEMMを、EMMの非暗号化部分に設定されているカードIDの情報から判断する。制御部 9 0 6 は、自分宛のEMMをカードIDの情報をもとに抽出すると、そのEMMを予め決められた第1ICカード 9 1 1 - 1 あるいは第2ICカード 9 1 1 - 2 に送信する。制御部 9 0 6 からEMMを受信した第1ICカード 9 1 1 - 1 あるいは第2ICカード 9 1 1 - 2 は、内部にもつマスター鍵（Km）を用いて暗号化されたEMMを復号し、ワーク鍵（Kw）を抽出し保存する。

【0128】

また制御部 9 0 6 は、PATを参照して、選局したいservice_id_2のPMTを受信し、受信したPMTの内部に含まれるECM PIDを認識し、ECMを受信する。制御部 9 0 6 は、ECMを受信すると、予め決められた第1ICカード 9 1 1 - 1 あるいは第2ICカード 9 1 1 - 2 にECM受信コマンドを発行する。

【0129】

ICカード 9 1 1 - 1 および 9 1 1 - 2 は、1つのICカードで2つのチャンネルまでの同時処理が運用規定により担保されているため、予め、第1チューナ部 9 0 1 - 1、第2チューナ部 9 0 1 - 2、及び第3チューナ部 9 0 1 - 3 とCAS処理を行うCASモジュールである第1ICカード 9 1 1 - 1 および第2ICカード 9 1 1 - 2 の対応関係を、ユーザインタフェース等の設定画面にて設定しておく必要がある（図示せず）。

【0130】

例えば、第1チューナ部 9 0 1 - 1 と第2チューナ部 9 0 1 - 2 を第1ICカード 9 1 1 - 1 で処理し、第3チューナ部 9 0 1 - 3 を第2ICカード 9 1 1 - 2 で処理するよう対応付けているものとする。この場合、第1ICカード 9 1 1 - 1 のカードIDの情報で有料放送として提供されるチャンネルA、B、Cを視聴する権利を取得するために加入契約をし、第2ICカード 9 1 1 - 2 のカードIDの情報で有料放送として提供されるチャンネルD、E、Fを視聴する権利を取得するために加入契約をした場合には、例えば、チャンネルCを見ながら、チャンネルAとFを同時録画する場合には、第1チューナ部 9 0 1 - 1 でチャンネルCを、第2チューナ部 9 0 1 - 2 でチャンネルAを、第3チューナ部 9 0 1 - 3 でチャンネルFを選局するようにすれば、契約した有料放送のチャンネルと第1ICカード 9 1 1 - 1 および第2ICカード 9 1 1 - 2 の対応がとれる。

【0131】

しかしながら、第3チューナ部 9 0 1 - 3 でチャンネルAの放送波を処理しようとした場合には、チャンネルAの放送波を視聴する契約を第2ICカード 9 1 1 - 2 では契約していないため、第2ICカード 9 1 1 - 2 ではチャンネルAを視聴する契約情報を含んだEMMを抽出することができず、その結果チャンネルAの放送波をデスクランブルすることができない。また、1つのICカード（CASモジュール）で異なる3チャンネル（例えばチャンネルA、B、C）を契約してEMMを受信していた場合に、異なる時間に、これら3チャンネルいずれか1つを視聴ないし録画することは可能だが、チャンネルAを見ながらチャンネルB、Cを同時録画という同時処理を行う場合も考えられる。しかし先に述べたように、非特許文献4に記載のように、1つのICカードで2つのチャンネル（チューナ）のTSの処理までしか同時処理ができない、という制限状態であると、1つのIC

10

20

30

40

50

カードで異なる 3 チャンネルの T S を同時に処理することができないなどの不具合がある。

【 0 1 3 2 】

そこで本実施形態では、主要なポイントとして次のことに着目している。

本実施形態では、ユーザの利便性のために複数のチューナを搭載した受信機において、複数のチューナと複数の I C カードの紐付け関係の設定をユーザが行う負担の軽減やコスト削減のため、極力少ない I C カード (C A S モジュール) で処理可能とするためのルール作りを行う。

【 0 1 3 3 】

そのため例えば、1つの C A S モジュール (I C カード) であっても、同時受信処理可能なチューナ数を厳密に検討できることが重要である。

10

【 0 1 3 4 】

本実施形態における要点の概要をまとめると以下のように記述することができる、

(1) . アクセス制御方式 (限定受信方式ないしコンテンツ保護方式) を運用する放送において、 E C M の再送周期、更新周期、かつ 1 事業体あたりに同一受信機 (C A S モジュール I D) 宛てに送出する E M M 及び又は E M M 個別メッセージの送出頻度を規定したデジタル放送送受信装置。

【 0 1 3 5 】

(1 b) . 1 つの C A S モジュール I D 宛に送られる E M M 及び又は E M M 個別メッセージのうち、 E M M を受信後から C A S モジュールに対して行うコマンドの発行までの猶予期間における、処理が必要な最小の E M M 個数を規定したデジタル放送送受信装置。

20

【 0 1 3 6 】

(2) . アクセス制御方式 (限定受信方式ないしコンテンツ保護方式) を運用する放送において、同時に 2 つを超える受信視聴ないし録画・記録を行う際に、 E C M の再送周期、更新周期、かつ 1 事業体あたりに同一受信機 (C A S モジュール I D) 宛てに送出する E M M 及び又は E M M 個別メッセージの送出頻度が設定されており、当該受信機宛ての E M M 及び又は E M M 個別メッセージを受信してから C A S モジュールにコマンド発行するまでの猶予期間における、搭載した複数チューナの各々の E M M 及び又は E M M 個別メッセージ処理を前記 E M M 及び又は E M M 個別メッセージ送出頻度から C A S モジュールへの発行スケジュールを制御するデジタル放送受信装置。

【 0 1 3 7 】

30

(2 b) . アクセス制御方式 (限定受信方式ないしコンテンツ保護方式) を運用する放送において、同時に 2 つを超える受信視聴ないし録画・記録を行う際に、 E C M の再送周期、更新周期、かつ 1 事業体あたりに同一受信機 (C A S モジュール I D) 宛てに送出する E M M 及び又は E M M 個別メッセージを受信してから C A S モジュールにコマンド発行するまでの猶予期間における、処理が必要な E M M 及び又は E M M 個別メッセージの個数から C A S モジュールへの発行スケジュールを制御するデジタル放送受信装置。

【 0 1 3 8 】

(3) . アクセス制御方式 (限定受信方式ないしコンテンツ保護方式) を運用する放送において、1事業体あたりに同一受信機 (C A S モジュール I D) 宛てに送出する E M M 及び又は E M M 個別メッセージの送出を、所定の頻度で送出するように制御するデジタル放送送信装置。

40

【 0 1 3 9 】

(4) . 上記 (1) . の記載内容において、1つの C A S モジュール I D 宛の E M M 及び又は E M M 個別メッセージの送出頻度を、 E M M を受信してから C A S モジュールにコマンド発行するまでの猶予期間における、送信する E M M の個数で規定したデジタル放送送受信装置。

【 0 1 4 0 】

(5) . 上記 (1) . の記載内容において、1つの C A S モジュール I D 宛の E M M 及び又は E M M 個別メッセージの送出頻度を、 E C M ないしスクランブル鍵の更新周期あたりに送信する E M M 及び又は E M M 個別メッセージの個数で規定したデジタル放送送受信装

50

置。

【 0 1 4 1 】

(6) . 上記 (1) . の記載内容において、 1 つの C A S I D 宛の E M M 及び又は E M M 個別メッセージの送出頻度を、 E M M 及び又は E M M 個別メッセージを受信してからに C A S モジュールに対して行うコマンドの発行までの猶予期間における、送信する E M M 及び又は E M M 個別メッセージの個数、かつ E C M ないしスクランブル鍵の更新周期あたりに送信する E M M 及び又は E M M 個別メッセージの個数で規定したデジタル放送受信装置。

【 0 1 4 2 】

(7) . 上記 (2) . の記載内容において、 C A S モジュールへの発行スケジュールの制御を、当該 C A S モジュール宛ての E M M 及び又は E M M 個別メッセージを受信してからに C A S モジュールに対して行うコマンドの発行までの猶予期間において、送信する E M M 及び又は E M M 個別メッセージの個数で制御するデジタル放送受信装置。

10

【 0 1 4 3 】

(8) . 上記 (2) . の記載内容において、 C A S モジュールへの発行スケジュールの制御を、当該 C A S モジュール宛ての E M M 及び又は E M M 個別メッセージを受信してからに C A S モジュールに対して行うコマンドの発行までの猶予期間において、 E C M ないしスクランブル鍵の更新周期あたりに送られる E M M 及び又は E M M 個別メッセージの個数で制御するデジタル放送受信装置。

【 0 1 4 4 】

(9) . 上記 (2) . の記載内容において、 C A S モジュールへの発行スケジュールの制御を、当該 C A S モジュール宛ての E M M 及び又は E M M 個別メッセージを受信してから C A S モジュールに対して行うコマンドの発行までの猶予期間において、送信する E M M の個数、かつ E C M ないしスクランブル鍵の更新周期あたりに送られる E M M 及び又は E M M 個別メッセージの個数で制御するデジタル放送受信装置。

20

【 0 1 4 5 】

(1 0) . 上記 (3) . の記載内容において、同一受信機宛てに送出する E M M / E M M 個別メッセージの送出頻度を、当該 C A S モジュール宛ての E M M 及び又は E M M 個別メッセージを受信してからに C A S モジュールに対して行うコマンドの発行までの猶予期間において、送信する E M M 及び又は E M M 個別メッセージの個数で制御するデジタル放送受信装置。

30

【 0 1 4 6 】

(1 1) . 上記 (3) . の記載内容において、同一受信機宛てに送出する E M M 及び又は E M M 個別メッセージの送出頻度を、 E C M ないしスクランブル鍵の更新周期あたりに送信する E M M 及び又は E M M 個別メッセージの個数で制御するデジタル放送受信装置。

【 0 1 4 7 】

(1 2) . 上記 (3) . の記載内容において、同一受信機宛てに送出する E M M 及び又は E M M 個別メッセージの送出頻度を、当該 C A S モジュール宛ての E M M / E M M 個別メッセージを受信してから C A S モジュールに対して行うコマンドの発行までの猶予期間において、送信する E M M の個数、かつ E C M ないしスクランブル鍵の更新周期あたりに送られる E M M 及び又は E M M 個別メッセージの個数で制御するデジタル放送受信装置。

40

【 0 1 4 8 】

次に、本実施形態が有用な機能を発揮することを、その背景から説明する。

従来の標準規格、運用規定上では、 1 つの C A S モジュール (I C カード) において異なる 2 チューナの同時処理を可能とするには以下を考慮する必要がある。そのため 3 チューナ以上の搭載受信機を想定する場合には、従来の標準規格、運用規格に加えて、搭載する C A S モジュール (I C カード) の E C M や E M M 等の C A S モジュール (I C カード) とのコマンド・応答に要する性能を把握する必要がある。

【 0 1 4 9 】

しかし、この C A S モジュール (I C カード) の E C M や E M M のコマンド応答性能と E

50

C Mの送出頻度、更新周期、およびE M Mを受信後処理までの猶予期間を決めても厳密にいくつまでのチューナ処理が可能かの詳細な検討が困難である。

一般的にE C Mは数秒おきに更新するため、再送周期が1 0 0 m s 毎に送られても、複数チューナを搭載する場合にはE C M処理を優先せざるを得ない。

【0 1 5 0】

一方E M Mは、E C Mに比べて即時処理を必要としない属性のものであるが、場合によってはE C Mほどの即時性はないものの、可及的速やかな処理を要する場合がある。例えば、
(a) 特定の放送局(事業体) が放送する番組を視聴する権利を取得したい視聴者 A が、加入に関する手続きや加入時のトラブル対応を、加入する放送局(事業体) のカスタマーセンターに電話して、電話の案内に従って自受信機で当該放送局のチャンネルを選局し、
視聴者 A の受信機のカード I D 番号を告げる

10

(b) 視聴者 A は、例えば電話を掛けたままの状態、放送局(事業体) は、電話で告げられたカード I D 番号を設定したE M Mを即時送信する

(c) 視聴者 A の受信機がE M Mを受信し、スクランブル鍵(K s)を取り出せれば、当該チャンネルの放送信号をデスクランブルすることが可能となる(いわゆる鍵明けが可能となる)

(d) これにより、視聴者 A は、契約手続きの完了を確認できる、
上記(a) から(d) のシーンのような場合は、E M M処理もE C Mほどの即時性はないものの、可及的速やかな処理を要する場合があることは現実である。

【0 1 5 1】

20

このように事業体と視聴者が電話をしながら、視聴者が受信機の受信状態を確認しながら、視聴契約手続きを行う場合、受信機でE M Mの受信をミスする場合も想定される。そこで放送局(事業体) は、受信機がE M Mの受信をミスする場合を想定して、同一のカード I D を設定したE M Mを、一定時間バースト的に送信することも想定される。

【0 1 5 2】

E C Mは、スクランブル鍵(K s)の更新に合わせて、同一K s を使用する期間内で少なくとも1 つを受信するように受信機がE C Mの受信制御してもよいが、E M Mは、契約の可否等を制御するものであるため、受信機がE M Mの受信制御せず、自分宛てに送信されたE M Mは全て受信して、その受信したE M Mを全てC A S モジュール(I C カード) に送信して処理を依頼することが基本であると考えられている。

30

【0 1 5 3】

よって、受信機がE M Mを受信後に、一定期間の猶予を持ってC A S モジュール(I C カード) に対して処理することが望まれる。このためA R I B 規格では、C A S モジュール提供者よりC A S モジュール(I C カード) の応答性能が示されたことに併せて、受信機がE M Mを受信した後にC A S モジュール(I C カード) に対してE M M受信コマンド発行を行うまでの猶予期間が規定された。

【0 1 5 4】

この規定によると、E M Mは同一C A S モジュール(I C カード) 宛てに送る頻度が低いという前提では、実質上さほど問題は起きにくい、前述のように電話での鍵明けなどが行われる場合には、E M Mを短時間で複数送ることも想定される。

40

最近では、チューナの搭載数も増え、多チャンネル録画機能を搭載した受信機や、さらに非特許文献5の 第一部 第五編 付録7に高度広帯域B S ・C S 放送用(いわゆる4 K 8 K 放送) C A S と現行の広帯域衛星放送(いわゆる2 K 放送) のC A S を一体のC A S モジュールに搭載することがあり得る規定が行われた。

【0 1 5 5】

付録7において以下の記載がある、

「付録7 現行放送と高度B S デジタル放送の共用受信機について

高度B S デジタル放送の受信とA R I B T R - B 1 5 に規定されるB S デジタル放送 / 広帯域C S デジタル放送若しくはA R I B T R - B 1 4 に規定される地上デジタルテレビジョン放送の少なくともいずれかの受信が可能な共用受信時において、B S デジタル放

50

送ノ広帯域CSデジタル放送、地上デジタルテレビジョン放送の受信に同じCASモジュールを適用する際の規定を以下に示す。」とある。

【0156】

しかし、現行の広帯域衛星放送（いわゆる2K放送）を受信する受信機において搭載チューナ数が多い場合や、また高度広帯域衛星放送（いわゆる4K8K放送）と現行放送（いわゆる2K放送）を受信する受信機が1つのCASモジュール（ICカード）で多数のチャンネルを受信し処理する場合は、今後十分あり得る。

【0157】

このような状況で、非特許文献5と、非特許文献3および非特許文献4において、ECM（スクランブル鍵（Ks））の更新周期の違いや、また高度広帯域衛星放送（いわゆる4K8K）と現行放送（いわゆる2K）との間でECMやEMM応答性能が異なった場合には、受信機でのECMやEMMの処理に関して厳密なタイミング制御の検討が必須となる。

10

【0158】

しかし現状のEMMに関する規定のみでは、各種の放送方式に対応できる、また多数のチューナを搭載した受信機を得るには、ECM、EMMの処理に関するタイミング制御の検討が困難である。

そこで、本実施形態では、例えば先の(1)～(12)に記載したようにEMMの送信頻度を規定することにより、ECM、EMMの受信処理タイミングを厳密に設定することが可能となり、搭載チューナ数の仕様決定、またEMMの取りこぼし等の予期せぬ不具合を未然に防ぐことが可能となる。

20

【0159】

図4Aに示す3重鍵構造の限定受信方式において、送出側の技術規定としてECMの更新周期を2000ms、再送周期を100msという規定内容に加え、“EMMを1事業体あたりに1つのCASモジュールIDに対して、30秒間で1つ送信する”という規定の内容を新たに加えたとする。

【0160】

図10は、限定受信方式におけるECM、EMM、スクランブル鍵（Ks）の時間的な関係を示した図である。

上記条件においては、ECMの更新が2000msであることから、放送番組をスクランブルする鍵（Ks）も2000msで更新される。

30

なお、ECMに含まれるスクランブル鍵（Ks）と、含まれているスクランブル鍵（Ks）を用いて、放送信号をデスクランブルするスクランブル鍵（ks）の時間的な関係の詳細は、図4Bに示した通りである。

【0161】

図11は非特許文献3第五編図5.8-1に記載の、送信側がスクランブル鍵（Ks）を含むECMを送信するタイミングと、ECMに含まれるスクランブル鍵（Ks）を用いてデスクランブルする映像信号を送信するタイミングを図示したものである。横軸は、時間軸である。

【0162】

送信側は、例えば放送局である。1101が、スクランブル鍵（Ks）を含むECMを送出している時間的な遷移を示している。1102が、ECMに含まれるスクランブル鍵（Ks）を用いてデスクランブルされる映像信号の時間的な遷移を示している。

40

T1+T2の区間が、同一のECMが送出される区間である。T3の区間が、T1+T2の区間で送られてきたECMに含まれるスクランブル鍵（Ks）を用いてデスクランブルされる映像信号が送信される区間である。スクランブル鍵（Ks）を含むECMは、ECMに含まれるスクランブル鍵（Ks）を用いてデスクランブルされる映像信号よりT1（=1600ms）先行して、放送局から送信される。

【0163】

図11に示す送出ルールに従う送受信系での受信機の限定受信の実装例を以下に示す。

図12は、図11に示す送出ルールに従う送受信系での受信機の限定受信の実装例である

50

。1201は、受信した番組の時間的な遷移である。受信した番組1201は、時刻T11まではKs0でスクランブルされ、時刻T11からT12の間はKs1でスクランブルされ、時刻T12からT13の間はKs2でスクランブルされ、時刻T13からT14の間はKs3でスクランブルされていることを示している。

【0164】

1202は、受信したECMの時間的な遷移である。ECM2は、時刻T21のタイミングで受信機され、そのECMにはスクランブル鍵(Ks)であるKs1とKs2が含まれていることを示している

上記受信機は、番組を視聴中に、時刻T21でECM2を受信しCASモジュール(ICカード)に対しコマンド発行する。CASモジュール(ICカード)は、区間T21から区間T12の時刻の間にECMの処理を済ませる。CASモジュール(ICカード)は、ECMの処理により得られたスクランブル鍵Ks2を受信機に送信し、受信機はMULTI2方式のデスクランブラにセットして、時刻T12からKs2を用いてスクランブルされた番組をデスクランブルする。

【0165】

また、区間T22からT13の間に他のチャンネルから切り換わった場合、受信機はECM3を受信し、CASモジュール(ICカード)にコマンド発行する。

受信機は、ECM3で伝送されるKs3をCASモジュール(ICカード)からの応答で得ることでデスクランブルを可能とする。

【0166】

図7に示したように非特許文献1準拠のCASモジュール(ICカード)は、ECM、EMMの処理の合計値が1000ms以内に可能であることが期待されている。

受信機に搭載したCASモジュール(ICカード)の性能として、例えば、ECM処理時間を385ms、EMM処理時間を500msとした場合、何個のチューナが1つのCASモジュール(ICカード)で処理可能かは、以下の検討を経て可能となる。

【0167】

区間T21からT12の間で自受信機宛てのEMMを受信した場合を想定すると、T21の時点でEMM処理は行っていないため、受信機は区間T21からT12の間の1600msではECMは4個処理可能である(図12のケース1)。

つまりこの状態のみであれば、CASモジュール(ICカード)は4チューナまで処理可能と思える。

【0168】

次に受信機が、時刻T21~T12の間で受信したEMMの処理を、もし時刻T12より開始した場合、CASモジュール(ICカード)はEMMの処理に500ms要するため、受信機は、CASモジュール(ICカード)からの4つのECMの処理完了の通知を受け取るタイミングが、次のスクランブル鍵Ks3を用いてデスクランブルを開始する時刻T22の時刻を100ms超えてしまう。つまり受信機は、このT12のタイミングEMMの処理を開始した場合、ECMの処理を終えなければならないT13までは1500msであり、ECMは3個までしか処理できない(図12のケース2)。

【0169】

次に受信機が、ECMの更新タイミングであるT23でEMMを受信し処理を開始した場合には、区間T23からT14の間は残り1100msであり、ECMは2個まで処理可能である(図12のケース3)。つまり以上の前提では、1つのCASモジュール(ICカード)で処理可能なチューナは2チューナまでであることが検討可能となる。

【0170】

以上はCASモジュール(ICカード)の性能とEMM処理猶予期間での1事業体あたりのEMM送出頻度の実施例を述べた。次に受信機で2個を超えるチューナを1つのCASモジュール(ICカード)で処理する場合の実施例を説明する。

図13は、図5に示した非特許文献4の第五編 図4・1-1で示された受信機の基本構成に対して、チューナ部を3個に増やし、および録画・記録部を追加した構成図である。

10

20

30

40

50

【 0 1 7 1 】

図 1 3 と図 5 の相違点は、チューナ部が 2 つ追加され第 1 チューナ部 1 3 0 1 - 1 と第 2 チューナ部 1 3 0 1 - 2 と第 3 チューナ部 1 3 0 1 - 3 で構成されている点、3 つのチューナ部に対応するために分配器 1 3 1 3 が追加されている点、内蔵の録画・記録部 1 3 1 2 が追加されている点である。それ以外の 1 3 0 2 から 1 3 1 1、図 5 の 5 0 2 から 5 1 1 と同一である。

【 0 1 7 2 】

3 個のチューナ部は、地上デジタルテレビジョン放送、B S デジタル放送、広帯域 C S デジタル放送のいずれか、または 3 波選局可能なチューナでもよく、受信機の仕様として任意の 3 つのチャンネルを視聴または録画・記録できるものとする。

10

ここで用いる I C カード 1 3 1 1 (C A S モジュール) は 1 つで 3 チューナの処理ができる E C M、E M M の応答性能を有するものとする。例えば I C カード 1 3 1 1 の応答性能が、E C M の応答性能を 3 0 0 m s、E M M の応答性能を 5 0 0 m s とする。受信機 1 3 0 0 は、E M M 受信後 I C カード 1 3 1 1 に対し E M M 処理が必要な猶予期間内に、1 事業体あたり 1 個の E M M を送信したとする。

【 0 1 7 3 】

図 1 4 は、図 1 3 に示した基本構成の受信機の限定受信の実装例である。

1 4 0 1 は、受信した番組の時間的な遷移である。受信した番組 1 4 0 1 は、時刻 T 1 1 までは K s 0 でスクランブルされ、時刻 T 1 1 から T 1 2 の間は K s 1 でスクランブルされ、時刻 T 1 2 から T 1 3 の間は K s 2 でスクランブルされ、時刻 T 1 3 から T 1 4 の間は K s 3 でスクランブルされていることを示している。1 4 0 2 は、受信した E C M の時間的な遷移である。

20

【 0 1 7 4 】

図 1 4 の例で、K s 2 を含む E C M 更新タイミング T 2 1 の時点から、放送コンテンツのスクランブル鍵が K s 2 に切り替わる T 1 2 までの 1 6 0 0 m s の間に、図 1 3 の 3 つのチューナである第 1 チューナ部 1 3 0 1 - 1、第 2 チューナ部 1 3 0 1 - 2、第 3 チューナ部 1 3 0 1 - 3 で選局されているチャンネルの各々の E C M と、少なくともいずれか 1 つのチャンネルの E M M が処理可能である。

【 0 1 7 5 】

図 1 4 に示すように、時刻 T 2 1 から T 1 2 の間で第 1 チューナ部 1 3 0 1 - 1 で受信した E M M を処理し、時刻 T 2 2 から T 1 3 の間で第 2 チューナ部 1 3 0 1 - 2 で受信した E M M を処理し、時刻 T 2 3 から T 1 4 の間で第 3 チューナ部 1 3 0 1 0 - 3 で受信した E M M を処理すればよい。つまりこの事例では I C カード 1 3 1 1 の E C M、E M M の処理時間の合計が

30

$$(E C M \text{ 応答処理時間} = 300 \text{ m s}) \times (3 \text{ チューナ}) + (E M M \text{ 応答処理時間} = 500 \text{ m s}) = 1400 \text{ m s} \quad 1600 \text{ m s}$$

である I C カード 1 3 1 1 においては、3 つのチューナに対して処理可能であることになる。

【 0 1 7 6 】

図 1 3 に示す受信機において、ユースケースとして、ある放送を視聴しながら、異なる 2 つの番組を録画（いわゆる W 裏録）する場合について説明する。

40

ユーザによるリモコン 1 3 1 0 操作によりチャンネル 1 (s e r v i c e _ i d _ 1) が選択された場合、制御部 1 3 0 6 は、現在受信中の放送波において、当該 s e r v i c e _ i d の P M T が伝送されているかを T S デコード部 1 3 0 3 で抽出された P A T 受信して判断する。

【 0 1 7 7 】

判断の結果伝送されていない場合、制御部 1 3 0 6 は、T S デコード部 1 3 0 3 から送られてくる N I T を参照して当該 s e r v i c e _ i d _ 1 が伝送される放送波を選局するため、第 1 チューナ部 1 3 0 1 - 1 を制御する。

制御部 1 3 0 6 は、第 1 チューナ部 1 3 0 1 - 1 で選局した放送波に配置された C A T が

50

ら EMM の P I D を認識して、EMM を受信する。制御部 1306 は、受信した EMM の中から自分宛の EMM を、EMM の非暗号化部分に設定されているカード I D の情報から判断する。制御部 1306 は、自分宛の EMM をカード I D の情報をもとに抽出すると、その EMM を I C カード 1311 に送信する。

【0178】

なお、制御部 1306 が、EMM を I C カード 1311 に送るタイミングは、図 14 に示したようなタイミングである。制御部 1306 は、I C カード 1311 に EMM を送る適切なタイミングになるまで、受信した EMM を一時的に保存する。

制御部 1306 から EMM を受信した I C カード 1311 は、内部にもつマスター鍵 (K m) を用いて暗号化された EMM を復号し、ワーク鍵 (K w) を抽出し保存する。

10

【0179】

また、予めユーザ操作により番組表 (図示せず) を用いて、第 1 チューナ部 1301 - 1 で選局されモニタに出力しているチャンネルとは異なる、同時刻帯に放送予定の 2 つのチャンネルの番組 A, B を録画予約しておく。

制御部 1306 は、録画予約する際、予約対象の番組の少なくとも service _id、番組開始時刻 (日時含む)、終了時刻ないし番組開始からの放送継続時間を、録画番組のスケジュール管理のメモリ領域 (図示せず) に格納する。制御部 1306 は、録画予約した異なる 2 つのチャンネルの録画予約は、番組 A を第 2 チューナ部 1301 - 2、番組 B を第 3 チューナ部 1301 - 3 で選局するように、スケジュール管理を行う。第 2 チューナ部 1301 - 2、第 3 チューナ部 1301 - 3 で選局された番組においても、EMM を取得する手順は、第 1 チューナ部 1301 - 1 の場合と同じである。

20

【0180】

リモコン 1310 で選択されたチャンネルは、第 1 チューナ部 1301 - 1 で選局される。制御部 1306 は、第 1 チューナ部 1301 - 1 で選局された番組の放送波の P A T を参照して、選局したい service _id _1 の P M T を受信し、E C M P I D を認識して E C M を受信する。制御部 1306 は、E C M を受信すると、I C カード 1311 に E C M 受信コマンドを発行する。

【0181】

E C M を受信した I C カード 1311 は、既に契約済みの EMM を受信してワーク鍵 (K w) を抽出済みであれば、正常応答としてスクランブル鍵 (K s) を制御部 1306 に送信する。スクランブル鍵 (K s) を受信した制御部 1306 は、受信したスクランブル鍵 (K s) をデスクランブラ 1302 に送信する。デスクランブラ 1302 は、受信したスクランブル鍵 (K s) を内部に設定する。

30

【0182】

デスクランブラ 1302 は、設定したクランブル鍵 (K s) を用いて、スクランブル鍵 (K s) を送信してきた E C M に対応した放送信号をデスクランブルし、T S デコード部 1303 に送る。デスクランブルされた放送信号を受信した T S デコード部 1303 は、選局されたチャンネルの映像や音声 E S の P I D により所定の映像、音声信号を抽出し、映像音声デコード部 1304 に送る。映像音声デコード部 1304 は、送られてきた映像、音声信号をデコードして、モニター 14 やスピーカー (図示せず) に出力する。

40

【0183】

予約録画は、ユーザが電子番組表 (E P G、図示せず) 等で所望の番組に対して行う。制御部 1306 は、録画予約の設定内容に従い、録画予約された番組 A の開始時刻近傍になった時点で第 2 チューナ部 1301 - 2 を制御して、録画予約したチャンネルを選局する。

【0184】

制御部 1306 は、現在受信中の放送波において、番組 A の service _id _2 の P M T が伝送されているかを、T S デコード部 1303 で抽出された P A T 受信して判断する。

判断の結果伝送されていない場合、制御部 1306 は T S デコード部 1303 から送られてくる N I T を参照して、番組 A の service _id _2 が伝送される放送波を選局

50

するため、第2チューナ部1301-2を制御する。

【0185】

制御部1306は、第2チューナ部1301-2で選局した放送波に配置されたCAT内部に含まれるEMMのPIDを認識し、EMMを受信する。制御部1306は、受信したEMMの中から自分宛のEMMを、EMMの非暗号化部分に設定されているカードIDの情報から判断する。制御部1306は、自分宛のEMMをカードIDの情報をもとに抽出すると、そのEMMをICカード1311に送信する。制御部1306からEMMを受信したICカード1311は、内部にもつマスター鍵(Km)を用いて暗号化されたEMMを復号し、ワーク鍵(Kw)を抽出し保存する。

【0186】

なお、制御部1306は、EMMをICカード1311に送るタイミングは、図14に示したようなタイミングである。制御部1306は、ICカード1311にEMMを送る適切なタイミングになるまで、受信したEMMを一時的に保存する。制御部1306からEMMを受信したICカード1311は、内部にもつマスター鍵(Km)を用いて暗号化されたEMMを復号し、ワーク鍵(Kw)を抽出し保存する。

【0187】

また制御部1306は、第2チューナ部で選局された番組の放送波のPATを参照して、選局したいservice_id_2のPMTを受信し、受信したPMTの内部に含まれるECMPIDを認識してECMを受信する。制御部1306は、ECMを受信すると、ICカード1311にECM受信コマンドを発行する。

【0188】

ECM受信コマンドを受信したICカード1311は、既に契約済みのEMMを受信してワーク鍵(Kw)を抽出済みであれば、正常応答としてスクランブル鍵(Ks)をデスクランブラ1302にセットする。

番組Aは録画予約されたものであるから、録画記録する映像ES、音声ES、字幕ES等を含むパーシャルTSを制御部にて再構成し、受信機固有の暗号鍵で暗号化して、HDD等の録画・記録部1312に蓄積する。

【0189】

予約番組Bの場合も番組Aと同様に、番組Aの場合の第2チューナ1301-2に代わり、第3チューナ1301-3が動作して録画・記録部1312に蓄積する。

予約録画した番組A、あるいは番組Bを再生する場合は、画面上に示したユーザインタフェース(図示せず)にて録画済みの番組リストを表示し、再生する番組を選択後、制御部1306は録画・記録部1312より読み出し、受信機固有の鍵でデスクランブルし、その圧縮状態の映像音声信号を得た後に、映像音声デコード部1304で圧縮信号をデコードして、モニターやスピーカー(図示せず)に出力する。

【0190】

受信機は、複数のチューナ部を持つとき、そのチューナ部は2K放送に対応するチューナ部のみならず4K8K放送に対応するチューナ部、つまり高度広帯域衛星放送に対応するチューナ部を含んでもよい。

図15は、非特許文献5の第五編 図5-1に記載の高度BSデジタル放送、高度広帯域CSデジタル(以下4K8K)放送受信機の基本構成図である。

【0191】

受信機1500は、チューナ部1501、デスクランブラ1502、MMT多重分離部1503、映像・音声デコード部1504、表示部1505、制御部1506、キー入力部1507を含む。MMT多重分離部1503は、送られてきたデスクランブル後の放送信号を解析して伝送制御信号を逐次抽出して、制御部1506に送信する。制御部1506は、MMT多重分離部1503から送られてきた伝送制御信号をもとに、チューナ部1501、デスクランブラ1502、表示部1505を制御することができる。また制御部1506は、リモコン1510からの操作入力の信号をキー入力部1507を介して受け取ることができる。CASモジュール1511は、制御部1506から与えられるコマ

10

20

30

40

50

ンドにもとづき ECM や EMM の処理を行い、ワーク鍵 (Kw)、スクランブル鍵 (Ks) を抽出することができる CAS モジュールである。通信モジュール 1515 は、通信網と通信を行うためのモジュールである。図 15 の例は、CAS モジュール 1511 が 1 つの場合である。

【0192】

図 16 は、図 15 の基本構成に対して、チューナ部を 3 つ持つ場合の、放送波をデスクランブルする際の受信機 1600 の基本構成図である。

図 16 の図 15 との相違点は、チューナ部が 3 つ (第 1 チューナ部 1601 - 1、第 2 チューナ部 1601 - 2、第 3 チューナ部 1601 - 3) で構成されている点と、3 つのチューナ部に対応するために分配器 1613 が追加されている点と、HDD 等の録画・記録部 1612 を追加されている点である。それ以外の 1602 から 1611 は、図 15 の 1502 から 1511 と同一である。

【0193】

第 1 チューナ部 1601 - 1、第 2 チューナ部 1601 - 2、第 3 チューナ部 1601 - 3 は、4K8K 放送の対応チューナ部である。受信機 1600 は、任意の 3 つのチャンネルを視聴または録画・記録できる仕様である。

ここで用いる CAS モジュールは 1 つで 3 チューナの処理ができる ECM、EMM の応答性能を有するとする。

【0194】

非特許文献 5 によれば、送信側のスクランブル鍵 (Ks) の更新周期は 8000ms、ECM 更新後に ECM に含まれているスクランブル鍵 (Ks) を用いて、放送信号のスクランブルを開始するまでが 7600ms である。

IC カード (CAS モジュール) 1611 の応答性能が、例えば ECM の応答性能を 600ms、EMM の応答性能を 650ms であるとする。

【0195】

受信機 1600 は、EMM 受信後 CAS モジュール 1611 に対し EMM 処理が必要な猶予期間の間に、1 事業体あたり 1 個の EMM を送信したとする。

図 17 は、図 16 に示した基本構成の受信機の限定受信の実装例である。

1701 は、受信した番組の時間的な遷移である。受信した番組 1701 は、時刻 T11 までは Ks0 でスクランブルされ、時刻 T11 から T12 の間は Ks1 でスクランブルされ、時刻 T12 から T13 の間は Ks2 でスクランブルされ、時刻 T13 から T14 の間は Ks3 でスクランブルされていることを示している。1702 は、受信した ECM の時間的な遷移である。

【0196】

図 17 の例で、Ks2 を含む ECM 更新タイミング T21 の時点から、放送コンテンツのスクランブル鍵が Ks2 に切り替わる T12 までの 7600ms の間に、図 16 の 3 つのチューナである第 1 チューナ部 1601 - 1、第 2 チューナ部 1601 - 2、第 3 チューナ部 1601 - 3 で選局した各々の ECM と、少なくともいずれか 1 つのチャンネルの EMM が処理可能である。

【0197】

図 17 に示すように、時刻 T21 から T12 の間で第 1 チューナ部 1601 - 1 で受信した EMM を処理し、時刻 T22 から T13 の間で第 2 チューナ部 1601 - 2 で受信した EMM を処理し、時刻 T23 から T14 の間で第 3 チューナ部 1601 - 3 で受信した EMM を処理すればよい。つまりこの事例では CAS モジュール 1611 の ECM、EMM の処理時間の合計が

(ECM 応答処理時間 = 600ms) × (3 チューナ) + (EMM 応答処理時間 = 650ms) = 2450ms 7600ms

である CAS モジュール 1611 においては、3 つのチューナに対して処理可能であることになる。

【0198】

10

20

30

40

50

図 16 に示す受信機において、ユースケースとして、ある放送を視聴しながら、異なる 2 つの番組を録画する（いわゆる W 裏録）場合について説明する。

ユーザのリモコン 1610 操作により特定のチャンネル (service_id) が選択された場合、制御部 1606 は、予め受信し記憶していた TLV - NIT より当該 service_id の TLV_stream_id を取得し、その搬送波周波数を取得し、第 1 チューナ部 1601 - 1 を制御して選局処理を行う。また制御部 1606 は、以下の処理を行う。

【0199】

制御部 1606 は、第 1 チューナ部 1601 - 1 により TLV ストリームに変換された放送信号を、予め受信し記憶して置いた AMT から IP データフロー情報を取得し MMT 多重分離部 1603 に設定する。PA メッセージ内の PLT (Package List Table) を取得し、指定 service_id の MPT (MMT Package Table) を伝送する IP データフロー、パケット ID を取得し MMT 多重分離部 1603 に設定する。当該パケット ID の MMT パケットを受信し PA メッセージを取得し PA メッセージ内の MPT を取得する。

10

【0200】

また制御部 1606 は、第 1 チューナ部 1601 - 1 で選局した IP データフローに配置された CAT (MH) から EMM の PID を認識し、EMM を受信する。制御部 1606 は、自分宛の EMM を CAS モジュール 1611 の情報をもとに抽出すると、その EMM を CAS モジュール 1611 に送信する。

20

【0201】

なお、制御部 1606 が、EMM を CAS モジュール 1611 に送るタイミングは、図 17 に示したようなタイミングである。制御部 1606 は、CAS モジュール 1611 に EMM を送る適切なタイミングになるまで、受信した EMM を一時的に保存する。制御部 1606 から EMM を受信した CAS モジュール 1611 は、内部にもつマスター鍵 (Km) を用いて暗号化された EMM を復号し、ワーク鍵 (Kw) を抽出し保存する。

【0202】

また、予めユーザ操作により番組表 (図示せず) を用いて、第 1 チューナ部 1601 - 1 で選局されモニタに出力しているチャンネルとは異なる、同時刻帯に放送予定の 2 つのチャンネルの番組 C、D を録画予約しておく。

30

制御部 1606 は、録画予約する際、予約対象の番組の少なくとも service_id、番組開始時刻 (日時含む)、終了時刻ないし番組開始からの放送継続時間を録画番組のスケジュール管理のメモリ領域 (図示せず) に格納する。制御部 1606 は、録画予約した異なる 2 つのチャンネルの録画予約は、番組 C を第 2 チューナ部 1601 - 2、番組 D を第 3 チューナ部 1601 - 3 で選局するように、スケジュール管理を行う。第 2 チューナ部 1601 - 2、第 3 チューナ部 1601 - 3 で選局された番組においても、EMM を取得する手順は、第 1 チューナ部 1601 - 1 の場合と同じである。

【0203】

制御部 1606 は、第 1 チューナ部 1601 - 1 で選局した放送波に含まれる MPT のアクセス制御記述子を解析することで、ECM を格納したメッセージのパケット ID を取得 ECM を受信する。制御部 1606 は、ECM を受信すると CAS モジュール 1611 に ECM 受信コマンドを発行する。

40

【0204】

ECM 受信コマンドを受信した CAS モジュール 1611 は、抽出済みのワーク鍵 (Kw) を用いて暗号化された ECM を復号してスクランブル鍵 (Ks) を取り出す。

CAS モジュール 1611 は、スクランブル鍵 (Ks) を正常に取り出すと、ECM 受信コマンドに対する正常応答として、スクランブル鍵 (Ks) を制御部 1606 に送信する。

【0205】

スクランブル鍵 (Ks) を受信した制御部 1606 は、受信したスクランブル鍵 (Ks) をデスクランブラ 1602 に送信する。デスクランブラ 1602 は、受信したスクランブ

50

ル鍵（Ks）を内部に設定する。デスクランブラ1602は、図17に示したような必要なタイミングにおいて、設定したスクランブル鍵（Ks）を用いてチューナ部1601-1から送られてきた放送信号をデスクランブルする。

【0206】

デスクランブルされたアセットは、MMT多重分離部1603で映像・音声アセットを分離し映像・音声デコード1604で圧縮信号をデコードして、モニターやスピーカー（図示せず）に出力される。

予約録画は、ユーザが電子番組表（EPG、図示せず）等で所望の番組に対して行う。制御部1606は、録画予約の設定内容に従い、予め番組表で予約した同時刻帯に放送予定の番組Cの開始時刻より少し前の時間に制御部1606は、第2チューナ部1601-2
10
を選局してTLVストリームを取得する。第1チューナ1601-1と同様の処理を経て、デスクランブラ1602でデスクランブルされたアセットをMMT多重分離部1603で録画する映像、音声、字幕等のアセットを分離し、受信機固有の暗号鍵で暗号化して、HDD等の録画・記録部1612に蓄積する。

【0207】

予約番組Dの場合も予約番組Cと同様に、第3チューナ部1601-3で選局処理を行ったのちに録画・記録部1612に蓄積する。

予約録画した番組C、あるいは番組Dを再生する場合は、画面上に示したユーザインタフェース（図示せず）にて録画済みの番組リストを表示し、再生する番組を選択後、制御部
20
は録画・記録部より読み出し、前述の受信機固有の鍵でデスクランブルし、その圧縮状態の映像音声アセットを得た後に、映像音声デコード部1604で圧縮信号をデコードして、モニターやスピーカー（図示せず）に出力する。

【0208】

受信機は、複数のチューナ部を持つとき、そのチューナ部は2K放送に対応するチューナ部と4K8K放送に対応するチューナ部が混在してもよい。

図18の受信機構成は、2K放送運用規定である非特許文献4 第五編に記載の受信機の基本構成をベースに搭載チューナ数を増やした図13と、4K8K放送運用規定である非特許文献5 第五編に記載の受信機基本構成をベースに、搭載チューナ数を増やした図16の構成とを併せ持つ構成であり、4K8K受信用のチューナ部として2個、2K受信用のチューナ部として3個をもつ受信機の基本構成例である。
30

【0209】

図18に示したCASモジュール1811は、非特許文献5の付録7にあるように非特許文献5第五編に準拠する4K8K放送用CASモジュールと非特許文献4および非特許文献5第五編に準拠する2K放送用ICカードの機能が一体になったCASモジュールである。この一体型CASモジュール1個を用いて、4K8K放送チューナ2個と2K放送チューナ3個を同時処理する場合の実施例を説明する。

【0210】

第1チューナ部（4K8K）1801-1と第2チューナ部（4K8K）1801-2は、BS右旋円偏波のIF周波数から110CSの左旋偏波までIF受信帯域を持つと共に16APSKの変調方式にも対応したチューナ・復調部である。
40

第3チューナ部（2K）1801-3、第4チューナ部（2K）1801-4、第5チューナ部（2K）1801-5は2K放送の地上デジタル、BSデジタル、広帯域CSデジタル放送受信用チューナ・復調部である。第1デスクランブラ1802-1は4K8K放送のスクランブル方式AES方式に対応しており、第2デスクランブラ1802-2は2K放送のスクランブル方式MULTI2方式に対応している。

【0211】

またMMT多重分離部1803-1は4K8K放送で運用されるMMT・TLV方式の多重化方式に対応しており、TSデコード部1803-2はMP EG-TS方式の多重化方式に対応している。映像・音声デコード部1804-1は映像符号化に関しては4K8K放送で運用されるH.265 | HEVC、音声符号化に関しては、MP EG-4 AAC
50

、MPEG-4 ALS等に対応している。映像・音声デコード部1804-2は映像符号化に関しては2K放送で運用されるMPEG-2方式、音声符号化に関してはMPEG-2 AAC方式に対応している。

【0212】

2K放送の選局、映像音声表示や録画・記録は図13の実施例と同様であり、4K8K放送の選局、映像・音声表示や録画・記録は図16の実施例と同様である。

受信機1800は、非特許文献3、非特許文献4、非特許文献5に準拠するため、自分宛てのEMMを受信後、CASモジュール1811に対しコマンドを発行するまでの猶予期間を30秒以下とする。

【0213】

また新たに送信側の規定として“EMM処理猶予期間内に、1事業体が1つのカードIDを設定したEMMを送信する頻度は30秒間で1個”という規定を行った場合、または新たに受信機側の規定として、“1事業体あたり自受信機のCAS ID宛てのEMMを受信後、30秒間にEMMをCASモジュールに対し処理しなければならないのは少なくとも1個とし、

受信機において、規定以上のEMMを受信した場合は無視、ないし破棄しても構わない。”との規定を行ったとする。

【0214】

この運用規定の下、CASモジュール1811のECM、EMMの応答処理時間が、例えば2K放送でのECMの応答処理時間を300ms、4K8K放送でのECMの応答処理時間を600ms、EMMは2K放送および4K8K放送共に650msであった場合について、1つのCASモジュールで実装可能なチューナの数の検証とCASモジュールに関連する動作について説明する。

【0215】

図19は、図18に示した基本構成の限定受信の実装例である。

1901は、受信した4K8K番組の時間的な遷移である。受信した番組1901は、時刻T11-4までと、時刻T11-4からT12-4の間と、時刻T12-4からT13-4の間と、時刻T13-4からT14-4の間とで、それぞれ異なるスクランブル鍵(Ks)スクランブルされていることを示している。1902は、1901の番組に対するECM、EMMの受信の時間的な遷移である。1903は、受信した2K番組の時間的な遷移である。受信した番組1903は、時刻T11-2までと、時刻T11-2からT12-2の間と、時刻T12-2からT13-2の間と、時刻T13-2からT14-2の間とで、それぞれ異なるスクランブル鍵(Ks)スクランブルされていることを示している。1904は、1903の番組に対するECM、EMMの受信の時間的な遷移である。

【0216】

まず、2K放送の第3チューナ1801-3、第4チューナ1801-4、第5チューナ1801-5がCASモジュール1811で処理可能な条件を検証する。

図19に示すように非特許文献3および非特許文献4の記載に記載されている通り2K放送におけるスクランブル鍵(Ks)の更新周期は2秒であり、Ksの更新の1600ms前に、更新後のKsを含むECMの送出が開始される。ECMの更新もKsの更新周期と同一の2秒である。

【0217】

つまりECM更新が行われ放送信号のKsの更新が行われる1600msの間に3チューナ分のECMの処理、およびこれに加えて30秒以内に3チューナで選局されているチャンネルが各々異なる事業体の場合、第3チューナ部(2K)1801-3、第4チューナ部(2K)1801-4、第5チューナ部(2K)1801-5で伝送されるEMMを少なくとも1個ずつは処理することが必要である。

【0218】

次に4K8K放送のチューナ2個つまり、第1チューナ部(4K8K)1801-1、第2チューナ部(4K8K)1801-2がCASモジュール1811で処理可能な条件を

10

20

30

40

50

検証する。

図 19 に示すように非特許文献 5 に記載されている通り 4 K 8 K 放送におけるスクランブル鍵 (K s) の更新が 8 秒であり、 K s の更新の 7 6 0 0 m s 前に更新後の K s を含む E C M の送出が開始される。 E C M の更新周期も K s の更新周期と同一の 8 秒である。

【 0 2 1 9 】

つまり、 E C M が更新され、放送信号の K s が更新されるまでの 7 6 0 0 m s の間に第 1 チューナ部 (4 K 8 K) 1 8 0 1 - 1、第 2 チューナ部 (4 K 8 K) 1 8 0 1 - 2 の処理が行え、前述 2 K の場合と同様に第 1 チューナ部 (4 K 8 K) 1 8 0 1 - 1、第 2 チューナ部 (4 K 8 K) 1 8 0 1 - 2 で選局されているチャンネルが異なる事業者の場合、 3 0 秒間の間に第 1 チューナ部 (4 K 8 K) 1 8 0 1 - 1、第 2 チューナ部 (4 K 8 K) 1 8 0 1 - 2 で選局されているチャンネルで伝送される E M M が少なくとも 1 個ずつ、つまり 2 個は処理できることが必要である。

10

【 0 2 2 0 】

上記から、まず 2 K 放送の K s 更新周期が 4 K 8 K の K s 更新周期より短い、さらに E C M と E M M では E C M の方が即時の処理が求められる。このため優先順位としては、 2 K 放送における E C M の処理を行う場合、 E C M の毎更新後 1 6 0 0 m s 以内に 3 チューナ分を行い、次に 4 K 8 K 放送における E C M の処理を行い、その次に 2 K 放送あるいは 4 K 8 K 放送における E M M を処理を行う、という処理の優先度付が妥当である。以上の処理の優先度付で 1 つの C A S モジュール 1 8 1 1 を用いた処理が可能かを検証する。

【 0 2 2 1 】

20

最も厳しい事例として 5 つのチューナ部 (第 1 チューナ部 (4 K 8 K) 1 8 0 1 - 1、第 2 チューナ部 (4 K 8 K) 1 8 0 1 - 2、第 3 チューナ部 (2 K) 1 8 0 1 - 3、第 4 チューナ部 (2 K) 1 8 0 1 - 4、チューナ部 (2 K) 1 8 0 1 - 5) で受信している番組において、各々のスクランブル鍵 (K s) の更新タイミングが一致した場合を例に説明する。

【 0 2 2 2 】

まず、 2 K 放送のチューナ部である第 3 チューナ部 (2 K) 1 8 0 1 - 3、第 4 チューナ部 (2 K) 1 8 0 1 - 4、チューナ部 (2 K) 1 8 0 1 - 5 の E C M を、 E C M 更新タイミング T 2 1 より処理を開始する。 C A S モジュール 1 8 1 1 における 2 K 放送の E C M の応答処理時間を 3 0 0 m s としているのので、 2 K 放送の第 3 チューナ部 (2 K) 1 8 0 1 - 3、第 4 チューナ部 (2 K) 1 8 0 1 - 4、チューナ部 (2 K) 1 8 0 1 - 5 の応答処理時間は 9 0 0 m s である。

30

【 0 2 2 3 】

4 K 8 K 放送の E C M 応答時間がこの例では 6 0 0 m s であるため、 2 K 放送のスクランブル鍵 (K s) の更新タイミングの時刻 T 1 2 - 2 までの区間の 1 6 0 0 - 9 0 0 = 7 0 0 m s で 4 K 8 K の E C M が処理可能である。この区間で第 1 チューナ部 (4 K 8 K) の E C M の処理を行う。

【 0 2 2 4 】

第 1 チューナ部 1 8 0 1 - 1 の E C M 応答処理は受信機での処理マージンがないとした場合に $300\text{ms} \times 3 + 600\text{ms} = 1500\text{ms}$ であり、この応答処理終了時から 2 K 放送の次の E C M 更新タイミング時刻 T 2 2 までは、 5 0 0 m s しかないため、さらに 4 K 8 K 放送の E C M を処理するには短い。

40

【 0 2 2 5 】

次に同様に 2 K 放送の E C M 更新タイミング時刻 T 2 2 の時点で 3 つの 2 K 放送用チューナ (第 3 チューナ部 (2 K) 1 8 0 1 - 3、第 4 チューナ部 (2 K) 1 8 0 1 - 4、チューナ部 (2 K) 1 8 0 1 - 5) の E C M 処理を行ったのち、今度は 4 K 8 K 放送用チューナ (第 2 チューナ部 (4 K 8 K) 1 8 0 1 - 2) の E C M 処理を行う。

【 0 2 2 6 】

同様に次の 2 K 放送の E C M 更新周期 T 2 3 から 3 つの 2 K 放送用チューナ (第 3 チューナ部 (2 K) 1 8 0 1 - 3、第 4 チューナ部 (2 K) 1 8 0 1 - 4、チューナ部 (2 K)

50

1801-5)のECM処理を行う。2つの4K8K用チューナ(第1チューナ部(4K8K)1801-1、第2チューナ部(4K8K)1801-2)のECM処理は既に完了しており、4K8K放送のKs更新タイミングT12-4までにはまだ余裕があるので、2K放送ECM更新タイミングT13-2から3つの2K放送用チューナ(第3チューナ部(2K)1801-3、第4チューナ部(2K)1801-4、チューナ部(2K)1801-5)のECM処理を行った後に、第3チューナ部(2K)1801-3のECM処理を行う。

【0227】

次に、2K放送のECM更新タイミングT24では3つの2K放送用チューナ(第3チューナ部(2K)1801-3、第4チューナ部(2K)1801-4、チューナ部(2K)1801-5)のECM処理のあと4K8Kチューナである第1チューナ部(4K8K)1801-1のECM処理を行う。この時点で、2K放送のKs更新が4回分行われ8秒たったので4K8KのKs更新タイミングT12-4に移行する。

【0228】

4K8K放送のKs更新タイミングT12-4以降において、4K8K放送のKs更新タイミングT11-4の処理フローチャートと異なるのは、第3チューナ部(2K)1801-3のECM処理の代わりに第4チューナ部(2K)1801-4のECM処理を、第1チューナ部(4K8K)1801-1のECM処理の代わりに第2チューナ部(4K8K)1801-2のECM処理を行う点である。

【0229】

次に4K8K放送のKs更新タイミングT13-4以降では、タイミングT12-4以降との違いでは、第4チューナ部(2K)1801-4のECM処理の代わりに第5チューナ部(2K)1801-5のECM処理を行う。4K8Kチューナの搭載数はこの例では2個でありECM処理の必要はない。

【0230】

以上のような処理の順序を制御することで、4K8K放送のスクランブル鍵(Ks)更新タイミングT11-4、T12-4、T13-4と8秒×3=24秒間で第1チューナ部(4K8K)1801-1、第2チューナ部(4K8K)1801-2、第3チューナ部(2K)1801-3、第4チューナ部(2K)1801-4、第5チューナ部(2K)1801-5のECMが少なくとも1個ずつは処理が行えており、2KのECM更新タイミングから次のKs更新タイミングまでの毎1600msの間で第3チューナ部(2K)1801-3、第4チューナ部(2K)1801-4、第5チューナ部(2K)1801-5のECM処理が行われ、かつ、4K8K放送のECM更新タイミングからスクランブル鍵(Ks)更新までに7600msまでの間に第1チューナ部(4K8K)および第2チューナ部(4K8K)のECM処理が可能であった。

【0231】

以上のように、2K放送用CASと4K8K放送用CASとが一体のCASモジュールの場合で、2K放送と4K8K放送のKs更新周期が異なる場合においても、ECM更新周期、ECM処理猶予期間に加え、ECM処理猶予期間内で1事業者あたりで処理必要なECMの最小個数を規定することにより、ECMやECMの処理を取りこぼすことなく処理タイミング制御が可能となる。

【0232】

さらに、ECMの更新周期を2000ms、再送周期を100msという規定内容に加え、“ECMを1事業者あたりに1つのIDに対して、30秒間で1つ送信する”という規定を行ったとする。

この運用規定の下、CASモジュール(ICカード)の性能として、例えば、ECMの応答処理時間を295ms、ECMの応答処理時間を400msの場合の搭載可能なチューナの数を検証する。

【0233】

図20は、図12と同じ受信機の限定受信の実装例である。

10

20

30

40

50

時刻 T 2 1 で E M M 処理を開始したとする。この場合、E M M の処理時間を除いた時刻 T 1 2 までの間の残り時間は、 $1600\text{ms} - \text{E M M 処理時間 } 400\text{ms} = 1200\text{ms}$ であり、この時間に E C M 処理を行う必要があるため、4 チューナまで搭載可能である。

【 0 2 3 4 】

E M M は、30 秒間に各事業体、つまり 1 チューナに対して 1 個しか送られてこない想定であるので、30 秒間においてスクランブル鍵 (K s) の更新回数 15 回 (30 秒 / 2 秒) の処理応答時間のあまりの時間で、4 事業体の E M M の処理を、30 秒の猶予期間内に処理することは可能であることが検証できる。

【 0 2 3 5 】

図 20 の例では、受信機処理のマージンを全く考えなければ、スクランブル鍵 K s を使う期間 T 1 1 から T 1 2 の 2000ms の間で、E C M 4 個、E M M 2 個まで処理可能である。30 秒間では、E M M の処理は、30 個まで可能である。

10

しかし、上記の運用とは異なる条件下、例えば、上記例 (例 2) の条件のうち、E M M の送出頻度である 1 事業体あたりに 1 つの I D に対して、30 秒間で 8 回送信する可能性があるとして規定される場合 (例 3)、4 チューナで 30 秒の間に最大 32 個 (8×4 チューナ分) の E M M が送られることになり、机上計算上は、K s 更新周期 2000ms あたりで 2 個の E M M が処理可能であり、30 秒の間では 30 個までの E M M 処理が可能だが、最大 32 個の E M M が送られる可能性があるため、2 個の E M M を処理できないことになる。

【 0 2 3 6 】

そのため、E C M の処理は可能であっても、E M M の処理能力からすると、3 チューナまでを処理する、つまり 30 秒間で E M M を 24 個の処理であれば、対応可能となる。実際の設計にあたっては、受信機での E M M や E C M を多重化された放送波から取り出す時間等のマージンを考慮した上で設計される。

20

【 0 2 3 7 】

上記の E M M の頻度の規定の仕方は、チューナが当該受信機の搭載 C A S モジュール (I C カード) の I D 宛の E M M を受信後、C A S モジュール (I C カード) に対しての猶予期間あたりに送出する個数で規定した例であるが、規定する方法はこれに限らず、1 事業体あたり、1 つのカード I D あたりの E M M の送出頻度が定量的に規定されればよい。

【 0 2 3 8 】

例えば、K s の更新周期あたりに 1 事業体あたり、1 つのカード I D あたりの E M M の送出頻度であってもよい。例えば、 2000ms あたりに 1 事業体から一つのカード I D 宛に最大送信する E M M は最大 2 個というような規定方法である。

30

さらに E M M の送信頻度の規定として、送信側がバースト的に E M M を送る場合の送信頻度と受信側が E M M を受信後に、C A S モジュールに対して処理を猶予する猶予期間との組み合わせによる規定、例えば、1 事業体から 1 つの C A S I D 宛に送出する E M M は、2 秒あたりに最大 3 個、かつ 30 秒あたりに最大 6 個とする、というような規定方法もある。

【 0 2 3 9 】

上述は、契約情報やワーク鍵 (K w) を C A S モジュール (I C カード) に対しで送るための E M M について述べたが、自動表示メッセージで用いられる E M M 個別メッセージとは、その目的と C A S モジュール (I C カード) での応答性能が異なる場合がある。

40

【 0 2 4 0 】

そのため、E M M、E M M 個別メッセージの頻度の規定の仕方は、E M M、E M M 個別メッセージを同じ頻度で規定する方法、または、E M M と E M M 個別メッセージを別の頻度で規定する場合がある。例えば、“同一受信機宛てに送出する E M M / E M M 個別メッセージは 1 事業体あたり 30 秒間で最大 2 個とする。” という規定の仕方は、同じ頻度で規定した場合である。なお、“最大 2 個” の数字は実際の C A S モジュールの性能を鑑みて決定するものとして、この値に限定しない。また E M M と E M M 個別メッセージの頻度を個々に規定する場合の例を示す。

【 0 2 4 1 】

50

“同一受信機宛てに送出する EMM は 1 事業者あたり 30 秒間で最大 2 個とし、同一受信機宛てに送出する EMM 個別メッセージは 1 事業者あたり 30 秒間で最大 3 個とする。”、または EMM と EMM 個別メッセージとで、送出する時間の幅で変えることも可能である。“同一受信機宛てに送出する EMM は 1 事業者あたり 30 秒間で最大 2 個とし、同一受信機宛てに送出する EMM 個別メッセージは 1 事業者あたり 2 秒間で最大 3 個とする。”この例は、EMM を 30 秒間で、EMM 個別メッセージの送信頻度スクランブル鍵 (Ks) の更新周期と併せて規定した場合である。

【0242】

このように EMM、および、または EMM 個別メッセージの頻度は、2 個を超えるチューナを搭載した受信機において、チューナ数の決定や受信機の制御部の処理のマージン等を検討を行うのに必要な条件であり、一方で頻度に関しては、放送事業者の加入申し込みの方法、例えば前述のように電話で受け付け、電話を切らずにすぐ送る方法や、その場すぐには送らずに電話やネットで受け付け一定時間（例えば 30 分以内）等で EMM を送出する場合等、運用の実態に合わせて規定することが可能である。

10

【0243】

上記は、EMM (EMM 個別メッセージを含む) の送出頻度を運用規定で規定した例であるが、受信機での EMM の取りこぼしを想定し、同一 EMM を短時間に再送する場合も実際の運用としては想定される。そのため、運用規定では、EMM 受信後、CAS モジュールに対しての猶予期間内で受信処理すべき最少の EMM 個数で規定する方法もある。例えば、“同一受信機宛ての EMM / EMM 個別メッセージを受信した受信機は、CAS モジュールに対し処理を要求すべき個数は、1 事業者あたり 30 秒間で最少 1 個とする。30 秒間でこれを超える EMM は破棄してもよい。”等のように、EMM 処理猶予期間で受信機が処理すべき最少個数を規定し、処理猶予期間内に受信した当該受信機 (CAS ID) 宛ての EMM は、規定を超えるものに関しては破棄しても構わないという方法である。

20

【0244】

これまでに説明してきたように受信機としては、自分宛て (受信機に挿入されている CAS モジュールのカード ID 宛て) の EMM や EMM 個別メッセージを受信後、CAS モジュール (IC カード) に対し処理を要求するまでの猶予期間において、何個の EMM を処理する必要があるのかということを規定されるのが判りやすいが、これに限らず、単位時間あたり、1 事業者あたりの自分宛ての EMM や EMM 個別メッセージの送出頻度ないし、受信機で処理必要な EMM の個数を規定されればよい。

30

【0245】

また、既に運用されている規定に多チャンネルチューナ搭載の受信機需要や、2K、4K、8K を一体に搭載した受信機需要を鑑み、厳密な受信機設計を可能とするために過去の想定と矛盾なく EMM や EMM 個別メッセージの送出頻度を規定するためには、上記と逆の検討過程を経ることで可能となる。

【0246】

例えば図 20 に示した受信機の限定受信の実装例においては、4 つのチューナ搭載が可能との暗黙の了解となされていた場合は、受信機は、自分宛て (受信機に挿入されている CAS モジュールのカード ID 宛て) の EMM を受信後、CAS モジュール (IC カード) に対し処理までの猶予期間 30 秒の間には EMM 処理は最大 24 個まで処理可能であり、 $24 / 4 = 6$ より、“1 事業者あたり 1 つの CAS ID に対して 30 秒 (EMM 処理の猶予期間) あたりに送出する EMM は最大 6 個とする”との規定を行うことで、それ以前の暗黙事項を覆さずに規定化が可能である。もちろん、6 個以下の個数は、6 個以下の整数であればいかなる数字でもよい。

40

【0247】

この 6 という数字は CAS モジュールの性能を仮に試算した場合であり、実際の CAS モジュールの性能により結果が変わり得るのはいうまでもない。送受信システムとして、CAS モジュール性能の実態と EMM の更新周期、EMM の処理猶予期間とを鑑みて EMM の送出頻度、または EMM の処理猶予期間内で処理すべき最少の EMM 個数が決められる。

50

【 0 2 4 8 】

また本実施例は主に非特許文献 4 で規定される広帯域衛星放送、非特許文献 3 で規定される地上デジタルテレビジョン放送、高度広帯域衛星放送、いわゆる 4 K 8 K 放送である非特許文献 5 で規定される放送において、E C M の更新周期、再送周期に加え、1 事業体あたりの 1 つの C A S I D 宛の受信機が搭載する C A S I D 宛の E M M を受信後に猶予可能な時間内に送られる E M M の個数、または E M M の処理猶予期間内で処理すべき最少の E M M 個数を規定することで、全く同じ効果が得られる。また、C A S モジュールもそのパッケージ形状は I C カードにとどまらず I C チップ形状でも全く変わらないことは言うまでもない。

【 0 2 4 9 】

図 2 1 A は、図 1 8 に示した受信機において、第 1 チューナ (4 K 8 K) 1 8 0 1 - 1、第 2 チューナ (4 K 8 K) 1 8 0 1 - 2、第 3 チューナ (2 K) 1 8 0 1 - 3、第 4 チューナ (2 K) 1 8 0 1 - 4、第 5 チューナ (2 K) 1 8 0 1 - 5 から E C M、E M M を受信したタイムチャートの例を示している。受信機 1 8 0 0 は、矢印の時刻にそれぞれ E C M、E M M を受信機は受信している。第 2 チューナ (4 K 8 K) 1 8 0 1 - 2 から E M M 2 1 2 1 を受信後、第 1 チューナ (4 K 8 K) 1 8 0 1 - 1 から E C M 2 1 1 0 を、第 2 チューナ (4 K 8 K) 1 8 0 1 - 2 から E C M 2 1 2 0 を、第 1 チューナ (4 K 8 K) 1 8 0 1 - 1 から E M M 2 1 1 1 を、第 3 チューナ (2 K) 1 8 0 1 - 3 から E C M 2 1 3 0 を、第 4 チューナ (2 K) 1 8 0 1 - 4 から E C M 2 1 4 0 を、第 3 チューナ (2 K) 1 8 0 1 - 3 から E M M 2 1 3 1 を、第 5 チューナ (2 K) 1 8 0 1 - 5 から E C M 2 1 5 0 を順に受信していることを示している。横軸は、時間軸である。

【 0 2 5 0 】

図 2 1 B は、図 2 1 A で示した E C M / E M M を図 1 8 の一体型 C A S モジュールが、E C M、E M M の処理を行う時間的遷移を示している。横軸は、時間軸である。

図 1 8 の一体型 C A S モジュール 1 8 1 1 の E C M、E M M の応答処理時間が、例えば 2 K 放送での E C M の応答処理時間を 3 0 0 m s、4 K 8 K 放送での E C M の応答処理時間を 6 0 0 m s、E M M は 2 K 放送および 4 K 8 K 放送共に 6 5 0 m s であった場合について、E C M、E M M の処理の時間的な遷移を示す。

【 0 2 5 1 】

例えば 2 1 6 0 は、C A S モジュールが E M M 2 1 2 1 を処理している時間を表している。2 1 6 1 は、C A S モジュールが、E C M 2 1 1 0 を処理している時間を表している。2 1 6 2 は、C A S モジュールが、E C M 2 1 2 0 を処理している時間を表している。2 1 6 3 は、C A S モジュールが、E M M 2 1 1 1 を処理している時間を表している。また図の 2 1 0 2 - 1 は、C A S モジュールは、E M M 2 1 2 1、E C M 2 1 1 0、E C M 2 1 2 0、E M M 2 1 1 1 の順に処理していることを表している。

【 0 2 5 2 】

図の 2 1 0 2 - 1、図の 2 1 0 2 - 2、図の 2 1 0 2 - 3 は、制御部 1 8 0 6 が E M M 2 1 2 1 を受信した際、他優先度の高いバッファが無い事を確認し、一体型 C A S モジュール 1 8 1 1 への処理を開始した直後に、2 1 1 0、2 1 2 0、2 1 1 1、2 1 3 0、2 1 4 0、2 1 3 1、2 1 5 0 の順に受信した場合の C A S モジュールの処理について考察した図である。また一体型 C A S モジュール 1 8 8 1 の処理は、並行しての処理が出来ないために、例えば 2 1 2 1 の処理である 2 1 6 0 の処理時間の間は、他の処理は行う事が出来ない。本考察では、最悪の条件での考察をするために、2 1 0 2 - 1、2 1 0 2 - 2、2 1 0 2 - 3 では、一番最初に 2 1 2 1 の処理である 2 1 6 0 の処理を行っている例である。

【 0 2 5 3 】

2 1 0 2 - 1 は、受信機が E C M、E M M を受信したタイミング受信に処理した場合の、処理順序を表している。この例では、E C M の受信タイミングから、その E C M に含まれるスクランブル鍵 (K s) を使ってデスクランブルする放送信号を受信するタイミングまでの時間である 1 6 0 0 m s の中で、本来処理を終えなければならない E C M 2 1 3 0、

10

20

30

40

50

E C M 2 1 4 0、E C M 2 1 5 0 の処理が、完了できていないことを示している。

【 0 2 5 4 】

そこで、非特許文献 4 に記載の

「 4 . 1 (8)

・ E M M 受信コマンド、E M M 個別メッセージ受信コマンドについて、自身のカード宛ての E M M 及び E M M 個別メッセージを受信後、3 0 秒以内に受信機から I C カードに対して行うコマンドの発行を行うこと。(本編 A - 1 0 に関連記載がある。)

に従い E C M の処理を優先させ、E M M の処理および E M M 個別メッセージの処理を遅らせた場合の例が、2 1 0 2 - 2 である。この例のように、E C M の処理の優先度を上げることで 2 K の E C M の処理を、2 K の E C M の更新周期である 2 0 0 0 m s 以内に完了させるようにしたものである。しかし E M M 2 1 2 1 から E C M 2 1 5 0 の処理時間の合計は E M M 2 1 2 1 の処理時間 (6 5 0 m s) + E C M 2 1 1 0 の処理時間 (6 0 0 m s) + E C M 2 1 2 0 の処理時間 (6 0 0 m s) + E C M 2 1 3 0 の処理時間 (3 0 0 m s) + E C M 2 1 4 0 の処理時間 (3 0 0 m s) + E C M 2 1 5 0 の処理時間 (3 0 0 m s) = 2 7 5 0 m s

となり、2 K の E C M のうち、順序的に一番最後に受信機が受信した E C M 2 1 5 0 の処理が 2 0 0 0 m s 以内に完了していない。

【 0 2 5 5 】

従って、T R - B 3 9 第五編 付録 7 “ 現行放送と高度 B S デジタル放送の共用受信機について ” に記載される共用受信機を作成するためには、更なる E C M、E M M の処理順序の工夫が必要となる。

図の 2 1 0 2 - 3 は、2 K 放送の E C M の処理を最優先にした場合の処理の順序である。

【 0 2 5 6 】

2 K 放送の E C M の処理を最優先にすることで、2 K 放送の E C M の処理時間は以下のようにになる。

$E M M 2 1 2 1 (6 5 0 m s) + E C M 2 1 3 0 (3 0 0 m s) + E C M 2 1 4 0 (3 0 0 m s) + E C M 2 1 5 0 (3 0 0 m s) = 1 5 5 0 m s$

となり、2 K の E C M のうち、順序的に一番最後に受信機が受信した E C M 2 1 5 0 の処理が 2 0 0 0 m s 以内に完了している。

【 0 2 5 7 】

図 2 2 は、図 2 1 で説明した、2 K 放送の E C M の処理を最優先にするための、受信機が C A S モジュールに E C M、E M M の処理を依頼するフローチャートである。

まず、E C M、E M M 処理を行うためのバッファについて説明する。図 1 8 に示す制御部 1 8 0 6 は、M M T 多重分離部 1 8 0 3 - 1 あるいは T S デコード部 1 8 0 3 - 2 から E C M あるいは E M M を受信すると、C A S モジュール 1 8 1 1 に E C M、E M M の処理を要求するために、処理要求送信処理を開始 (S 2 2 0 0) する。

【 0 2 5 8 】

制御部 1 8 0 6 は、C A S モジュール 1 8 1 1 に E C M、E M M の処理の要求の順序制御のために、M M T 多重分離部 1 8 0 3 - 1 あるいは T S デコード部 1 8 0 3 - 2 から送られてきた E C M、E M M を、一時的に保存する E C M 受信バッファと、E M M 受信バッファを管理する。各々のバッファはチューナの数だけ用意され、E C M 受信バッファは 1 段バッファ、E M M 受信バッファは複数段のバッファを持ち合わせる。

【 0 2 5 9 】

E C M 受信バッファは、2 K 放送、4 K 放送 8 K 放送に含まれている E C M を一時保存するバッファである。2 K 用と 4 K 8 K 用と区別できるように、2 K 用のチューナ用に用意されているバッファは 2 K 用 E C M 受信バッファ、4 K 8 K 用のチューナ用に用意されているバッファは 4 K 8 K 用 E C M バッファとを区別する。E M M 受信バッファは、2 K 放送、4 K 放送 8 K 放送に含まれている E M M を一時保存するバッファである。おのおののバッファのデータは、制御部 1 8 0 6 から C A S モジュール 1 8 1 1 への処理要求に対する応答が返ってくると消去される。

10

20

30

40

50

【 0 2 6 0 】

図 2 2 で説明した 2 K 放送の E C M の処理を最優先にするためのフローチャートの説明を行う。制御部 1 8 0 6 は、最初の 2 K 放送用 E C M 受信バッファの中を確認する (S 2 2 0 1) 。

確認の結果 2 K 放送用 E C M 受信バッファの中に、 C A S カードモジュール 1 8 1 1 に要求送信待ちのデータがある場合 (S 2 2 0 2 の Y e s) 、制御部 1 8 0 6 は、 C A S モジュール 1 8 1 1 に処理要求のコマンドを発行し、その応答を待つ (S 2 2 0 8) 。

【 0 2 6 1 】

確認の結果 2 K 放送用 E C M 受信バッファの中に、 C A S カードモジュール 1 8 1 1 に要求送信待ちのデータがない場合 (S 2 2 0 2 の N o) 、制御部 1 8 0 6 は、次に 4 K 8 K 放送用 E C M 受信バッファの中を確認する (S 2 2 0 3) 。

確認の結果 4 K 8 K 放送用 E C M 受信バッファの中に、 C A S カードモジュール 1 8 1 1 に要求送信待ちのデータがある場合 (S 2 2 0 4 の Y e s) 、制御部 1 8 0 6 は、 C A S モジュールに処理要求のコマンドを発行し、その応答を待つ (S 2 2 0 8) 。

【 0 2 6 2 】

確認の結果 4 K 8 K 放送用 E C M 受信バッファの中に、 C A S カードモジュール 1 8 1 1 に要求送信待ちのデータがない場合 (S 2 2 0 4 の N o) 、制御部 1 8 0 6 は、次に E M M 受信バッファの中を確認する (S 2 2 0 5) 。

確認の結果 E M M 受信バッファの中に、 C A S カードモジュール 1 8 1 1 に要求送信待ちのデータがある場合 (S 2 2 0 6 の Y e s) 、制御部 1 8 0 6 は、 C A S モジュールに処理要求のコマンドを発行し、その応答を待つ (S 2 2 0 8) 。なお制御部 1 8 0 6 は、 E M M バッファ内の最旧の受信時刻をもつデータを抽出して C A S モジュール 1 8 1 1 に処理要求のコマンドを発行する。

【 0 2 6 3 】

確認の結果 E M M 受信バッファの中に、 C A S カードモジュール 1 8 1 1 に要求送信待ちのデータがない場合 (S 2 2 0 6 の N o) 、制御部 1 8 0 6 は、処理要求送信処理を終了する (S 2 2 0 7) 。

S 2 2 0 8 で C A S モジュール 1 8 1 1 から応答を受信した制御部 1 8 0 6 は、再度 S 2 2 0 1 の処理に戻り、 2 K 放送用 E C M 受信バッファ、 4 K 8 K 放送用 E C M 受信バッファ、 E M M バッファに処理要求待ちのデータがあるかの確認を継続する。

【 0 2 6 4 】

なお図 2 2 は、本発明の E C M / E M M の処理についてのみの処理優先度を示している。それ以外の制御部 1 8 0 5 と C A S モジュール 1 8 1 1 との間のコマンドについては、省略している。

次に、“ 1 事業体あたり自分宛てのカード I D が設定されたの E M M を受信後、 3 0 秒間に E M M を C A S モジュールに対し処理しなければならないのは少なくとも 1 個とする。それ以上の E M M を受信した場合は無視、ないし破棄しても構わない。 ” との規定に従った処理を行った場合の実施例を示す。

【 0 2 6 5 】

非特許文献 4 には、受信機の E M M 処理猶予期間に関して、

- ・ E M M 受信コマンド、 E M M 個別メッセージ受信コマンドについて、自身のカード宛ての E M M 及び E M M 個別メッセージを受信後、 3 0 秒以内に受信機から I C カードに対して行うコマンドの発行を行うこと。(本編 A - 1 0 に関連記載がある。)

との記載がある。

【 0 2 6 6 】

また非特許文献 5 には、同様に受信機の E M M 処理猶予期間に関して、

- ・ E M M 受信コマンド、 E M M 個別メッセージ受信コマンドについて、自身のカード宛ての E M M 及び E M M 個別メッセージを受信後、 3 0 秒以内に受信機から C A S モジュールに対してコマンドの発行を行うこと。(付録 4 に関連記載がある。)

の記載がある。

【 0 2 6 7 】

本実施形態によれば、例えば、“同一受信機宛ての E M M / E M M 個別メッセージで C A S モジュールに対し処理すべき個数は、1 事業体あたり 3 0 秒間で最少 1 個とする。3 0 秒間でこれを超える E M M は破棄してもよい。”

という規定を加えるものである。

【 0 2 6 8 】

この規定を加えた場合の、の E M M 受信バッファ、及びその処理フローチャートについて説明する。

3 0 秒を超える E M M を破棄してもよい、の処理を実現するために、図 1 8 に示す制御部 1 8 0 6 は E M M を受信した受信時刻を知る必要がある。このため制御部 1 8 0 6 は、内部に持つ E M M 受信バッファに、E M M を受信した時刻を保存する保存エリアを持つ必要がある。

10

【 0 2 6 9 】

図 2 3 は、E M M を受信した時刻を保存する保存エリアを持つ E M M 受信バッファの例である。(A) が、受信した時刻を保存する保存エリアを持たない受信バッファの例である。(B) が、受信した時刻を保存エリア 3 2 0 1 を持つ受信バッファの例である。

【 0 2 7 0 】

図 2 4 は、“同一受信機宛ての E M M / E M M 個別メッセージで C A S モジュールに対し処理すべき個数は、1 事業体あたり 3 0 秒間で最少 1 個とする。3 0 秒間でこれを超える E M M は破棄する”規定を加えた場合の、受信機の処理フローチャートである。

20

【 0 2 7 1 】

図 1 8 を例に説明する。制御部 1 8 0 6 は、M M T 多重分離部 1 8 0 3 - 1 あるいは T S デコード部 1 8 0 3 - 1 から E M M を受信すると、C A S モジュール 1 8 1 1 に E M M の処理を要求するために、処理要求送信処理を開始 (S 2 4 0 0) する。

制御部 1 8 0 6 は、C A S モジュール 1 8 1 1 に E M M の処理の要求の順序制御のために、M M T 多重分離部 1 8 0 3 - 1 あるいは T S デコード部 1 8 0 3 - 1 から送られてきた E M M を一時的に保存する E M M バッファを管理する。

【 0 2 7 2 】

制御部 1 8 0 6 は、E M M 受信バッファの中を確認する (S 2 4 0 1) 。

確認の結果 E M M 受信バッファの中に、C A S カードモジュール 1 8 1 1 に要求送信待ちのデータがある場合 (S 2 4 0 2 の Y e s)、制御部 1 8 0 6 は、そのデータの受信時刻からの経過時間を確認する (S 2 4 0 4) 。

30

【 0 2 7 3 】

確認の結果経過時間が 3 0 秒を過ぎている場合 (S 2 4 0 4 の Y e s)、該当する E M M のデータをクリアする (S 2 4 0 5)。制御部 1 8 0 6 は、データをクリアした (S 2 4 0 5) 後、再度 S 2 4 0 1 に戻って、処理を継続する。

確認の結果経過時間が 3 0 秒を過ぎていない場合 (S 2 4 0 4 の N o)、制御部 1 8 0 6 は、C A S モジュールに処理要求のコマンドを発行し、その応答を待つ (S 2 4 0 6)。制御部 1 8 0 6 は、C A S モジュール 1 8 1 1 からの応答を受信すると、E C M との優先度確認を行うために、処理を終了する。

40

【 0 2 7 4 】

制御部 1 8 0 6 は、E M M 受信バッファの中を確認 (S 2 4 0 1) した結果、E M M 受信バッファの中に、C A S カードモジュール 1 8 1 1 に要求送信待ちのデータがない場合 (S 2 4 0 2 の N o)、処理を終了する (S 2 4 0 3) 。

なお、E M M の処理は即時性が低いため、図 2 4 の処理の開始は、例えば制御部 1 8 0 6 がポーリング等で、処理の開始を制御してもよい。

【 0 2 7 5 】

さらに本実施形態は、図 2 3 に示した E M M 受信バッファを持ち、図 2 4 に示すような処理フローチャートで E M M の処理要求を制御する場合、例えば事業体毎に管理し、処理待ちの E M M のバッファの受信時刻を判断し、3 0 秒以内に受信した E M M が E M M バッ

50

ァ内に既に存在する場合に、あとから受信した E M M を破棄する、という規定も考えらる。

【 0 2 7 6 】

図 2 5 は、図 2 4 に示す処理フローチャートに、“事業体毎に管理し、処理待ちの E M M のバッファの受信時刻を判断し、30 秒以内に受信した E M M が E M M バッファ内に既に存在する場合に、あとから受信した E M M を破棄する”規定を加えた場合の、受信機の E M M 受信の処理フローチャートである。

【 0 2 7 7 】

同様に図 1 8 を例に説明する。制御部 1 8 0 6 は、M M T 多重分離部 1 8 0 3 - 1 あるいは T S デコード部 1 8 0 3 - 1 から E M M を受信すると、受信した E M M を E M M 受信バッファに格納するための E M M 受信処理を開始する (S 2 5 0 0) 。

10

ここで、E M M 受信バッファは、事業体ごとに 1 つの E M M データだけを保存するエリアを持つものとする。

【 0 2 7 8 】

制御部 1 8 0 6 は、受信した E M M データの事業体を参照し、E M M バッファの中の同一事業体の保存エリアにデータが格納されているかの確認を行う (S 2 5 0 1) 。

確認の結果同一事業体のデータが格納されている場合 (S 2 5 0 1 の Y e s)、制御部 1 8 0 6 は、格納されているデータの受信時刻から 30 秒が経過しているかを確認する (S 2 5 0 2) 。

【 0 2 7 9 】

確認の結果 30 秒以内の場合 (S 2 5 0 2 の Y e s)、制御部 1 8 0 6 は受信した E M M データを破棄し (S 2 5 0 6)、処理を終了する (S 2 5 0 6) 。

20

確認の結果 30 秒以内でない場合 (S 2 5 0 2 の N o)、同一事業体のバッファをクリアし (S 2 5 0 3)、受信した E M M を当該バッファに保存し (S 2 5 0 4)、処理を終了する (S 2 5 0 5) 。

【 0 2 8 0 】

確認の結果同一事業体のデータが格納されていない場合 (S 2 5 0 1 の N o)、制御部 1 8 0 6 は、受信した E M M を当該バッファに保存し (S 2 5 0 4)、処理を終了する (S 2 5 0 5) 。

以上のように、1 つの C A S モジュール (I C カードと称される場合もある) でいくつかのチューナを搭載した受信機を設計可能かを検討するには、E C M の更新周期、E C M の再送周期、搭載する C A S モジュールの応答性能に加え、E M M の 1 事業体あたりに 1 つの I D あたり送信する頻度、または E M M の処理猶予期間内で処理すべき最少の E M M 個数を送受信システム上で規定することによって E C M、必要な E M M の処理を取りこぼすことなく、厳密に 1 つの C A S モジュールで処理可能な搭載チューナ数の検討が可能となる。

30

【 0 2 8 1 】

上記したように本実施形態によると、少なくとも暗号化された第 1 キー (K w) を含む第 1 制御情報 (E M M)、暗号化された第 2 キー (K s) を含む第 2 制御情報 (E C M) 及び、スクランブルコンテンツを含むサービス信号を受信するチューナ部と、前記チューナ部から出力された前記スクランブルコンテンツを受け取るデスクランブラと、少なくとも前記チューナ部、前記デスクランブラを制御する制御部と、前記制御部により制御され、前記第 1 制御情報 (E M M) から、固有の第 3 キー (K m) を用いて前記第 1 キー (K w) を取得し、前記第 2 制御情報 (E C M) から、取得された前記第 1 キー (K w) を用いて、前記デスクランブラに与えるための前記第 2 キー (K s) を取得する、C A S モジュールと、を備え、

40

前記制御部は、

1 事業体あたりの前記第 1 制御情報 (E M M) を、規定で定められる E M M 受信後 C A S モジュールへの処理猶予期間以内で最少 R (1 以上の整数) 個を処理すべきであることを設定しており、前記 1 事業体の前記第 1 制御情報 (E M M) を検出してから、E M M 処理猶予期間以内に R 個処理を行った後は前記 1 事業体の次の前記第 1 制御情報 (E M M) を検出した場合、少なくとも前記 E M M 処理猶予期間以内の前記第 1 制御情報 (E M M) に

50

ついて前記カード部に対するコマンド送出は抑制する、受信装置が提供される。

【0282】

上記した実施形態は、これまでの説明から理解できるように、受信機としての機能と、送信機、送受信システムとしての特徴を有することは勿論である。以下に上記した実施形態におけるさらなる要点をまとめて記載する。

(1) 同一受信機宛てに送出する EMM / EMM 個別メッセージは 1 事業体あたり 30 (* 1 参照) 秒間で最大 M (後述 * 2 参照) 個とする。

(2) 同一受信機宛てに送出する EMM / EMM 個別メッセージは 1 事業体あたり 30 (後述 * 1 参照) 秒間で最大 M (後述 * 2 参照) 個、かつ 2 (後述 * 3 参照) 秒間 M 2 (後述 * 2, 4 参照) 個とする。

10

(3) 同一受信機宛てに送出する EMM / EMM 個別メッセージは 1 事業体あたり 2 (後述 * 3 参照) 秒間で最大 M 2 (後述 * 2, 4 参照) 個とする。

(4) 同一受信機宛てに送出する EMM は 1 事業体あたり 30 (後述 * 1 参照) 秒間で最大 M (後述 * 2 参照) 個とし、EMM 個別メッセージは 1 事業体あたり 30 (後述 * 1 参照) 秒間で最大 M 3 (後述 * 2, 5 参照) とする。

(5) 同一受信機宛てに送出する EMM は 1 事業体あたり 30 (後述 * 1 参照) 秒間で最大 M (後述 * 2 参照) 個とし、EMM 個別メッセージは 1 事業体あたり 2 (後述 * 3 参照) 秒間で最大 M 3 (後述 * 2, 5 参照) とする。

同一受信機宛てに送出する EMM は 1 事業体あたり 2 (後述 * 3 参照) 秒間で最大 M * 2 個とし、EMM 個別メッセージは 1 事業体あたり 30 (後述 * 1 参照) 秒間で最大 M 3 (後述 * 2, 5 参照) とする。

20

* 1 . . . 30 秒は現運用規定で規定される EMM / EMM 個別メッセージ受信後に CAS に対し処理を行うまでの猶予期間、

* 2 . . . TR - B 1 4 と B 1 5 の個数は同一、TR - B 3 9 では別の値、

* 3 . . . 2 秒は現行放送 (2 K) での運用規定 TR - B 1 4、TR - B 1 5 での ECM (K s) 更新周期、高度 BS ・ CS (4 K 8 K) TR - B 3 9 では 8 秒、

* 4 . . . M 2 は M の値が 3 個以上等の場合で、1 つの K s 更新周期内でバースト的に送る場合の規定を必要とした場合、

* 5 . . . EMM と EMM 個別メッセージの CAS の応答時間性能は実際異なる。EMM 個別メッセージの運用は少ないものの、EMM とは頻度を変えたいとの事業者要望を加味した規定案の場合。

30

【0283】

さらに上記した受信機の構成による、以下に述べるように各種の効果を得ることができる。即ち、

(B 1)

少なくとも暗号化された第 1 キー (K w) を含む第 1 制御情報 (EMM)、暗号化された第 2 キー (K s) を含む第 2 制御情報 (ECM) 及び、スクランブルコンテンツを含むサービス信号を受信するチューナ部と、前記チューナ部から出力された前記スクランブルコンテンツを受け取るデスクランブラと、少なくとも前記チューナ部、前記デスクランブラを制御する制御部と、前記制御部により制御され、前記第 1 制御情報 (EMM) から、固有の第 3 キー (K m) を用いて前記第 1 キー (K w) を取得し、前記第 2 制御情報 (ECM) から、取得された前記第 1 キー (K w) を用いて、前記デスクランブラに与えるための前記第 2 キー (K s) を取得する、CAS モジュールと、を備え、

40

前記制御部は、

1 事業体あたりの前記第 1 制御情報 (EMM) を、規定で定められる EMM 受信後 CAS モジュールへの処理猶予期間以内で最少 R (1 以上の整数) 個を処理すべきであることを設定しており、前記 1 事業体の前記第 1 制御情報 (EMM) を検出してから、EMM 処理の前記猶予期間以内に R 個処理を行った後は前記 1 事業体の次の前記第 1 制御情報 (EMM) を検出した場合、少なくとも前記猶予期間以内の前記第 1 制御情報 (EMM) について前記カード部に対するコマンド送出は抑制する、受信装置。

50

【 0 2 8 4 】

上記の (B 1) の構成によると、厳密に 1 つの C A S モジュールであったとしても、デスクランブルに必要な E C M および E M M の処理を取りこぼすことなく、契約番組の視聴を可能とし得る、受信機 (又は送信装置又は送受信機) を提供できる。

(B 2)

受信機において、制御部は、前記チューナ部が、地上デジタルテレビジョン放送を受信している場合と、B S デジタル放送 / 広帯域 C S デジタル放送を受信している場合とでは、前記第 1 制御情報 (E M M) が送られてくる前記頻度が同一であることを前提として、又は、前記第 1 制御情報 (E M M) の処理義務の個数は同一であることを前提とし、前記頻度又は前記個数の判定するための情報を共通にして、前記第 1 制御情報 (E M M) を処理する。

10

【 0 2 8 5 】

上記の (B 2) の構成によると、T R - B 1 4 と T R - B 1 5 の E M M 頻度 (処理義務) の個数は同一としたことの利点がある。つまり、T R - B 1 4 と T R - B 1 5 は地デジ・B S ・ 1 1 0 C S の 3 波共用機が 2 K T V の標準的仕様であり、放送メディア (地デジ、B S 、 1 1 0 C S) に関わらず、1 事業体あたりの E M M 処理頻度規定が同じほうが C A S 処理において実装条件が複雑化しない。同じ条件であれば、受信機開発段階において検証が楽、送出個数での規定となった場合に、T R - B 1 4 と B 1 5 は同じ B - C A S 方式であり、E M M 送信設備の共通化がはかれる。

(B 3)

制御部は、前記チューナ部が、地上デジタルテレビジョン放送を受信している場合と高度広帯域衛星デジタル放送を受信している場合とでは、前記猶予期間 (例えば 3 0 秒) 以内に前記第 1 制御情報 (E M M) が送られてくる頻度が異なるところを前提として、又は、前記第 1 制御情報 (E M M) の処理義務の個数が異なることを前提とし、前記頻度又は前記個数の判定するための情報を異ならせて前記第 1 制御情報 (E M M) を処理する。

20

【 0 2 8 6 】

上記 (B 3) の構成によると、T R - B 1 4 は地上デジタルであり、運用規定上は有料放送を可能としているが、実質的に無料放送のみであり、E M M の運用の可能性は著しく低い。ため、有料放送必須の T R - B 3 9 とは別の E M M の方が、より多くの E C M の処理が可能となる可能性が多く、T R - B 1 4 の頻度を低く設定することで、地デジチューナ搭載数の個数が増やせる可能性が高い。

30

(B 4)

前記制御部は、前記チューナ部が、B S デジタル放送 / 広帯域 C S デジタル放送を受信している場合と高度広帯域衛星デジタル放送を受信している場合とでは、前記猶予期間 (例えば 3 0 秒) 以内に前記第 1 制御情報 (E M M) が送られてくる頻度が異なるところを前提として、又は、前記第 1 制御情報 (E M M) の処理義務の個数が異なることを前提とし、前記頻度又は前記個数の判定するための情報を異ならせて前記第 1 制御情報 (E M M) を処理する。

【 0 2 8 7 】

上記 (B 4) の構成によれば、T R - B 3 9 準拠の C A S モジュールにおける E M M 、 E C M のコマンド応答性能が、T R - B 1 4 , 1 5 純拠の I C カードのコマンド応答性能と異なっても T R - B 3 9 準拠の C A S モジュールの性能に合せ他 E M M 頻度が設定可能、T R - B 3 9 では、通信路経由でも E M M 取得が可能であるため、放送波のみの E M M 伝送しかできない T R - B 1 4 と T R - B 1 5 と異なる頻度設定が可能 (T R - B 3 9 のノを少なくする) 、T R - B 3 9 は T R - B 1 4 や T R - B 1 5 のような 2 K 放送に比べ、後発のデジタル放送を対象としているため新規 4 K 8 K の有料放送加入者へのサービスを良くするため、一定時間の E M M 送出個数を増やして、受信機での E M M の取りこぼした場合でもなるべく早く E M M 受信を行うことで加入申し込みから鍵明け (E M M 受信) まで短時間にすることが可能である。

40

50

(B 5)

前記制御部は、前記チューナ部が、地上デジタルテレビジョン放送を受信している場合と B S デジタル放送 / 広帯域 C S デジタル放送を受信している場合と高度広帯域衛星デジタル放送を受信している場合とでは、前記第 1 制御情報 (E M M) が送られてくる前記頻度が同一であることを前提として、又は、前記第 1 制御情報 (E M M) の処理義務の個数は同一であることを前提とし、前記頻度又は前記個数の判定の情報を共通にして、前記第 1 制御情報 (E M M) を処理する。

【 0 2 8 8 】

上記 (B 5) の構成によれば受信機での処理が単純化する。受信 n e t o w r k (地デジ、 2 K B S、 2 K C S、 4 K 8 K B S、 4 K 1 1 0 C S) によらず同じ E M M 処理タイミングが可能となる。

10

(B 6)

前記制御部は、前記チューナ部が、 B S デジタル放送 / 広帯域 C S デジタル放送を受信している場合と高度広帯域衛星デジタル放送を受信している第 1 の場合とでは、前記第 1 制御情報 (E M M) が送られてくる前記頻度が同一であることを前提として、又は、前記第 1 制御情報 (E M M) の処理義務の個数は同一であることを前提とし、前記頻度又は前記個数の判定の情報を共通にして、前記第 1 制御情報 (E M M) を処理し、前記チューナ部が、地上デジタルテレビジョン放送を受信している第 2 の場合は、前記第 1 の場合とは、前記頻度又は前記個数の判定するための情報を異ならせて前記第 1 制御情報 (E M M) を処理する。

20

【 0 2 8 9 】

上記 (B 6) の構成によると、 E M M が送られてくる頻度が T R - B 1 4 は異なり、 B 1 5 と B 3 9 は同じ頻度としている。有料系を含む T R - B 1 5、 T R - B 3 9 と実質有料放送がない地デジ (T R - B 1 4 で分ける) とは上記 (B 3) と類似する利点がある。また、 T R - B 1 4 での頻度を低く設定することで、地デジチューナ搭載数の個数が増やせる可能性が高い。

(B 7)

前記チューナ部が、前記 1 事業体に対応する前記第 1 制御情報 (E M M) と受信機毎に伝送され自動表示メッセージのポイントを示す E M M 個別メッセージを受信し、 E M M 個別メッセージを受信し、前記制御部は、前記 1 事業体に対応する前記第 1 制御情報 (E M M) と前記 E M M 個別メッセージと分けて処理する。

30

【 0 2 9 0 】

(B 8) < E M M と E M M 個別メッセージの E M M 頻度 (処理義務) の個数を別とする構成 >

前記チューナ部が、前記 1 事業体に対応する前記第 1 制御情報 (E M M) と受信機毎に伝送され自動表示メッセージのポイントを示す E M M 個別メッセージを受信し、前記制御部は、前記 1 事業体に対応する前記第 1 制御情報 (E M M) と前記 E M M 個別メッセージとの頻度が互いに異なることを前提として、前記第 1 制御情報 (E M M) の前記頻度と前記 E M M 個別メッセージの前記頻度を判定するための情報を異ならせて前記第 1 制御情報 (E M M) と前記 E M M 個別メッセージを処理する。

40

【 0 2 9 1 】

上記 (B 7)、 (B 8) の構成によると、 E M M と E M M 個別メッセージの E M M 頻度 (処理義務) の個数を別とする。これにより、 E M M と E M M 個別メッセージの C A S モジュール応答性能が、異なる場合が十分想定され、短い応答時間、 E M M 個別メッセージのサイズが E M M に比べ小さいと予測され、応答性能が短いことが想定される。よって、その分 E M M より頻度を上げる規定も可能となる。また、 E M M に比べ、 E M M 個別メッセージは E M M メールや自動表示メッセージの I D 毎の個別性部分 (例えば加入者の名前等) であり実際の利用頻度は少ないことが考えられ、また、契約を電話中に確認するなどの即時性が要求されにくいことから E M M の頻度を落とす、つまり E M M 処理猶予期間より

50

長いスパンでの個数設定ないし、同じ処理猶予期間でも個数を少なくすることで、E M M や E C M の処理に回す時間が増えることが利点として期待される。

(B 9)

前記第 1 制御情報 (E M M) の前記頻度は、前記第 1 制御情報 (E M M) の処理猶予期間に応じて、設定されている。

【 0 2 9 2 】

上記 (B 9) の構成によると E M M 頻度を E M M 処理猶予期間で決める、これにより、猶予期間内の任意の時間に必要な E M M の個数を処理するという点では、猶予期間を設定した目的に対して利にかなった設定手段と言える。受信機のフローを考えるうえでもこの期間で決められると自由度があがる。

10

(B 1 0)

前記第 1 制御情報 (E M M) の前記頻度は、前記第 1 制御情報 (E M M) の前記第 2 キー (K s) の更新周期に基づいて設定されている。

【 0 2 9 3 】

上記 (B 1 0) の構成によると、E M M 頻度を K s 更新周期で決めている。E M M 処理猶予期間は現在 3 0 秒であり K s 更新周期の方が短い期間である。受信機において、E M M のフィルタリング性能を検討するにあたり短時間でどの程度の自分宛ての E M M が来る可能性があるのかという点では、短時間で個数での規定は意味がある。ただし、事業者が短時間で複数の E M M を発行する場合になる。また、短時間に E M M を複数発行するのは受信機での E M M の取得ミスあるいは、なるべく早く E M M を取得してほしい場合に同じ E M M を短時間に送出したい場合に有効。ただし、E M M の送信レートのみでは E M M は処理猶予期間 (3 0 秒間) の設定が残っていると限りなく E M M のキャッシュ領域が増えるため、伝送レートではなく E M M の一時キャッシュ領域を見積るためにも個数での規定が有効である。

20

(B 1 1)

< E M M 頻度を K s 更新周期で決める >

前記第 1 制御情報 (E M M) の前記頻度は、前記第 1 制御情報 (E M M) の処理猶予期間と、前記第 1 制御情報 (E M M) の前記第 2 キー (K s) の更新周期に基づいて設定されている、

上記 (B 1 1) の構成によると、(B 1 1) の構成では、E M M 頻度を K s 更新周期で決めている。3 0 秒間に 1 個受信してもらえばよくても、少しでも早く受信してほしい場合に例えば「受信機は 3 0 秒間で事業体あたり少なくとも 1 個の処理を必要とする。ただし、E M M の送出は 2 秒間で 2 個の割合で送出するが E M M を受信後はその後 3 0 秒間に取得した E M M は破棄、または受信しなくても構わない」といった規定にすれば、3 0 秒間の処理猶予期間では 1 個でよいということから残りの時間を他のチューナの E M M や E C M 処理に回せ、かつ一定時間の E M M を多く送ることにより早く E M M 受信が可能になり、視聴者がより短い時間で契約確認が可能になり、かつ受信機側も一時的な E M M キャッシュの量も見積りが可能となる。

30

【 0 2 9 4 】

上記の要点の他、本実施形態においては、以下に記載する放送信号送信システムの要素も含まれるものである、即ち、

40

(C 1)

受信側において、

少なくとも暗号化された第 1 キー (K w) を含む第 1 制御情報 (E M M) 、暗号化された第 2 キー (K s) を含む第 2 制御情報 (E C M) 及び、スクランブルコンテンツを含むサービス信号を受信するチューナ部と、前記チューナ部から出力された前記スクランブルコンテンツを受け取るデスクランブラと、少なくとも前記チューナ部、前記デスクランブラを制御する制御部と、前記制御部により制御され、前記第 1 制御情報 (E M M) から、固有の第 3 キー (K m) を用いて前記第 1 キー (K w) を取得し、前記第 2 制御情報 (E C M) から、取得された前記第 1 キー (K w) を用いて、前記デスクランブラに与えるため

50

の前記第 2 キー (K s) を取得する、 C A S モジュール (I C カード) を備え、送信設備が、 1 事業体あたりの前記第 1 制御情報 (E M M) が送出する頻度が、 E M M 処理猶予期間 (3 0 秒) 以内で最少 R (1 以上の整数) 個であることを設定している、放送信号送信システム。

(C 2) 地上デジタルテレビジョン放送と、 B S デジタル放送 / 広帯域 C S デジタル放送とでは、

それぞれの前記送信設備が、前記第 1 制御情報 (E M M) を送出する前記頻度が同一として、又は、前記第 1 制御情報 (E M M) の処理義務の個数が同一であるとし、前記受信側で前記頻度又は前記個数の判定するための情報を共通にして、前記第 1 制御情報 (E M M) を処理可能とした、上記 C 1 記載の放送信号送信システム。

10

(C 3) 地上デジタルテレビジョン放送と高度広帯域衛星デジタル放送とでは、それぞれの前記送信設備が、 E M M 処理猶予期間 (3 0 秒) 以内で前記第 1 制御情報 (E M M) が送出する頻度が異なる、又は、前記第 1 制御情報 (E M M) の処理義務の個数が異なり、前記受信側で前記頻度又は前記個数の判定するための情報を異ならせて前記第 1 制御情報 (E M M) を処理できるようにした、 C 1 に記載の放送信号送信システム。

(C 4) 地上デジタルテレビジョン放送と B S デジタル放送 / 広帯域 C S デジタル放送と高度広帯域衛星デジタル放送とでは、それぞれの前記送信設備が、 E M M 処理猶予期間 (3 0 秒) 以内で前記第 1 制御情報 (E M M) が送られてくる頻度が異なり、又は、前記第 1 制御情報 (E M M) の処理義務の個数が異なり、前記受信側で前記頻度又は前記個数の判定するための情報を異ならせて前記第 1 制御情報 (E M M) を処理できるようにした、上記 (C 1) に記載の放送信号送信システム。

20

(C 5) B S デジタル放送 / 広帯域 C S デジタル放送と高度広帯域衛星デジタル放送とでは、それぞれの前記送信設備が、前記第 1 制御情報 (E M M) を送出する前記頻度が同一とし、又は、前記第 1 制御情報 (E M M) の処理義務の個数を同一であるとし、前記受信側で前記頻度又は前記個数の判定の情報を共通にして、前記第 1 制御情報 (E M M) を処理できるようにした、上記 (C 1) に記載の放送信号送信システム。

(C 6) B S デジタル放送 / 広帯域 C S デジタル放送と高度広帯域衛星デジタル放送との第 1 の場合では、それぞれの前記送信設備が、前記第 1 制御情報 (E M M) が送られてくる前記頻度を同一として、又は、前記第 1 制御情報 (E M M) の処理義務の個数を同一であるとし、前記受信側で前記頻度又は前記個数の判定の情報を共通にして、前記第 1 制御情報 (E M M) を処理できるようにし、前記受信側で、地上デジタルテレビジョン放送の第 2 の場合は、前記第 1 の場合とは、前記頻度又は前記個数の判定するための情報を異ならせて前記第 1 制御情報 (E M M) を処理できるようにした、上記 (C 1) に記載の放送信号送信システム。

30

(C 7) 前記送信設備が、前記 1 事業体に対応する前記第 1 制御情報 (E M M) と受信機ごとに伝送される自動表示メッセージのポイントを示す E M M 個別メッセージを送信し、前記受信側は、前記 1 事業体に対応する前記第 1 制御情報 (E M M) と前記 E M M 個別メッセージと分けて処理する、上記 (C 1) に記載の放送信号送信システム。

(C 8) 前記送信設備が、前記 1 事業体に対応する前記第 1 制御情報 (E M M) と受信機毎に送信される自動表示メッセージのポイントを示す E M M 個別メッセージを送出し、前記受信側が、前記 1 事業体に対応する前記第 1 制御情報 (E M M) と前記 E M M 個別メッセージとの頻度が互いに異なることを前提として、前記第 1 制御情報 (E M M) の前記頻度と前記 E M M 個別メッセージの前記頻度を判定するための情報を異ならせて前記第 1 制御情報 (E M M) と前記 E M M 個別メッセージを処理できるようにした、上記 (C 1) に記載の放送信号送信システム。

40

(C 9) 前記第 1 制御情報 (E M M) の前記頻度は、前記第 1 制御情報 (E M M) の処理猶予期間に応じて、設定されている、上記 C 1 乃至 C 8 の何れか 1 に記載の放送信号送信システム。

(C 1 0) 前記第 1 制御情報 (E M M) の前記頻度は、前記第 1 制御情報 (E M M) の前記第 2 キー (K s) の更新周期に基づいて設定されている、上記 C 1 乃至 C 8 の何れか 1

50

に記載の放送信号送信システム。

(C 1 1) 前記第 1 制御情報 (E M M) の前記頻度は、前記第 1 制御情報 (E M M) の処理猶予期間と、前記第 1 制御情報 (E M M) の前記第 2 キー (K s) の更新周期に基づいて設定されている、上記 C 1 乃至 C 8 の何れか 1 に記載の放送信号送信システム。

【0295】

上記したように、E M M 処理 (送信及び又は受信において) の制限を行い、複数チューナ増設でもデスクランブルの安定を維持する。

次の説明では、データ放送で、通信データを取得できない場合の、視聴者への通知形態及び方法を工夫したことを説明する。通信データを取得できない場合、全く表示用の通知を行わないのではなく、ある条件では、通知を行い、受信機及びシステムに対するユーザの疑義をなくすることができる。

【0296】

図 3 に示す通信制御部 3 4 0 は、ネットワーク I / F 3 4 1 を介して通信ネットワーク 3 5 1 を経由してサービス事業者装置 1 2 0 と接続することができ、サービス事業者装置 1 2 0 に管理されているアプリケーションやコンテンツを、通信ネットワーク 3 5 1 を経由して取得することができる。取得したアプリケーションやコンテンツは、通信制御部 3 4 0 から制御部 3 3 0 に送られ、アプリケーション管理機能 3 2 3 により管理・実行される。

【0297】

また通信制御部 3 4 0 は、リモコン I / F 3 4 2 を介して、リモコン (リモートコントローラ) 3 5 2 からの指示を受けることができる。通信制御部 3 4 0 は、リモコン 3 5 2 から指示を受けると、その指示内容を制御部 3 3 0 へ送信する。制御部 3 3 0 は、リモコン 3 5 2 から受信した指示内容に対応して、受信機 3 0 0 の全体の動作を制御する。

【0298】

制御部 3 3 0 は、解析部 3 0 9 から第 1 の指定情報の解析結果が送られてくると、ネットワーク I / F 3 4 1 を介して通信ネットワーク 3 5 1 に接続しているか、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にあるかの確認を行う。

制御部 3 3 0 は、通信ネットワーク 3 5 1 に接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを検出すると、第 1 の指定情報とともに多重化されている番組のチャンネル識別情報および番組識別情報の第 1 の条件 (詳細は後述する) にもとづいて、アプリケーション機能を同時に提供するサービスが行われていない旨の通知 (この通知については以降全て、前記ネットワークに接続していないために発生するエラーを示す通知であってもよい) を表示制御部 3 2 7 に行わないようにすることができる。

【0299】

また制御部 3 3 0 は、リモコン 3 5 2 の例えば d ボタンが押下された信号を通信制御部 3 4 0 のリモコン I / F 3 4 2 経由で受け取った場合も同様に、ネットワーク I / F 3 4 1 を介して通信ネットワーク 3 5 1 に接続しているか、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にあるかの確認を行う。制御部 3 3 0 は、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを検出すると、第 1 の指定情報とともに多重化されている番組のチャンネル識別情報および番組識別情報の第 2 の条件 (詳細は後述する) にもとづいて、アプリケーション機能を同時に提供するサービスが行われていない旨の通知を表示制御部 3 2 7 に行わないようにすることができる。

【0300】

制御部 3 3 0 は、第 1 の条件にもとづいて、アプリケーション機能を同時に提供するサービスが行われていない旨の通知を表示制御部 3 2 7 に行わないように制御するために、内部に番組情報保存エリア 3 2 1 を持つ。

図 2 6 は、番組情報保存エリア 3 2 1 の構成の一例を示す図である。番組情報保存エリア 3 2 1 は、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W と現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 W とから成る。第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W は、第 1 の指定情報を受信したタイミングにおけるチャンネル識別情報を保存するチャンネル情報保存エリア 3 2 1 - 1 0 W と番組識別情報を保存する番組情報保存エリア 3 2 1 -

10

20

30

40

50

1 1 Wとを持つ。

【 0 3 0 1 】

また現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 Wは、現在受信して表示器 3 2 8に表示している番組のチャンネル識別情報を保存するチャンネル情報保存エリア 3 2 1 - 2 0 Wと番組識別情報を保存する番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 1 Wとを持つ。

現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 Wは、チャンネルの切り換えや番組の切り換わり等により新たな番組が表示器 3 2 8に表示されたタイミングで更新される。

【 0 3 0 2 】

一方第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 Wは、表示器 3 2 8に番組を表示している間に、受信機 3 0 0 が第 1 指定情報を受信したタイミングで更新される。

10

なお受信機 3 0 0 が受信した放送番組のチャンネル識別情報は、例えば非特許文献 1、非特許文献 2 に記載の `service_id` でもよい。また、受信機 3 0 0 が受信した放送番組の番組識別情報は、例えば非特許文献 1、非特許文献 2 に記載の `event_id` でもよい。また受信機 3 0 0 が受信した第 1 の指定情報は、例えば非特許文献 1、非特許文献 2 に記載の MPT (MMT パッケージテーブル) に含まれるアプリケーションサービス記述子でもよい。

【 0 3 0 3 】

以降の説明では、放送されている番組にアプリケーション機能を同時に提供するサービスの例として、非特許文献 2 に記載のデータコンテンツサービスを例に説明する。また、受信機 3 0 0 が受信した放送による番組のチャンネル識別情報および番組識別情報は、`service_id` および `event_id` とし、第 1 の指定情報は、アプリケーションサービス記述子とする。

20

【 0 3 0 4 】

図 2 7 A、図 2 7 B は、データコンテンツサービスの形態を示した図である。データコンテンツサービスは、2 つのタイプがある。1 つのタイプ (タイプ 1 と呼ぶ) は、受信機 3 0 0 へアプリケーションデータを伝送する際に、通信ネットワークによる伝送に加えて放送波による伝送をも含む場合である。もう 1 つのタイプ (タイプ 2 と呼ぶ) は、受信機 1 4 0 へアプリケーションデータを伝送する際に、放送波による伝送を含まず通信ネットワークによる伝送のみの場合である。

【 0 3 0 5 】

30

図 2 7 A は、非特許文献 2 に記載のタイプ 1 のデータコンテンツサービスの構成を示した図である。縦軸がストリーム (コンポーネントとも呼ぶ) の種類、横軸が時間である。MMT-SI は、伝送制御信号であり多重化方式が MMT の場合の SI (Service Information) であることを示している。

【 0 3 0 6 】

図 2 7 A の例では、MPT 4 0 1 W にアプリケーションサービス記述子が配置されているとする。このアプリケーションサービス記述子は、`AIT_location_info` フィールドに、参照すべき MH-AIT (MH-Application Information Table) のロケーション情報を持ち、`DT_message_location_info` フィールドに、参照すべきデータ伝送メッセージを構成している DDMT (Data Directory Management Table)、DAMT (Data Asset Management Table) および DDCM (Data Content Management Table) のロケーション情報を持ち、`EMT_location_info` フィールドに、参照すべき EMT (Event Message Table) のロケーション情報を持つ構成になっている。データ伝送メッセージは、放送波によりアプリケーションデータを伝送する際のテーブルを含む制御情報である。このようにタイプ 1 のデータコンテンツサービスの場合は、受信機 3 0 0 へアプリケーションデータを伝送する際に、通信ネットワークによる伝送に加えて放送波による伝送をも含む。

40

【 0 3 0 7 】

図 2 7 B は、非特許文献 2 に記載のタイプ 2 のデータコンテンツサービスの構成を示した図である。縦軸がストリーム (コンポーネントとも呼ぶ) の種類、横軸が時間である。M

50

MT - SI は、伝送制御信号であり多重化方式が MMT の場合の SI (Service Information) であることを示している。

【0308】

図 27B の例でも、MPT 402W にアプリケーションサービス記述子が配置されているとする。タイプ 2 のデータコンテンツサービスは、放送波によりアプリケーションデータを伝送しないため、データ伝送メッセージが伝送されない。このためタイプ 2 のデータコンテンツサービスの場合のアプリケーションサービス記述子は、AIT_location_info フィールドに、参照すべき MH - AIT (MH-Application Information Table) のロケーションを設定し、EMT_location_info フィールドに、参照すべき EMT (Event Message Table) を設定する構成になっている。

10

【0309】

AIT_location_info フィールドにロケーションが設定されている、MH - AIT (MH-Application Information Table) には、データコンテンツサービスを実行する際に使用する伝送プロトコルの情報であるプロトコル識別 (protocol_id) と、伝送プロトコルに依存したアプリケーションのロケーション情報であるセクタ領域 (selector_byte) が存在する。

【0310】

図 35B で詳細に説明するが、プロトコル識別 (protocol_id) は、HTTP / HTTPS、データカルセルおよび MMT non-timed の 3 つが定義されている。この 3 つのプロトコル識別のうち、HTTP / HTTPS のみが、通信制御部 340 を介して、通信ネットワークを経由したサーバへのアクセスを行うプロトコル識別である。

20

【0311】

いずれのタイプのデータコンテンツサービスも、放送している番組にデータコンテンツサービスを付加するためには、MPT にアプリケーションサービス記述子を配置する必要がある。つまり受信機 300 は、MPT の中にアプリケーションサービス記述子が配置されていることを認識することで、受信している番組にデータコンテンツサービスが付加されていると判断する。さらに受信機 300 は、プロトコル識別が HTTP / HTTPS の場合のみ、ネットワーク I / F 341 を介して通信により、例えばサービス事業者装置 120 のサーバとデータのやり取りをする。

【0312】

図 28 は、アプリケーションサービス記述子のフォーマットを示した図である。501W が AIT_location_info、502W が DT_message_location_info、503W が EMT_location_info を示している。受信機 300 は、このようにアプリケーションサービス記述子の中の AIT_location_info 501W、DT_message_location_info 502W、EMT_location_info 503W を参照することで、これらの情報のリンク先の情報を参照することが可能となり、データコンテンツサービスとして必要なアプリケーションやコンテンツを取得することが可能となる。

30

【0313】

図 29A (a)、図 29A (b)、図 29B (a)、図 29B (b)、図 29B (c)、図 29C (a)、図 29C (b)、図 29C (c) は、放送による番組とその番組にデータコンテンツサービスが付加されている場合、制御部 330 が、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 327 に通知するタイミングを、受信機 300 が受信して表示している番組の種類に応じて分類したものである。なお図 29 (a) から図 29 (c) までの説明では、受信機 300 が通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを前提に説明する。

40

【0314】

図 29A (a)、図 29A (b) は、受信機 300 が受信して表示している番組のチャンネルが時間とともに変わらず番組だけが変化する場合は、表示器 328 が表示している番組の表示内容、解析部 309 が MPT (アプリケーションサービス記述子が配置されており

50

、プロトコル識別がHTTP/HTTPSとする)を受信して解析するタイミング、および制御部330が、データコンテンツサービスが行われていない旨の通知を表示制御部327に通知するタイミング、の時間的な遷移の例を示している。

【0315】

図29A(a)の601Wは、表示器328が表示している表示内容の時間的な遷移である。番組A1(チャンネルN1)は、チャンネル番号(service_id)N1の番組(event_id)A1であることを示している。601Wの例は、チャンネル番号がN1のまま時間の経過とともに番組A1、番組B1、番組C1を順次表示器328に表示する場合である。

【0316】

602Wは、解析部309が、受信したMPT(アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別がHTTP/HTTPSとする)を解析するタイミングの時間的な遷移である。解析部309は、表示器328に番組A1が表示されている間にMPT6021WとMPT6022Wを、番組B1を表示している間にMPT6023Wを受信して解析している。つまり602Wは、受信機300が、データコンテンツサービスが付加されている番組を連続して受信した場合の例である。

10

【0317】

603Wは、制御部330が、解析部309から解析結果を受信したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部340を介して認識した場合に、表示制御部327に対してデータコンテンツサービスが行われていない旨を通知するタイミングの時間的な遷移である。

20

【0318】

なお図26を用いて説明したように、現在番組情報保存エリア321-2Wは、例えば番組A1(チャンネルN1)が表示器328に初めて表示されるタイミングで制御部330により更新される、というように、新たな番組が表示器328に表示されたタイミングで更新される。

【0319】

制御部330は、MPT6021Wの解析結果を解析部309から受信すると、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と、現在番組情報保存エリア321-2Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを比較する。MPT6021Wの解析結果を解析部309から受信したタイミングでは、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報は、現在番組情報保存エリア321-2Wに保存されているチャンネル識別情報に一致しているが番組識別情報に一致していない。

30

【0320】

このため制御部330は、前回のMPTの解析結果を解析部309から受信したタイミング以降で番組(event_id)が変わったと判断する。制御部330は、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部340を介して認識しているため、前回のMPTの解析結果を解析部309から受信したタイミング以降で番組(event_id)だけが変わったとの判断結果にもとづいて、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部327に通知する。

40

【0321】

通知が完了すると制御部330は、現在番組情報保存エリア321-2Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とに書き込むことで、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報を更新する。

【0322】

制御部330は、MPT6022Wの解析結果を解析部309から受信すると、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているチャンネル識別情報およ

50

び番組識別情報と、現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを比較する。M P T 6 0 2 2 W の解析結果を解析部 3 0 9 から受信したタイミングでは、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されているチャンネル識別情報と番組識別情報は、現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 W に保存されているチャンネル識別情報と番組識別情報に一致している。

【 0 3 2 3 】

このため制御部 3 3 0 は、前回の M P T の解析結果である M P T 6 0 2 1 W の解析結果を解析部 3 0 9 から受信したタイミング以降でチャンネル番号 (service_id) および番組 (event_id) は変わっていないと判断する。制御部 3 3 0 は、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 3 4 0 を介して認識しているが、前回の M P T の解析結果である M P T 6 0 2 1 W の解析結果を解析部 3 0 9 から受信したタイミング以降でチャンネル番号 (service_id) および番組 (event_id) が変わっていないと判断しているため、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 3 2 7 に通知しない。

10

【 0 3 2 4 】

通知が完了すると制御部 3 3 0 は、現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とに書き込むことで、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報を更新する。

20

【 0 3 2 5 】

また制御部 3 3 0 は、M P T 6 0 2 3 W の解析結果を解析部 3 0 9 から受信すると、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と、現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを比較する。M P T 6 0 2 2 W の解析結果を解析部 3 0 9 から受信したタイミングでは、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されている番組識別情報と現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 W に保存されている番組識別情報とだけが一致していない。

【 0 3 2 6 】

このため制御部 3 3 0 は、前回の M P T の解析結果である M P T 6 0 2 2 W の解析結果を解析部 3 0 9 から受信したタイミング以降で番組 (event_id) だけが変わっていると判断する。制御部 3 3 0 は、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 3 4 0 を介して認識しているため、前回の M P T の解析結果を解析部 3 0 9 から受信したタイミング以降で番組 (event_id) だけが変わったとの判断結果にもとづいて、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 3 2 7 に通知する。

30

【 0 3 2 7 】

通知が完了すると制御部 3 3 0 は、現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とに書き込むことで、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報を更新する。

40

【 0 3 2 8 】

このように受信機 3 0 0 が受信している番組のチャンネル番号が変わらずに番組だけが変わる場合、制御部 3 3 0 は、チャンネル番号 (service_id) および番組 (event_id) を用いることで、切り換わった番組において最初の M P T の解析結果を受信したタイミングにおいてだけ、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 3 2 7 に通知することができる。これにより受信機 3 0 0 は、1 つの番組の中で複数回 M P T を受信しても、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示が 1 回しか行わないため、受信機 3 0 0 の番組を視聴しているユーザは、データコンテンツサービスが行われていない

50

旨の表示を煩わしく感じる事がなくなる。

【 0 3 2 9 】

図 2 9 A (b) は、受信機 3 0 0 が、データコンテンツサービスが付加されている番組 (番組 A 1 (チャンネル N 1)) を受信し、次にデータコンテンツサービスが付加されていない番組 (番組 B 1 (チャンネル N 1)) を受信し、次にデータコンテンツサービスが付加されている番組 (番組 C 1 (チャンネル N 1)) を受信した場合である。

【 0 3 3 0 】

6 0 4 W は、表示器 3 2 8 が表示している表示内容の時間的な遷移である。

6 0 5 W は、解析部 3 0 9 が、受信した M P T (アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別が H T T P / H T T P S とする) を解析するタイミングの時間的な遷移である。

10

【 0 3 3 1 】

6 0 6 W は、制御部 3 3 0 が、解析部 3 0 9 から解析結果を受信したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 3 4 0 を介して認識した場合に、表示制御部 3 2 7 に対して、データコンテンツサービスが行われていない旨を通知するタイミングの時間的な遷移である。

【 0 3 3 2 】

制御部 3 3 0 は、M P T 6 0 5 1 W の解析結果を解析部 3 0 9 から受信すると、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と、現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを比較する。M P T 6 0 5 1 W の解析結果を解析部 3 0 9 から受信したタイミングでは、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されている番組識別情報と現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 W に保存されている番組識別情報だけが一致していない。

20

【 0 3 3 3 】

このため制御部 3 3 0 は、前回の M P T の解析結果を解析部 3 0 9 から受信したタイミング以降で番組 (event_id) が変わっていると判断する。制御部 3 3 0 は、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 3 4 0 を介して認識しているため、前回の M P T の解析結果を解析部 3 0 9 から受信したタイミング以降で番組 (event_id) だけが変わったとの判断結果にもとづいて、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 3 2 7 に通知する。

30

【 0 3 3 4 】

通知が完了すると制御部 3 3 0 は、現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とに書き込むことで、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報を更新する。

【 0 3 3 5 】

制御部 3 3 0 は、M P T 6 0 5 2 W の解析結果を解析部 3 0 9 から受信すると、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と、現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを比較する。M P T 6 0 5 2 W の解析結果を解析部 3 0 9 から受信したタイミングでは、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報は、番組 A 1 (チャンネル N 1) の番組情報のため、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されている番組識別情報と現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 W に保存されている番組識別情報とだけが一致していない。

40

【 0 3 3 6 】

このため制御部 3 3 0 は、前回の M P T の解析結果である M P T 6 0 5 1 W の解析結果を

50

解析部 309 から受信したタイミング以降で番組 (event_id) だけが変わっていると判断する。制御部 330 は、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 340 を介して認識しているため、前回の MPT の解析結果を解析部 309 から受信したタイミング以降で番組 (event_id) だけが変わったとの判断結果にもとづいて、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 327 に通知する。

【0337】

通知が完了すると制御部 330 は、現在番組情報保存エリア 321 - 2W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 321 - 1W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とに書き込むことで、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 321 - 1W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報を更新する。

10

【0338】

図 29B (a)、図 29B (b)、図 29B (c) は、受信機 300 が受信して表示している番組のチャンネル番号が変わる場合の、表示器 328 が表示している番組の表示内容、解析部 309 が MPT (アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別が HTTP / HTTPS とする) を受信して解析するタイミング、および制御部 330 が、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 327 に通知するタイミング、の時間的な遷移の例を示している。

【0339】

20

図 29B (a) の 607W は、表示器 328 が表示している表示内容の時間的な遷移である。607W の例は、チャンネル番号 N1 の番組 A2 の放送中にチャンネル番号 N2 の番組 B2 に切り替え、チャンネル番号 N2 の番組 B2 の放送中にチャンネル番号 N3 の番組 C2 に切り替えて、番組 A2、番組 B2、番組 C2 を順次表示器 328 に表示する場合である。

【0340】

608W は、解析部 309 が、受信した MPT (アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別が HTTP / HTTPS とする) を解析するタイミングの時間的な遷移である。解析部 309 は、表示器 328 に番組 A2 が表示されている間に MPT 6081W を、番組 B2 が表示されている間に MPT 6082W を、番組 C2 が表示されている間に MPT 6083W を受信して解析している。

30

【0341】

609W は、制御部 330 が、解析部 309 から解析結果を受信したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 340 を介して認識した場合に、表示制御部 327 に対して、データコンテンツサービスが行われていない旨を通知するタイミングの時間的な遷移である。

【0342】

制御部 330 は、MPT 6082W の解析結果を解析部 309 から受信すると、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 321 - 1W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と、現在番組情報保存エリア 321 - 2W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを比較する。MPT 6081W の解析結果を解析部 309 から受信したタイミングでは、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 321 - 1W に保存されているチャンネル識別情報は、現在番組情報保存エリア 321 - 2W に保存されているチャンネル識別情報に一致していない。

40

【0343】

このため制御部 330 は、前回の MPT の解析結果を解析部 309 から受信したタイミング以降でチャンネル番号 (service_id) が変わっていると判断する。制御部 330 は、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 340 を介して認識しているが、前回の MPT の解析結果を解析部

50

309から受信したタイミング以降でチャンネル番号(service_id)が変わっていると判断しているため、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部327に通知しない。

【0344】

通知が完了する制御部330は、現在番組情報保存エリア321-2Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報を、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報に書き込むことで、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報を更新する。

【0345】

図29B(b)は、受信機300が、データコンテンツサービスが付加されている番組(番組A2(チャンネルN1))を受信し、次にチャンネル番号を変えてデータコンテンツサービスが付加されている番組(番組B2(チャンネルN2))を受信し、次にチャンネル番号を変えずにデータコンテンツサービスが付加されている番組(番組C2(チャンネルN2))を受信した場合である。

【0346】

610Wは、表示器328が表示している表示内容の時間的な遷移である。

611Wは、解析部309が、受信したMPT(アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別がHTTP/HTTPSとする)を解析するタイミングの時間的な遷移である。

【0347】

612Wは、制御部330が、解析部309から解析結果を受信したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部340を介して認識した場合に、表示制御部327に対して、データコンテンツサービスが行われていない旨を通知するタイミングの時間的な遷移である。

【0348】

この場合も、図29B(a)の場合と同様に、制御部330は、MPT6112Wの解析結果を解析部309から受信したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部340を介して認識しているが、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と、現在番組情報保存エリア321-2Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを比較することで、前回のMPTの解析結果であるMPT6111Wの解析結果を解析部309から受信したタイミング以降でチャンネル番号が変わっていると判断し、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部327に通知しない。

【0349】

また制御部330は、MPT6113Wの解析結果を解析部309から受信したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部340を介して認識しているため、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と、現在番組情報保存エリア321-2Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを比較することで、前回のMPTの解析結果であるMPT6112Wの解析結果を解析部309から受信したタイミング以降で番組だけ変わったとの判断結果にもとづいて、図29A(a)同様に、データコンテンツサービスが行われていない旨6123Wを表示制御部327に通知する。

【0350】

図29B(c)は、受信機300が、データコンテンツサービスが付加されている番組(番組A2(チャンネルN1))を受信し、次にチャンネルを変えてデータコンテンツサービスが付加されている番組(番組B2(チャンネルN2))を受信し、番組B2(チャン

10

20

30

40

50

ネルN 2)を受信している間に、M P Tを複数回受信した場合である。

【 0 3 5 1 】

6 1 3 Wは、表示器 3 2 8 が、表示する表示内容の時間的な遷移である。

6 1 4 Wは、解析部 3 0 9 が、受信したM P T (アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別がH T T P / H T T P Sとする)を解析するタイミングの時間的な遷移である。

【 0 3 5 2 】

6 1 5 Wは、制御部 3 3 0 が、解析部 3 0 9 から解析結果を受信したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 3 4 0 を介して認識した場合に、表示制御部 3 2 7 に対して、データコンテンツサービスが行われていない旨を通知するタイミングの時間的な遷移である。

10

【 0 3 5 3 】

制御部 3 3 0 は、表示器 3 2 8 が番組 B 2 (チャンネルN 2)を表示している間にM P Tの解析結果であるM P T 6 1 4 2 W、M P T 6 1 4 3 W、M P T 6 1 4 4 W、M P T 6 1 4 5 Wの解析結果を解析部 3 0 9 から受信する。第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と、現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを比較することで、制御部 3 3 0 は、M P T 6 1 4 2 Wの解析結果を受信したタイミングでは、前回のM P Tの解析結果であるM P T 6 1 4 1 Wを解析部 3 0 9 から受信したタイミング以降でチャンネル番号が変わっていると判断する。制御部 3 3 0 は、M P T 6 1 4 3 Wの解析結果を受信したタイミングでは、前回のM P Tの解析結果であるM P T 6 1 4 2 Wを解析部 3 0 9 から受信したタイミング以降でチャンネル番号および番組が変わっていないと判断する。

20

【 0 3 5 4 】

制御部 3 3 0 は、M P T 6 1 4 2 W、M P T 6 1 4 3 Wの受信結果を受信したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 3 4 0 を介して認識しているが、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 3 2 7 に通知しない。

【 0 3 5 5 】

しかし制御部 3 3 0 は、例えば 3 回目に受信したM P Tの解析結果であるM P T 6 1 4 4 Wの受信タイミングにおいてだけ、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と、現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報との比較の結果に関わらず、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 3 4 0 を介して認識し、データコンテンツサービスが行われていない旨 6 1 5 2 Wを表示制御部 3 2 7 に通知するようにしてもよい。図 2 9 B (c)の例では、3 回目に受信したM P Tの解析結果であるM P T 6 1 4 4 Wの解析結果を解析部 3 0 9 から受信したタイミングで、データコンテンツサービスが行われていない旨 6 1 5 2 Wを表示制御部 3 2 7 に通知しているが、この回数は任意に決めることができる。

30

40

【 0 3 5 6 】

このように受信機 3 0 0 が受信して表示している番組のチャンネル番号が変わる場合、制御部 3 3 0 は、チャンネル番号 (service_id)を用いることで、切り換わった後の番組においてM P Tの解析結果を解析部 3 0 9 から受信したタイミングにおいて、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 3 2 7 に通知しないようにすることができる。

【 0 3 5 7 】

例えばユーザが視聴したい番組を選択する際に、5 秒乃至 2 0 秒程度の短い時間表示器 3 2 8 に表示されている番組内容を確認しながら、例えばリモコン 3 5 2 を用いてチャンネ

50

ルを次々と切り替えていく、というユーザ操作のシーンが想定される。あるいはユーザがある番組の視聴予約することで、受信機 300 が、視聴予約時刻に表示器 328 に表示している番組から視聴予約した番組に切り換える、というユーザ操作シーンも想定される。このようなユーザ操作シーンは、例えば図 29B (a) の表示器 328 が表示している表示内容の時間的な遷移 607W に相当する。このような操作シーンにおいては、ユーザが内容を確認している番組にデータコンテンツサービスが付加されていると、ユーザがチャンネルを切り替えるたびにデータコンテンツサービスが行われていない旨が表示器 328 に表示される可能性がある。

【0358】

これに対して本実施形態の受信機 300 は、受信機 300 が受信して表示している番組のチャンネル番号が変わる場合、制御部 330 が、切り換わった番組において MPT の解析結果を解析部 309 から受信したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 340 を介して認識しても、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 327 に通知しないようにできる。これにより受信機 300 は、ユーザが視聴したい番組を、チャンネルを次々と切り換えながら選択しても、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示しないため、受信機 300 に表示されている番組を視聴しながらチャンネル切り替え操作をしているユーザは、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示を煩わしく感じる事がなくなる。

【0359】

また、視聴予約を開始した番組において MPT の解析結果を解析部 309 から受信したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 340 を介して認識しても、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 327 に通知しないようにできるため、ユーザが、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示を煩わしく感じる事がなくなる。

【0360】

さらに制御部 330 は、受信して表示する番組のチャンネル番号が切り換わる場合、切り換わった番組において MPT の解析結果を解析部 309 から特定回数受信したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 340 を介して認識して、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 327 に通知してもよい。例えばユーザがチャンネルを次々切り換えながら視聴したい番組を選択している場合、視聴したい番組を決定した後は、その決定した番組をある程度の時間視聴し続ける、というユーザ操作シーンが想定される。このようなユーザ操作シーンは、例えば図 29B (c) の表示器 328 が表示している表示内容の時間的な遷移 613W に相当する。このような操作シーンにおいて本実施形態の受信機 300 は、チャンネル番号を次々切り替えることで選択した番組を視聴し続けた場合においても、特定回数の MPT の解析結果を解析部 309 から受信したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 340 を介して認識したときは、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 327 に通知できるため、ユーザの利便性が向上する。

【0361】

図 29C (a) , 図 29C (b) 、図 29C (c) は、受信機 300 への入力切り替えにより、受信機 300 が受信して表示している番組から例えば録画番組の表示に切り替える場合の、表示器 328 が表示している表示内容、解析部 309 が MPT (アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別が HTTP / HTTPS とする) を受信して解析するタイミング、および制御部 330 が、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 327 に通知するタイミング、の時間的な遷移の例を示している。

10

20

30

40

50

【 0 3 6 2 】

図 2 9 C (a) の 6 1 6 W は、表示器 3 2 8 が表示している表示内容の時間的な遷移である。6 1 6 W の例は、チャンネル番号 N 1 の番組 A 3 を受信中に、録画した番組である番組 B 3 の表示に切り替え、番組 B をあるタイミングで再びチャンネル番号 N 1 の番組 A 3 の表示に切り替えて番組 A 3、番組 B 3、番組 A 3 を順次表示器 3 2 8 に表示する場合である。番組 A 3 (チャンネル N 1) 6 1 6 1 W と番組 A 3 (チャンネル N 1) 6 1 6 3 W とは、同一の番組である。

【 0 3 6 3 】

6 1 7 W は、解析部 3 0 9 が、受信した M P T (アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別が H T T P / H T T P S とする)を解析するタイミングの時間的な遷移である。解析部 3 0 9 は、表示器 3 2 8 に番組 A 3 (チャンネル N 1) 6 1 6 1 W が表示されている間に M P T 6 1 7 1 W を受信し解析し、番組 A 3 (チャンネル N 1) 6 1 6 3 W が表示されている間に M P T 6 1 7 2 W、M P T 6 1 7 3 W を受信して解析している。

10

【 0 3 6 4 】

6 1 8 W は、制御部 3 3 0 が、解析部 3 0 9 から解析結果を受信したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 3 4 0 を介して認識した場合に、表示制御部 3 2 7 に対して、データコンテンツサービスが行われていない旨を通知するタイミングの時間的な遷移である。

20

【 0 3 6 5 】

制御部 3 3 0 は、番組 B 3 (録画番組) 6 1 6 2 W のように放送波による番組以外を表示器 3 2 8 に表示した場合、現在受信して表示している放送番組がないため、現在番組情報エリア 3 2 1 - 2 W のチャンネル識別情報および番組識別情報に N U L L を設定する。また制御部 3 3 0 は、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W のチャンネル識別情報および番組識別情報に N U L L を設定する。

【 0 3 6 6 】

制御部 3 3 0 は、M P T 6 1 7 2 W の解析結果を解析部 3 0 9 から受信すると、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と、現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを比較する。M P T 6 1 7 2 W の解析結果を解析部 3 0 9 から受信したタイミングでは、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報が N U L L のため、現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と一致しない。

30

【 0 3 6 7 】

このため制御部 3 3 0 は、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報が N U L L であることから、表示器 3 2 8 に表示する内容が、受信番組以外から受信番組に切り換わったと判断する。制御部 3 3 0 は、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 3 4 0 を介して認識しているので、表示器 3 2 8 に表示する内容が受信番組以外から受信番組に切り換わったとの判断にもとづいて、データコンテンツサービスが行われていない旨 6 1 8 1 W を表示制御部 3 2 7 に通知する。

40

【 0 3 6 8 】

図 2 9 C (b) および図 2 9 C (c) も、図 2 9 C (a) 同様に、表示器 3 2 8 に表示している内容が、受信機 3 0 0 が受信して表示している番組から例えば録画番組の表示に切り変わる場合である。図 2 9 C (a) との違いは、表示器 3 2 8 に表示している録画番組の前後の番組が、図 2 9 C (a) が同じチャンネル番号の同じ番組であるのに対して、図 2 9 C (b) が同じチャンネル番号の違う番組の場合、図 2 9 C (c) が違うチャンネルの場合である。

50

【 0 3 6 9 】

6 1 9 Wは、表示器 3 2 8 が、表示する表示内容の時間的な遷移である。

6 2 0 Wは、解析部 3 0 9 が、受信した M P T（アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別が H T T P / H T T P S とする）を解析するタイミングの時間的な遷移である。

【 0 3 7 0 】

6 2 1 Wは、制御部 3 3 0 が、解析部 3 0 9 から解析結果を受信したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 3 4 0 を介して認識した場合に、表示制御部 3 2 7 に対して、データコンテンツサービスが行われていない旨を通知するタイミングの時間的な遷移である。

10

【 0 3 7 1 】

6 2 2 Wは、表示器 3 2 8 が、表示する表示内容の時間的な遷移である。

6 2 3 Wは、解析部 3 0 9 が、受信した M P T（アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別が H T T P / H T T P S とする）を解析するタイミングの時間的な遷移である。

【 0 3 7 2 】

6 2 4 Wは、制御部 3 3 0 が、解析部 3 0 9 から解析結果を受信したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 3 4 0 を介して認識した場合に、表示器 3 2 8 に対して、データコンテンツサービスが行われていない旨を通知するタイミングの時間的な遷移である。

20

【 0 3 7 3 】

いずれの場合も制御部 3 3 0 は、表示器 3 2 8 に表示されている表示内容が、録画した番組から受信機 3 0 0 が受信している番組に切り換わった後の、最初の M P T の解析結果を解析部 3 0 9 から受信したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 3 4 0 を介して認識し、さらに第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W に保存されている番組識別情報が N U L L のため、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 3 2 7 に通知する。

【 0 3 7 4 】

このように受信機 3 0 0 が、受信機 3 0 0 への入力切り替えにより、受信している番組から例えば録画番組に切り変わる場合、再度受信機 3 0 0 が受信している番組に切り換わった場合には、図 2 9 A に示す処理同様に、最初の M P T を受信して解析したタイミングで、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 3 2 7 に通知することができる。これにより受信機 3 0 0 は、表示器 3 2 8 に例えば録画した番組のような放送された番組でない番組を表示している状態から、受信機 3 0 0 が受信している番組を表示する状態に切り換わった場合は、切り換わった後の最初に M P T を受信して解析したタイミングで、データコンテンツサービスが行われていない旨を必ず表示制御部 3 2 7 に通知するため、ユーザの利便性が向上する。

30

【 0 3 7 5 】

なお図 2 9 C の例では、受信機 3 0 0 が受信している番組以外を表示器 3 2 8 に表示する例として、録画した番組を例としてあげたが、例えば D V D プレーヤーからの入力映像や P C（パーソナルコンピュータ）からの入力映像でもよい。

受信機 3 0 0 は、さらにリモコン E / F 3 2 4 を経由して入力されるリモコン 3 5 2 の操作内容に対応して、データコンテンツサービスの内容を表示器 3 2 8 に表示することもできる。データコンテンツサービスの内容を表示するリモコン 3 5 2 のボタンとして、例えば d ボタンがある。

40

【 0 3 7 6 】

図 3 0 は、リモコンに存在する d ボタン 7 0 1 W およびその周辺の例を示す図である。ユーザがこの d ボタン 7 0 1 W を押下すると、現在表示器 3 2 8 に表示されている番組にデ

50

ータコンテンツサービスが付加されている場合、その付加されているデータコンテンツサービスの内容を表示することができる。

【0377】

しかし受信機300は、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にない場合、dボタン押下によるデータコンテンツサービスの内容の表示を要求するコマンドをリモコン352から受信すると、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部327に通知する。

【0378】

図31A、図31B、図31Cは、図29A(a)、図29B(a)、図29C(a)で示した、時間的な遷移に、制御部330が、リモコン352のdボタンが押下されたことを認識したタイミング、およびデータコンテンツサービスが行われていない旨の表示を表示器328に通知するタイミングを加えた図である。なお図31Aから図31Cまでの説明では、受信機300が通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを前提に説明する。

10

【0379】

図31Aは、図29A(a)に、制御部330が、リモコン352のdボタンが押下されたことを認識したタイミング(8041W、8042W、8044W)、およびそのdボタン押下の認識をもとにデータコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部327に通知するタイミング(8043W)を追加した図である。

【0380】

801Wは図29A(a)の601Wと同一であり、802Wは図29A(a)の602Wと同一であり、803Wは、図29A(a)の603Wと同一である。804Wは、制御部330がリモコン352のdボタンが押下されたことを認識したタイミング、およびdボタンが押下されたことを認識したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部340を介して認識した場合に、表示制御部327に対してデータコンテンツサービスが行われていない旨を通知するタイミングである。

20

【0381】

制御部330は、dボタン押下をタイミング8041Wで認識したとすると、このタイミング8041Wにおいて表示器328に表示されている表示内容にデータコンテンツサービスが付加されているかを確認する。

30

タイミング8041Wの時点では、解析部309が番組B1(チャンネルN1)のMPTを受信していないため、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wには、番組A1(チャンネルN1)8011Wのチャンネル識別情報であるチャンネルN1、番組識別情報である番組A1が保存されている。また現在番組情報保存エリア321-2Wには、番組B1(チャンネルN1)8012Wのチャンネル識別情報であるチャンネルN1、番組識別情報である番組A1が保存されている。

【0382】

制御部330は、dボタン押下を認識したタイミング8041Wにおいて、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と、現在番組情報保存エリア321-2Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを比較する。dボタン押下を認識したタイミング8041Wでは、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報は、番組A1(チャンネルN1)の情報であり、現在番組情報保存エリア321-2Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と一致していない。

40

【0383】

このため制御部330は、現在受信している番組においては、MPT(アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別がHTTP/HTTPSとする)を受信していないと認識し、表示器328に表示されている表示内容はデータコンテンツサー

50

ビスが付加されていない、と判断する。制御部 330 は、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを、通信制御部 340 を介して認識しているが、タイミング 8041W においては、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 327 に通知しない。

【0384】

制御部 330 は、d ボタン押下をタイミング 8042W で認識したとすると、このタイミング 8042W において表示器 328 に表示されている表示内容にデータコンテンツサービスが付加されているかを確認する。

タイミング 8042W の時点では、解析部 309 が番組 B1 (チャンネル N1) の MPT 8023W を受信しているため、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 321 - 1W には、番組 B1 (チャンネル N1) 8012W のチャンネル識別情報であるチャンネル N1、番組識別情報である番組 B1 が保存されている。また現在番組情報保存エリア 321 - 2W には、番組 B1 (チャンネル N1) 8012W のチャンネル識別情報であるチャンネル N1、番組識別情報である番組 A1 が保存されている。

10

【0385】

制御部 330 は、d ボタン押下を認識したタイミング 8042W において、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 321 - 1W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と、現在番組情報保存エリア 321 - 2W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを比較する。d ボタン押下を認識したタイミング 8042W では、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 321 - 1W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報は、現在番組情報保存エリア 321 - 2W に保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と一致している。

20

【0386】

このため制御部 330 は、d ボタン押下を認識したタイミング 8042W では、現在受信している番組においては、MPT (アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別が HTTP / HTTPS とする) を受信していると認識し、表示器 328 に表示されている表示内容はデータコンテンツサービスが付加されている、と判断する。制御部 330 は、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 340 を介して認識しているので、タイミング 8042W においては、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 327 に通知 8043W する。

30

【0387】

図 31B は、図 29B (a) に、制御部 330 が、リモコン 352 の d ボタンが押下されたことを認識したタイミング (8101W、8102W)、およびその d ボタン押下の認識をもとにデータコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 327 に通知するタイミング 8103W を追加した図である。

【0388】

807W は図 29B (a) の 607W と同一であり、808W は図 29B (a) の 608W と同一であり、809W は、図 29B (a) の 609W と同一である。810W は、制御部 330 が、リモコン 352 の d ボタンが押下されたことを認識したタイミング、およびデータコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 327 に通知するタイミングである。

40

【0389】

制御部 330 は、d ボタン押下をタイミング 8101W で認識したとすると、このタイミング 8101W において表示器 328 に表示されている表示内容にデータコンテンツサービスが付加されているかを確認する。

タイミング 8101W の時点では、解析部 309 が番組 B2 (チャンネル N2) 8072W の MPT を受信していないため、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 321 - 1W には、番組 A2 (チャンネル N1) 8071W のチャンネル識別情報であるチャンネル N1、番組識別情報である番組 A2 が保存されている。また現在番組情報保存エリア 32

50

1 - 2 Wには、番組 B 2 (チャンネル N 2) 8 0 7 2 Wのチャンネル識別情報であるチャンネル N 2、番組識別情報である番組 A 2 が保存されている。

【 0 3 9 0 】

制御部 3 3 0 は、d ボタン押下を認識したタイミング 8 1 0 1 Wにおいて、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と、現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを比較する。d ボタン押下を認識したタイミング 8 1 0 1 Wでは、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報は、現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と一致していない。

10

【 0 3 9 1 】

このため制御部 3 3 0 は、現在受信している番組においては、M P T (アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別が H T T P / H T T P Sとする)を受信していないと認識し、表示器 3 2 8 に表示されている表示内容はデータコンテンツサービスが付加されていない、と判断する。制御部 3 3 0 は、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 3 4 0 を介して認識しているが、タイミング 8 1 0 1 Wにおいては、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 3 2 7 に通知しない。

【 0 3 9 2 】

制御部 3 3 0 は、d ボタン押下をタイミング 8 1 0 2 Wで認識したとすると、このタイミング 8 1 0 2 Wにおいて表示器 3 2 8 に表示されている表示内容にデータコンテンツサービスが付加されているかを確認する。

20

タイミング 8 1 0 2 Wの時点では、解析部 3 0 9 が番組 B 2 (チャンネル N 2) 8 0 7 2 Wの M P T 8 0 8 2 Wを受信しているため、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 Wには、番組 B 2 (チャンネル N 2) 8 0 7 2 のチャンネル識別情報であるチャンネル N 2、番組識別情報である番組 B 2 が保存されている。また現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 には、番組 B 2 (チャンネル N 2) 8 0 7 2 のチャンネル識別情報であるチャンネル N 2、番組識別情報である番組 B 2 が保存されている。

【 0 3 9 3 】

制御部 3 3 0 は、d ボタン押下を認識したタイミング 8 1 0 2 Wにおいて、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と、現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを比較する。d ボタン押下を認識したタイミング 8 1 0 2 Wでは、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報は、現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報に一致している。

30

【 0 3 9 4 】

このため制御部 3 3 0 は、d ボタン押下を認識したタイミング 8 1 0 2 Wでは、現在受信している番組においては、M P T (アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別が H T T P / H T T P Sとする)を受信していると認識し、表示器 3 2 8 に表示されている表示内容はデータコンテンツサービスが付加されている、と判断する。制御部 3 3 0 は、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 3 4 0 を介して認識しているので、タイミング 8 1 0 2 Wにおいては、データコンテンツサービスが行われていない旨 8 1 0 3 Wを表示制御部 3 2 7 に通知 8 1 0 3 Wする。

40

【 0 3 9 5 】

図 3 1 C は、図 2 9 C (a) に、制御部 3 3 0 が、リモコン 3 5 2 の d ボタンが押下されたことを認識したタイミング (8 1 9 1 W、8 1 9 2 W)、およびその d ボタン押下の認識をもとにデータコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 3 2 7 に通知するタイミング 8 1 9 3 Wを追加した図である。8 1 6 Wは図 2 9 C (a) の 6 1 6 Wと同一

50

であり、817は図29C(a)の617Wと同一であり、818Wは、図29C(c)の618Wと同一である。819Wは、制御部330が、リモコン352のdボタンが押下されたことを認識したタイミング、およびデータコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部327に通知するタイミングである。

【0396】

制御部330は、dボタン押下をタイミング8191Wで認識したとすると、このタイミング8191において表示器328に表示されている表示内容にデータコンテンツサービスが付加されているかを確認する。

タイミング8191Wの時点では、番組B3(録画番組)が表示器328に表示されているため、上記したように現在番組情報保存エリア321-2Wのチャンネル識別情報および番組識別情報は、NULLが設定されている。

10

【0397】

制御部330は、現在番組情報保存エリア321-2Wのチャンネル識別情報および番組識別情報にNULLが設定されているので、表示器328に表示されている表示内容はデータコンテンツサービスが付加されていない、と判断する。制御部330は、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部340を介して認識しているが、タイミング8191Wにおいては、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部327に通知しない。

【0398】

制御部330は、dボタン押下をタイミング8192Wで認識したとすると、このタイミング8192Wにおいて表示器328に表示されている表示内容にデータコンテンツサービスが付加されているかを確認する。

20

タイミング8192Wの時点では、解析部309が番組C3(チャンネルN1)のMP T 8172Wを受信しているため、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wには、番組C3(チャンネルN1)8162のチャンネル識別情報であるチャンネルN1、番組識別情報である番組C3が保存されている。また現在番組情報保存エリア321-2Wには、番組C3(チャンネルN1)8162のチャンネル識別情報であるチャンネルN1、番組識別情報である番組C3が保存されている。

【0399】

制御部330は、dボタン押下を認識したタイミング8192Wにおいて、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報と、現在番組情報保存エリア321-2Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報とを比較する。dボタン押下を認識したタイミング8092Wでは、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報は、現在番組情報保存エリア321-2Wに保存されているチャンネル識別情報および番組識別情報に一致している。

30

【0400】

このため制御部330は、dボタン押下を認識したタイミング8102Wでは、現在受信している番組においては、MP T(アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別がHTTP/HTTPSとする)を受信していると認識し、表示器328に表示されている表示内容はデータコンテンツサービスが付加されている、と判断する。制御部330は、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部340を介して認識しているので、タイミング8193Wにおいては、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部327に通知8193Wする。

40

【0401】

このように受信機300は、リモコン352の操作内容により、データコンテンツサービスの内容を表示器328に表示しようとした場合、表示器328に表示している表示内容にデータコンテンツサービスが付加されているかを判断して、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にない場合には、データコ

50

ンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 3 2 7 に通知することができる。これによりユーザは、任意のタイミングにおいて、データコンテンツサービスが行われているかを確認することができる。例えば、先に説明したように、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 3 4 0 を介して認識した場合、受信機 3 0 0 は、表示器 3 2 8 に対してデータコンテンツサービスが行われていない旨の表示を通知しない機能を持つが、ユーザがなんらかの不安を抱いた時には、d ボタンを押下することで、データコンテンツサービスの実施状況を確認するために、利用することもできる。

【 0 4 0 2 】

また受信機の設定により、図 2 9 A (a) から図 2 9 C (c) のような、チャンネル識別情報および番組識別情報をもとにした、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示の通知はいっさい行わずに、ユーザが d ボタンを押下した場合のみ、データコンテンツサービスの実施状況を確認することができるようにしてもよい。

10

【 0 4 0 3 】

これにより、ユーザの意図に応じてデータコンテンツサービスの実施状況を確認することができる。また、ユーザの意図しないタイミングで、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示が行われることが無くなるため、ユーザはデータコンテンツサービスが行われていない旨の表示を煩わしく感じる事がなくなる。

【 0 4 0 4 】

また受信機の設定により、図 2 9 A (a) から図 2 9 C (c) のような、チャンネル識別情報および番組識別情報をもとにした、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示の通知はいっさい行わずに、受信機の電源投入後にデータコンテンツサービスが行われていないことを初めて認識したときに 1 回、あるいはそれ以降におけるデータコンテンツサービスが行われていないことを認識することが規定回数回に達するまで、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示の通知をおこなうことができるようにしてもよい。

20

【 0 4 0 5 】

以上のように、受信機は、例えば受信機の初期設定メニューの中で、エラーメッセージを表示しない、もしくは次回以降は当該エラーメッセージを表示しないように設定を可能とすることができ、例えば選局の度にエラーメッセージが表示画面に表示されユーザの視聴を妨げないようすることが可能となる。

30

【 0 4 0 6 】

また受信機 3 0 0 は、ネットワーク I / F 3 4 1 を介して、ユーザが所有する P C (パーソナルコンピュータ)、スマートフォン等の電子機器と接続することも可能である。この場合、図 2 9 A (a) から図 2 9 C (c)、図 3 1 A から図 3 1 C の各々の一部あるいは全てにおいて、データコンテンツサービスが行われていない旨の通知を、ユーザが所有する電子機器に通知することも可能である。図 2 9 A (a) から図 2 9 C (c)、図 3 1 A から図 3 1 C のどのような場合をユーザが所有する電子機器に通知させるかは、例えば受信機の初期設定メニューの中で設定可能である。また、データコンテンツサービスが行われていない旨の通知は、受信機 3 0 0 の表示器 3 2 8 とユーザが所有する電子機器の両方に表示してもよい。

40

【 0 4 0 7 】

ユーザの電子機器に通知する内容は、受信機 3 0 0 の表示器 3 2 8 に表示する内容と同じでもよいし、より分かりやすいように、チャンネル番号、番組名等を含んだ内容でもよい。またユーザの電子機器に通知する手段は、ユーザの電子機器が特定できるものであればいずれの手段でもよく、例えばメールやインスタントメッセージでもよい。

【 0 4 0 8 】

受信機の初期設定の内容は、制御部 3 0 9 が管理する不揮発領域 (図示しない) に保存されている。図 3 2 A、図 3 2 B、図 3 2 C、図 3 2 D、図 3 2 E は、図 2 9 A (a)、図 2 9 A (b)、図 2 9 B (a)、図 2 9 B (b)、図 2 9 B (c)、図 2 9 C (a)、

50

図 29 C (b)、図 29 C (c)、図 31 A、図 31 B、図 31 C に示した時間的な遷移に対する処理フローである。

【 0409】

図 32 A および図 32 B は、放送番組にデータコンテンツサービスが付加されている場合の、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示器に通知する通知処理の処理フローチャートである。

受信機 300 は、放送波による番組の映像信号や音声信号を受信すると、映像信号や音声信号とともに多重化されている伝送制御信号も受信し、通知処理 1 (S 900 W) を開始する。

【 0410】

解析部 309 は、表示器に表示している番組の `service_id` と `event_id` を伝送制御信号から抽出し、現在番組情報保存エリア 321 - 2 W に保存する (S 901 W)。解析部 309 は、次に MPT の抽出を行う (S 901 W)。伝送制御信号の中から MPT を抽出出来れば (S 903 W の Yes)、MPT の中からアプリケーションサービス記述子の抽出を行う (S 904 W)。

【 0411】

伝送制御信号の中から MPT を抽出出来なければ (S 903 W の No)、受信機 300 は次の伝送制御信号の受信を待つために、処理を終了する (S 912 W)。

解析部 309 は、MPT の中からアプリケーションサービス記述子が抽出できたら (S 905 W の Yes)、その抽出結果を制御部 330 に送る。解析部 309 から送られてきた抽出結果を受信した制御部 330 は、通信ネットワークに接続しているかの確認を行う (S 906 W)。この確認は、受信機 300 がネットワーク I / F 341 を介して、通信ネットワーク 351 と接続されているかの確認である。受信機 300 が通信ネットワーク 351 に接続しているかの確認は、例えば制御部 330 が、通信制御部 340 がネットワーク I / F 341 を介して通信ネットワーク 351 中に存在しているルーター (図示しない) とデータのやり取りができているかを判断することで、確認することができる。

【 0412】

制御部 330 は、受信機 300 が通信ネットワークに接続していることを確認すると (S 906 W の Yes)、アプリケーションサービス記述子に含まれる `AIT_location_info` フィールド、`DT_message_location_info` フィールド、`EMT_location_info` フィールドの `location_info` の情報をもとに関連するテーブル情報の参照 (S 907 W) を行う。制御部 330 は、`location_info` 情報に書かれた関連するテーブル情報を用いて、通信ネットワーク 351 を介してアプリケーション機能の提供元にアクセスする (S 908 W)。

【 0413】

制御部 330 は、通信ネットワーク 351 を介してアプリケーション機能の提供元にアクセスした (S 907 W) ときに、正しく通信ができる状態にあることの確認を行う (S 909 W)。制御部 330 は、アプリケーション機能の提供元と正しく通信ができる状態にあることが確認できると (S 908 W の Yes) と、アプリケーション機能の取得を行う (S 910 W)。制御部 330 は、アプリケーション機能の取得を行うと、取得したアプリケーション機能の管理・実行を行う。

【 0414】

アプリケーション機能の提供元と正しく通信ができる状態にあることの確認は、例えば制御部 330 が、通信制御部 340 がネットワーク I / F 341 を介してアプリケーション機能の提供元にアクセスしてアプリケーション機能提供元との間で特定の信号のやり取りが完結したかを判断することで、確認することができる。

【 0415】

制御部 330 は、通信ネットワーク 351 に接続していないことを確認した場合 (S 906 W の No)、またはアプリケーション機能提供元と正しく通信ができる状態にないことを確認した場合 (S 909 W の No) は、データコンテンツサービスが行われていない旨

10

20

30

40

50

の表示を行うかの判断の処理に移る。

【0416】

制御部330は、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているservice_id、event_idおよび現在番組情報エリア321-2Wに保存されているservice_id、event_idの読み出し(S913W)を行う。

【0417】

制御部330は、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているservice_id、event_idおよび現在番組情報保存エリア321-2Wに保存されているservice_id、event_idとを用いて、第1の条件判定処理(S914W)を行う。

10

【0418】

第1の条件判定処理(S914W)の結果、第1の条件を満たす場合(S916WのYes)、制御部330は、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示を表示部328に通知して(S915W)、通知処理1を終了する(S912W)。

第1の条件判定処理(S914W)の結果、第1の条件を満たさない場合(S916WのNo)、制御部330は、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示を表示部328に通知しないで処理を終了する(S912W)。

【0419】

図9Cは、受信機に対する入力切り替えにより、放送番組以外を表示器328に表示している場合の、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部327に通知する通知処理の処理フローチャートである。

20

制御部330は、受信機300に対する入力切り替えにより、放送波により受信している番組以外を表示器328に表示を始めると、通知処理2(S920W)を開始する。制御部330は、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wのチャンネル情報保存エリア321-10Wと番組情報保存エリア321-11W、現在番組情報保存エリア321-2Wのチャンネル情報保存エリア321-20Wと番組情報保存エリア321-21WにNULLを設定し(S921W)して、通知処理2を終了する(S922W)。

【0420】

図32Dは、図32BのS914Wの第1の条件判定処理の処理フローである。

制御部330は、第1の条件判定処理を開始する(S930W)と、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているservice_idと現在番組情報エリア321-2Wに保存されているservice_idとの比較を行う(S931W)。

30

【0421】

比較を行った結果、一致していないと判断した場合(S931WのNo)制御部330は、前回番組情報のservice_idがNULLかを確認する(S935W)。

確認の結果、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているservice_idがNULLの場合(S935WのYes)、制御部330は、判定結果を第1の条件を満たす(S933W)として第1の条件判定処理を終了(S934W)する。

40

【0422】

確認の結果、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1Wに保存されているservice_idがNULLでない場合(S935WのNo)、制御部330は、判定結果を第1の条件を満たさない(S936W)として第1の条件判定処理を終了(S934W)する。

【0423】

判定結果が第1の条件を満たす(S933W)場合は、図32BのS916Wの第1の条件を満たすかの判定処理においてYesが成立する場合であり、制御部330は、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示を表示部328に通知する(S915W)場合である。この場合は、例えば、第1の指定情報受信時番組情報保存エリア321-1

50

Wに保存されている `service_id` および `event_id` と、現在番組情報エリア 321 - 2Wに保存されている `service_id` および `event_id` とにおいて、図 29A (a)、図 29A (b) に示すように `service_id` は一致していて `event_id` が一致していない場合、つまり同じチャンネルで番組が切り換わった場合に相当する。あるいは例えば図 29C (a)、図 29C (b)、図 29C (c) に示す放送番組以外を表示器 328 に表示することで、図 32B の通知処理 2 により第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 321 - 1Wに保存されている `service_id` が NULL に更新され、さらに放送番組以外の表示から放送番組の表示に切り換わった場合に相当する。

【0424】

このように本実施形態の受信機 300 は、表示器 328 に表示する内容の切り換えりが、同一のチャンネルにおける番組の切り換わりの場合、あるいは入力切り替えにより放送番組以外から放送番組への切り換わりの場合、その切り換わった後の番組において最初のアプリケーションサービス記述子を受信したタイミングで、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 327 に通知することが可能となる。

【0425】

さらに図 32B の S914W の第 1 の条件判定処理の処理フローは、図 29B (c) に示すように、表示器 328 に表示する内容が、チャンネル切り替えにより切り換わった場合、その切り替えた後の番組において、アプリケーションサービス記述子を受信した回数に応じて、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 327 に通知することもできる。

【0426】

図 32E は、図 32B の S914W の第 1 の条件判定処理の他の処理フローチャートである。

図 32E の S940W から S946W までの処理は、図 32D の S930W から S936W までの処理と同一である。図 32E の処理は、図 32D の処理に対して S947W から S950W の処理が加わったものである。表示器 328 に表示する内容の切り換えりが、チャンネル切り換えによる場合、制御部 330 は、S941W の判定処理を No と判定し、カウンタに N を設定 (S950W) する (N > 0 の整数とする)。以降で制御部 330 は、切り換え後のチャンネルの番組においてアプリケーションサービス記述子を受信するごとにカウンタをデクリメント (S948W) しながら、デクリメントしたカウンタが 0 になったかの確認をする (S949W)。

【0427】

確認の結果、カウンタが 0 の場合 (S949W の Yes)、制御部 330 は、このタイミングでデータコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 327 に通知することができる。

このように本実施形態の受信機 300 は、図 29B (c) に示すように、アプリケーションサービス記述子を受信した回数に応じて、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 327 に通知することもできる。

【0428】

図 33 は、図 31A、図 31B、図 31C に示したリモコン 352 操作によるデータコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部に通知する通知処理の処理フローチャートである。

通信制御部 340 は、リモコン I/F 342 を介して、リモコン 352 の d ボタンが押下された信号を受け取ると、信号を受信した旨を制御部 330 に通知する。制御部 330 は、d ボタンが押下された旨を通信制御部 340 から受信すると、通知処理 3 (S1000W) を開始する。

【0429】

制御部 330 は、第 2 の条件の判定を行うために、第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 321 - 1Wに保存されている `service_id`、`event_id` および現在

10

20

30

40

50

番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 W に保存されている `service__id`、`event__id` を読み出す (S 1 0 0 1 W)。

【 0 4 3 0 】

制御部 3 3 0 は、読み出した第 1 の指定情報受信時番組情報保存エリア 3 2 1 - 1 W と現在番組情報保存エリア 3 2 1 - 2 W とに保存されている `service__id` および `event__id` が等しいかの確認 (第 2 の条件の判定) を行う (S 1 0 0 2 W)。

確認の結果、等しくない場合 (S 1 0 0 2 W の No)、制御部 3 3 0 は、通知処理 3 を終了する (S 1 0 0 6 W)。

【 0 4 3 1 】

確認の結果、等しい場合 (S 1 0 0 3 W の Yes)、制御部 3 3 0 は、受信機 3 0 0 が通信ネットワークに接続しているかの確認 (S 1 0 0 3 W) および通信ネットワーク 3 5 1 を介してアプリケーション機能の提供元にアクセスしたときに、正しく通信ができる状態にあることの確認 (S 1 0 0 4 W) を行う。この S 1 0 0 3 W の処理は、図 3 2 A の S 9 0 6 W の処理と同一であり、S 1 0 0 4 W の処理は、図 3 2 B の S 9 0 9 W の処理と同一である。

【 0 4 3 2 】

確認の結果、通信ネットワークに接続されていないと判断した場合 (S 1 0 0 3 W の No)、あるいはアプリケーション機能提供元と正しく通信ができないと判断した場合 (S 1 0 0 4 W の No)、制御部 3 3 0 は、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示を表示部 3 2 8 に通知して (S 1 0 0 7 W)、通知処理 3 を終了する (S 1 0 0 6 W)。

【 0 4 3 3 】

確認の結果、通信ネットワークに接続されていると判断した場合 (S 1 0 0 3 W の Yes)、かつアプリケーション機能提供元と正しく通信ができる状態にあると判断した場合 (S 1 0 0 4 W の Yes)、制御部 3 3 0 は、データコンテンツサービスの内容を表示機 3 2 8 に表示 (S 1 0 0 5 W) して、通知処理 3 を終了する (S 1 0 0 6 W)。

【 0 4 3 4 】

データコンテンツサービスが行われていない旨の表示である、エラーメッセージを表示する場所は、ユーザの視聴を妨げることがない位置に表示することが望ましい。例えば表示器 3 2 8 の表示画面に対して、受信した番組を縮小して表示することでできた表示画面内の残余の部分に表示してもよい。

【 0 4 3 5 】

図 3 4 は、表示器 1 1 0 0 W の表示画面と表示画面内に表示する番組の表示領域の関係を示した図である。表示器 1 1 0 0 W は、受信機 3 0 0 が受信した番組、あるいは入力切り替えにより受信した番組以外の映像を表示する領域である表示画面 1 1 0 1 W と表示画面 1 1 0 1 を固定するために表示画面 1 1 0 1 W の外周を囲むフレーム 1 1 0 2 W を含む。

【 0 4 3 6 】

図 3 4 (A) は、受信機 3 0 0 が受信した番組、あるいは入力切り替えにより受信した番組以外の映像を、表示器 3 2 8 の表示画面 1 1 0 1 W の全領域に表示した場合の表示画面の例である。

図 3 4 (B) は、受信機 3 0 0 が受信した番組、あるいは入力切り替えにより受信した番組以外の映像を、表示器 3 2 8 の表示画面 1 1 0 1 W の全領域に対して縮小した表示領域 1 1 0 3 内に表示した例である。このように受信機 3 0 0 が受信した番組、あるいは入力切り替えにより受信した番組以外の映像を縮小して表示することで生じた表示画面 1 1 0 1 内の残余の部分 1 1 0 4 W は、例えば黒表示となる。この黒表示領域に対して、例えば「データの表示に失敗しました」等のエラーメッセージを表示してもよい。

【 0 4 3 7 】

あるいは表示画面 1 1 0 1 W の外に表示してもよい。表示画面 1 1 0 1 W の外に表示する例としては、フレーム 1 1 0 2 W の一部、フレーム 1 1 0 2 W の側部、フレーム 1 1 0 2 W の下部にもうけられるデコレーションの一部、コネクタの一部、あるいはこれらの組み

10

20

30

40

50

合わせ構成等として、当該一部でLEDを点滅させることで、ユーザに注意を促す手段であってもよい。

【0438】

さらに本実施形態の受信機300は、データコンテンツサービスを行う際に、アプリケーションを送送するプロトコル種別に応じて、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部327に通知する制御を変えることもできる。

上述したようにアプリケーションサービス記述子は、AIT_location_infoフィールドに、参照すべきMH-AIT(MH-Application Information Table)のロケーションを設定した構成になっている。したがって受信機300は、アプリケーションサービス記述子を解析することでMH-AITを参照することができる。MH-AITには、伝送プロトコルの指定と伝送プロトコルに依存したアプリケーションのロケーション情報が記載されたMH-伝送プロトコル記述子が配置されている。

10

【0439】

図35Aは、MH-プロトコル記述子の構成を表した図である。MH-プロトコル記述子は、protocol_id(プロトコル識別)フィールド1201Wとselector_byte(セクタ領域)フィールド1202Wを持つ。protocol_id(プロトコル識別)フィールド1201Wは、データコンテンツサービスにおけるアプリケーションを送送するプロトコルを示している。selector_byte(セクタ領域)フィールド1202Wは、プロトコル識別毎に規定される補足情報を格納するフィールドである。

20

【0440】

図35Bは、protocol_id(プロトコル識別)フィールド1201Wの一覧を示している。プロトコル識別が0x0003(HTTP/HTTPS伝送)1203Wは、指定されたURLに従い受信機が、通信ネットワーク上のサーバよりアプリケーションを取得し、実行することを意味している。

【0441】

図35Cは、protocol_id(プロトコル識別)フィールド1201WがHTTP/HTTPS伝送あるいはMMT non-timed伝送の場合の、selector_byte(セクタ領域)フィールド1202Wの構成を示した図である。

【0442】

解析部309は、受信したアプリケーションサービス記述子を解析することで、MH-AITを参照することが可能となり、MH-AITに配置されているMH-プロトコル記述子を解析することができる。これにより解析部309は、protocol_id(プロトコル識別)フィールド1201Wおよびselector_byte(セクタ領域)フィールド1202Wを認識することができる。

30

【0443】

MH-プロトコル記述子のprotocol_id(プロトコル識別)が、例えば0x0003(HTTP/HTTPS伝送)の場合、解析部309は、selector_byte(セクタ領域)フィールド1202WのURL_base_byteフィールド1204を参照することで、アプリケーションを取得するためのURLのベース部の文字列を解析することができる。URL_base_byteフィールド1204Wは、アプリケーションを取得するためのURLのベース部の文字列を格納するエリアである。

40

【0444】

解析部309は、さらにURLのベース部の文字列を解析することで、URLのスキームを認識し、その認識結果を制御部330に送付することができる。URLのスキームの認識結果を受信した制御部312は、その内容にもとづいてアプリケーションを取得するためのプロトコルを決定する。例えばURL_base_byteフィールド1204Wに記載されているスキームがhttpsの場合、制御部330は、TLS(Transport Layer Security)を用いたセキュリティ通信によりアプリケーションを取得する。

50

【 0 4 4 5 】

そこで本実施形態の受信機 3 0 0 はさらに、URL のスキームが `h t t p s` である場合は、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 3 2 7 に、例えば常に通

知することができる。
図 3 6 A、図 3 6 B は、図 2 9 A (a)、図 2 9 B (a) で示した時間的な遷移において、受信した M P T を解析した結果 URL のスキームが `h t t p s` であることを認識した場合の、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 3 2 7 に通知するタイミングを示した図である。なお図 3 6 A、図 3 6 B の説明では、受信機 3 0 0 が通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを前提に説明する。

10

【 0 4 4 6 】

図 3 6 A は、図 2 9 A (a) 同様、受信機 3 0 0 が受信して表示している番組のチャンネルが変わらず番組だけが変化する場合は、表示器 3 2 8 が表示している番組の表示内容、解析部 3 0 9 が M P T (アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別が `H T T P / H T T P S` とする) を受信して解析するタイミング、および制御部 3 3 0 が、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部 3 2 7 に通知するタイミング、の時間的な遷移の例を示す図である。

【 0 4 4 7 】

図 3 6 A の 1 3 0 1 W は、表示器 3 2 8 が表示している表示内容の時間的な遷移である。番組 A 1 (チャンネル N 1) は、チャンネル番号 (`service_id`) N 1 の番組 (`event_id`) A 1 であることを示している。1 3 0 1 W の例は、チャンネル番号が N 1 のまま時間の経過とともに番組 A 1、番組 B 1、番組 C 1 を順次表示器 3 2 8 に表示する場合である。

20

【 0 4 4 8 】

1 3 0 2 W は、解析部 3 0 9 が、受信した M P T (アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別が `H T T P / H T T P S` とする) を解析するタイミングの時間的な遷移である。解析部 3 0 9 は、表示器 3 2 8 に番組 A 1 が表示されている間に M P T 1 3 0 2 1 W と M P T 1 3 0 2 2 W を、番組 B 1 を表示している間に M P T 1 3 0 2 3 W を受信して解析している。ここで解析部は、M P T 1 3 0 2 2 W を解析した結果、URL のスキームが `h t t p s` であることを認識したとする。解析部 3 0 9 は、URL のスキームが `h t t p s` である旨を、制御部 3 3 0 に通知する。

30

【 0 4 4 9 】

1 3 0 3 W は、制御部 3 3 0 が、解析部 3 0 9 から解析結果を受信したタイミングにおいて、通信ネットワークに接続していない、あるいはサービス事業者と正しく通信ができる状態にないことを通信制御部 3 4 1 を介して認識した場合に、表示制御部 3 2 7 に対して、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示を通知するタイミングの時間的な遷移である。

【 0 4 5 0 】

制御部 3 3 0 は、M P T 1 3 0 2 1 W の解析結果を解析部 3 0 9 から受信したタイミングにおいて、図 2 9 A (a) で説明したように、データコンテンツサービスが行われていない旨 1 3 0 3 1 W を表示制御部 3 2 7 に通知する。

40

また制御部 3 3 0 は、M P T 1 3 0 2 2 W の解析結果を解析部 3 0 9 から受信したタイミングにおいて、前回の M P T の解析結果である M P T 1 3 0 2 1 W の解析結果を解析部 3 0 9 から受信したタイミングから、チャンネル番号 (`service_id`) および番組 (`event_id`) が変わっていないが、URL のスキームが `h t t p s` であることを認識しているため、図 2 9 A (a) の場合と異なりデータコンテンツサービスが行われていない旨 1 3 0 9 1 W を表示制御部 3 2 7 に通知する。

【 0 4 5 1 】

図 3 6 B は、図 2 9 B (a) 同様、受信機 3 0 0 が受信して表示している番組のチャンネル番号が変わる場合は、表示器 3 2 8 が表示している番組の表示内容、解析部 3 0 9 が M P T (アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別が `H T T P /`

50

HTTPSとする)を受信して解析するタイミング、および制御部330が、データコンテンツのサービスが行われていない旨を表示制御部327に通知するタイミング、の時間的な遷移の例を示している。

【0452】

図36Bの1307Wは、表示器328が表示している表示内容の時間的な遷移である。1308Wは、解析部309が、受信したMPT(アプリケーションサービス記述子が配置されており、プロトコル識別がHTTP/HTTPSとする)を解析するタイミングの時間的な遷移である。解析部309は、表示器328に番組A2が表示されている間にMPT13081Wを、番組B2が表示されている間にMPT013082Wを、番組C2が表示されている間にMPT13083Wを受信して解析している。ここで解析部は、MPT13082Wを解析した結果、URLのスキームがhttpsであることを認識したとする。解析部309は、URLのスキームがhttpsである旨を、制御部330に通知する。

10

【0453】

1309Wは、制御部330が、表示制御部327に対して、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示を通知するタイミングの時間的な遷移である。制御部330は、MPT13081Wの解析結果を解析部309から受信したタイミングにおいて、データコンテンツサービスが行われていない旨13091Wを表示制御部327に通知する。

【0454】

また制御部330は、MPT13082Wの解析結果を解析部309から受信したタイミングにおいて、前回のMPTの解析結果であるMPT6081Wの解析結果を解析部309から受信したタイミングから、チャンネル番号が変わっているが、URLのスキームがhttpsであることを認識しているため、図29B(a)の場合と異なりデータコンテンツサービスが行われていない旨13091Wを表示制御部327に通知する。

20

【0455】

また制御部330は、MPT13083Wの解析結果を解析部309から受信したタイミングにおいても、前回のMPTの解析結果であるMPT13082Wの解析結果を解析部309から受信したタイミングから、チャンネル番号が変わっていると判断し、図29B(a)の場合と同様にデータコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部327に通知しない。

30

【0456】

このように受信機300は、アプリケーションを伝送するプロトコル種別に応じて、例えばセキュリティ通信を用いてアプリケーションを伝送する場合、データコンテンツサービスが行われていない旨の表示を行うことも可能である。

図37は、図36Aおよび図36Bに示したURLのスキームも判断して、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部327に通知する場合の、第1の条件判定処理の処理フローである。

【0457】

図37の処理フローのS1400WからS1406Wは、図32Cの処理フローのS930WからS936Wまでと同一である。図37の処理フローの図32Cの処理フローのとの相違点は、S1407Wが加わった点である。このS1407Wの処理を追加することで制御部330は、URLのスキームがhttpsの場合は、URLのスキームにhttpsが設定されているMPTを受信する都度、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部327に通知することが可能となる。

40

【0458】

このように受信機300は、URLのスキームに対応して、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部327に通知することができる。これにより受信機300の番組を視聴しているユーザは、セキュリティ通信が行われていることを確実に把握することができる。

50

【 0 4 5 9 】

URLのスキームがh t t p sの場合、M P Tを受信する都度、データコンテンツサービスが行われていない旨を表示制御部3 2 7に通知すると、その通知をユーザが煩わしく感じる場合もある。そのためデータコンテンツサービスが行われていない旨の表示は、ユーザが視聴している番組の表示とかさらないように、映像およびマルチメディアコンテンツを全画面表示した状態で、映像およびマルチメディアコンテンツにセキュリティ通信が実行中であることの表示が重ならないように画面外に表示することが望ましい。例えば、図3 4 (B)で説明したように、残余の部分に表示してもよい。

【 0 4 6 0 】

実施形態によると、以下の(1 W) ~ (9 W)に記述する要点を含む。

10

(1 W) 放送による番組と前記番組に付加された通信サービスとを受けることが可能な受信装置において、前記放送による前記番組を受信する受信部と、前記通信サービスを受けるためにネットワークを介して通信を行う通信制御部と、前記受信部で受信した前記番組を出力する表示制御部と、前記受信部で受信した前記番組の放送信号に配置されている、前記通信サービスが前記番組に付加されていることを示す第1の指定情報と前記番組のチャンネルを識別するチャンネル識別情報を解析する解析部と、前記解析部の解析結果にもとづいて前記通信制御部を介して、前記通信サービスを実行する制御部とを有し、前記制御部は、前記表示制御部により表示制御されている前記番組の前記第1の指定情報の解析結果を受信したときに、前記ネットワークに接続していない場合、さらに第1のチャンネル識別情報を持つ第1の番組から第2のチャンネル識別情報を持つ第2のチャンネルに切り換わった第2の番組において、予め定めた回数を超えた前記第1の指定情報の解析結果を受信する場合である第1の条件が成立する場合に、前記表示制御部に、前記ネットワークに接続していないために発生するエラー通知が出力されるよう制御する、受信装置。

20

(2 W) 第1の条件は、前記制御部が、前記受信部で受信した前記放送信号に配置されている前記番組を識別する番組識別情報により、第3のチャンネル識別情報と第1の番組識別情報をもつ第3の番組から第3のチャンネル識別情報と第2の番組識別情報をもつ第4の番組に切り換わった前記第4の番組において、初めての前記第1の指定情報の解析結果を受信する場合、をさらに含む、(1 W)に記載の受信装置。

(3 W) 前記第1の条件は、常に成立しないように設定可能な(1 W)に記載の受信装置。

30

(4 W) 前記制御部は、前記通信制御部により前記ネットワークに接続していないと判断した場合、前記表示制御部により表示制御されている前記番組の前記第1の指定情報の解析結果を取得済みの状態において、前記制御部が、さらに前記受信装置の外部から、前記通信サービスの内容を前記表示制御部に表示を要求するコマンドを受信した場合である第2の条件が成立する場合に、前記表示制御部に、前記ネットワークに接続していないために発生するエラー通知が出力されるよう制御する、(1 W)に記載の受信装置。

(5 W) 前記制御部は、前記通信制御部により前記ネットワークに接続していないと判断した場合、前記第1の指定情報の解析結果を受信した結果、前記通信サービスのスキームがh t t p sの場合に、前記表示制御部に、前記ネットワークに接続していないために発生するエラー通知が出力されるよう制御する、(1 W)に記載の受信装置。

40

(6 W) 前記チャンネル識別情報は、前記番組のチャンネルを示すservice_idである、(1 W)に記載の受信装置。

(7 W) 前記番組識別情報は、前記番組を示すevent_idである、(2 W)に記載の受信装置。

(8 W) 前記第1の指定情報は、アプリケーションサービス記述子、および前記アプリケーションサービス記述子から参照するM H —伝送プロトコル記述子に配置されたプロトコル識別である、(1 W)に記載の受信装置。

(9 W) 放送による番組と、前記番組に付加された通信サービスとを受けることが可能な受信装置であって、前記放送による前記番組を受信する受信部と、前記通信サービスを受けるためにネットワークを介して通信を行う通信制御部と、前記受信部で受信した前記番

50

組の表示を出力する表示制御部と、前記受信部で受信した前記番組の放送信号に配置されている、前記通信サービスが前記番組に付加されていることを示す第1の指定情報と前記番組を個別に特定する番組特定情報を解析する解析部と、前記解析部の解析結果にもとづいて前記通信制御部を介して、前記通信サービスを実行する制御部とを有する受信装置の受信方法において、

表示制御されている前記番組の前記第1の指定情報の解析結果を受信したときに、前記ネットワークに接続していない場合、さらに第1のチャンネル識別情報を持つ第1の番組から第2のチャンネル識別情報を持つ第2のチャンネルに切り換わった第2の番組において、予め定めた回数を超えた前記第1の指定情報の解析結果を受信する場合である第1の条件が成立する場合に、前記ネットワークに接続していないために発生するエラー通知が出力されるよう制御する、受信方法。

10

【0461】

上記したように、本実施形態で説明したシステムは、複数チャンネルを受信できるシステムであり、CASモジュールにより有料放送番組、無料放送番組のいずれでも確実にデスクランブルを可能とできるようになっている。これにより受信機の信頼性が高くなっている。この前段部の処理の信頼性が高いにもかかわらず、後段部で機能する通信サービスを受ける機能に不備があると、全体としては、信頼性向上を損なってしまう。

そこで、上記したシステムによると例えば、マルチ画面を視聴している場合や、PIP（ピクチャインピクチャ）画面を視聴しているとき、一方の画面の番組を次々とリモコンで切り替えた場合、通信データを取得できない場合、頻繁に警告がでることが防止され、他の画面の邪魔をすることがない。また、上記した受信機によると、1つのチャンネルの番組を視聴しながら、他の複数のチャンネルの番組が録画されることがある。このような状況で、ある番組において通信サービスが提供されたとき且つ受信機のネットワーク接続に不具合があると、警告通知がなされるが、本実施形態では、頻繁に警告表示がなされることはない。

20

このように通信サービスデータを取得できない場合、警告出力としては、例えばdボタンを押したときのみ、異常を通知し、ユーザの疑念を払拭することができる。

特に視聴しているチャンネルの番組が有料放送の場合は、視聴者及びサービス業者の双方にとって損失である。つまり、視聴者は有料であるにもかかわらずサービスを受けることができず、サービス業者は、視聴者から疑いをもたれる可能性がある。しかし、本実施形態のシステムによると、図30～図33で説明したように、設定した条件に応じて、視聴者は、サービスを受けられない理由を認識することができる。これにより、視聴者とサービス業者（事業体）との疑念を払拭することができる。さらにまたユーザ（視聴者）は、警告表示を行う各種の条件のうち、任意のものを初期設定或いは途中から切換えや設定が可能であり、装置の使い勝手を向上している。

30

【0462】

実施形態によると、複数のチューナと、前記複数のチューナに対するスクランブル鍵を生成するCASモジュールと、ネットワークを介して通信サービスを受けるための通信制御部と、制御部と、を有し、前記制御部は、前記複数のチューナが番組選択を行うための制御、前記CASモジュールが前記スクランブル鍵を生成するタイミングの制御、及び前記通信制御部が前記通信サービスを取得するための制御を実行する、受信装置を提供できる。以下、上記の実施形態に対応する技術について以下の付記を行う、

40

付記

（1）少なくとも暗号化された第1キー（Kw）を含む第1制御情報（EMM）、暗号化された第2キー（Ks）を含む第2制御情報（ECM）及び、スクランブルコンテンツを含むサービス信号を受信するチューナ部と、

前記チューナ部から出力された前記スクランブルコンテンツを受け取るデスクランブラと、少なくとも前記チューナ部、前記デスクランブラを制御する制御部と、

前記制御部により制御され、

前記第1制御情報（EMM）から、固有の第3キー（Km）を用いて前記第1キー（Kw

50

）を取得し、前記第 2 制御情報（ E C M ）から、取得された前記第 1 キー（ K w ）を用いて、前記デスクランブラに与えるための前記第 2 キー（ K s ）を取得する、 C A S モジュールと、を備え、

前記制御部は、

受信機が自受信機宛ての 1 事業体あたりの E M M を受信してから C A S モジュールに対して処理するまでの猶予期間（以下、 E M M 処理猶予期間）以内に最少 R（ 1 以上の整数）個であることを設定しており、前記 1 事業体の前記第 1 制御情報（ E M M ）を検出してから、 E M M 処理猶予期間内に R 個を超える前記 1 事業体の次の前記第 1 制御情報（ E M M ）を検出した場合、少なくとも前記第 1 制御情報（ E M M ）について前記 C A S モジュールに対するコマンド送出は抑制する、受信装置を提供している。

10

（ 2 ）放送による番組と前記番組に付加された通信サービスとを受けることが可能な受信装置において、

前記放送による前記番組を受信する受信部と、

前記通信サービスを受けるためにネットワークを介して通信を行う通信制御部と、

前記受信部で受信した前記番組を出力する表示制御部と、

前記受信部で受信した前記番組の放送信号に配置されている、前記通信サービスが前記番組に付加されていることを示す第 1 の指定情報と前記番組のチャンネルを識別するチャンネル識別情報を解析する解析部と、

前記解析部の解析結果にもとづいて前記通信制御部を介して、前記通信サービスを実行する制御部とを有し、

20

前記制御部は、

前記表示部制御部により表示制御されている前記番組の前記第 1 の指定情報の解析結果を受信したときに、前記ネットワークに接続していない場合、さらに第 1 のチャンネル識別情報を持つ第 1 の番組から第 2 のチャンネル識別情報を持つ第 2 のチャンネルに切り換わった前記第 2 の番組において、予め定めた回数を超えた前記第 1 の指定情報の解析結果を受信する場合が成立する場合に、前記表示制御部に、前記前記ネットワークに接続していないために発生するエラーを示す通知についても出力させる受信装置を提供している。

（ 3 ）さらに上記の（ 1 ）及び（ 2 ）を含む受信装置であり、 前記制御部は、

受信機が自受信機宛ての 1 事業体あたりの E M M を受信してから C A S モジュールに対して処理するまでの猶予期間（以下、 E M M 処理猶予期間）以内に最少 R（ 1 以上の整数）個であることを設定しており、前記 1 事業体の前記第 1 制御情報（ E M M ）を検出してから、 E M M 処理猶予期間内に R 個を超える前記 1 事業体の次の前記第 1 制御情報（ E M M ）を検出した場合、少なくとも前記第 1 制御情報（ E M M ）について前記 C A S モジュールに対するコマンド送出は抑制し、

30

前記表示部制御部により表示制御されている前記番組の前記第 1 の指定情報の解析結果を受信したときに、前記ネットワークに接続していない場合、さらに第 1 のチャンネル識別情報を持つ第 1 の番組から第 2 のチャンネル識別情報を持つ第 2 のチャンネルに切り換わった前記第 2 の番組において、予め定めた回数を超えた前記第 1 の指定情報の解析結果を受信する場合が成立する場合に、前記表示制御部に、前記前記ネットワークに接続していないために発生するエラーを示す通知についても出力させる受信装置を提供している。

40

【 0 4 6 3 】

本発明のいくつかの実施形態を説明したが、これらの実施形態は例として提示したものであり、発明の範囲を限定することは意図していない。これら新規な実施形態は、その他の様々な形態で実施されることが可能であり、発明の要旨を逸脱しない範囲で、種々の省略、置き換え、変更を行うことができる。これら実施形態やその変形は、発明の範囲や要旨に含まれるとともに、特許請求の範囲に記載された発明とその均等の範囲に含まれる。さらにまた、請求項の各構成要素において、構成要素を分割して表現した場合、或いは複数を合わせて表現した場合、或いはこれらを組み合わせる場合であっても本発明の範疇である。また、複数の実施形態を組み合わせてもよく、この組み合わせで構成される実施例も発明の範疇である。

50

【 0 4 6 4 】

また、本明細書と各図において、既出の図に関して前述したものと同一又は類似した機能を発揮する構成要素には同一の参照符号を付し、重複する詳細な説明を適宜省略することがある。また請求項を制御ロジックとして表現した場合、コンピュータを実行させるインストラクションを含むプログラムとして表現した場合、及び前記インストラクションを記載したコンピュータ読み取り可能な記録媒体として表現した場合でも本発明の装置を適用したものである。また、使用している名称や用語についても限定されるものではなく、他の表現であっても実質的に同一内容、同趣旨であれば、本発明に含まれるものである。

【 符号の説明 】

【 0 4 6 5 】

1 0 0 . . . 放送局、1 0 1 . . . 放送局サーバ、1 0 2 . . . 第 1 のセキュリティ機能、1 0 3 . . . 第 1 の基本機能、1 2 0 . . . サービス事業者装置、1 4 0 . . . 受信機、1 4 1 . . . 通信制御部、1 4 2 . . . 第 2 の基本機能、1 4 3 . . . 第 2 のセキュリティ機能、1 4 4 . . . アプリケーション管理機能、1 4 5 . . . A P I、1 4 6 . . . アプリケーション、1 6 0 . . . 表示器、1 6 2 . . . H D D、2 0 1 . . . 映像エンコーダ、3 0 6 . . . 映像デコーダ、3 0 9 . . . 解析部、3 3 0 . . . 制御部、3 2 7 . . . 表示制御部、3 2 8 . . . 表示器、3 2 9 . . . スピーカ、

5 0 1 . . . 第 1 チューナ部、8 0 1 - 1 . . . 第 1 チューナ部、9 0 1 - 1 . . . 第 1 チューナ部、1 3 0 1 - 1 . . . 第 1 チューナ部、

8 0 1 - 2 . . . 第 2 チューナ部、9 0 1 - 2 . . . 第 2 チューナ部、1 3 0 1 - 2 . . . 第 2 チューナ部、

1 3 0 1 - 3 . . . 第 3 チューナ部、

5 0 2 . . . デスクランブラ、8 0 2 . . . デスクランブラ、9 0 2 . . . デスクランブラ、1 3 0 2 . . . デスクランブラ、

5 0 6 . . . 制御部、8 0 6 . . . 制御部、9 0 6 . . . 制御部、1 3 0 6 . . . 制御部、5 1 1 . . . I C カード、8 1 1 . . . I C カード、1 3 1 1 1 . . . I C カード、

9 1 1 - 1 . . . 第 1 I C カード、

9 1 1 - 2 . . . 第 2 I C カード、

1 5 0 1 . . . チューナ・復調部、

1 6 0 1 - 1 . . . 第 1 チューナ部 (4 K 8 K)、1 8 0 1 - 1 . . . 第 1 チューナ部 (4 K 8 K)、

1 6 0 1 - 2 . . . 第 2 チューナ部 (4 K 8 K)、1 8 0 1 - 2 . . . 第 2 チューナ部 (4 K 8 K)、

1 6 0 1 - 3 . . . 第 3 チューナ部 (4 K 8 K)、1 8 0 1 - 3 . . . 第 3 チューナ部 (4 K 8 K)、

1 8 0 1 - 4 . . . 第 4 チューナ部 (2 K)、

1 8 0 1 - 5 . . . 第 5 チューナ部 (2 K)、

1 5 0 2 . . . デスクランブラ、1 6 0 2 . . . デスクランブラ、

1 8 0 2 - 1 . . . 第 1 デスクランブラ、

1 8 0 2 - 2 . . . 第 2 デスクランブラ、

5 0 6 . . . 制御部、8 0 6 . . . 制御部、9 0 6 . . . 制御部、1 3 0 6 . . . 制御部、1 5 1 1 . . . C A S モジュール、1 6 1 1 . . . C A S モジュール、1 8 1 1 . . . C A S モジュール。

10

20

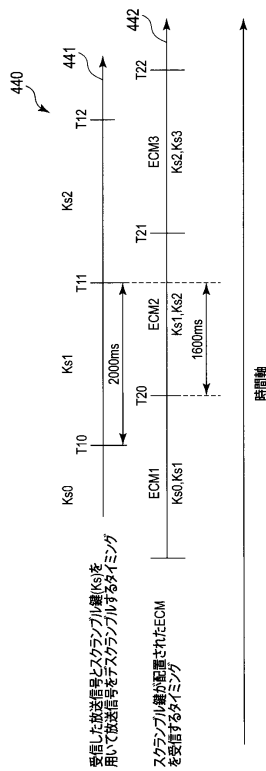
30

40

50

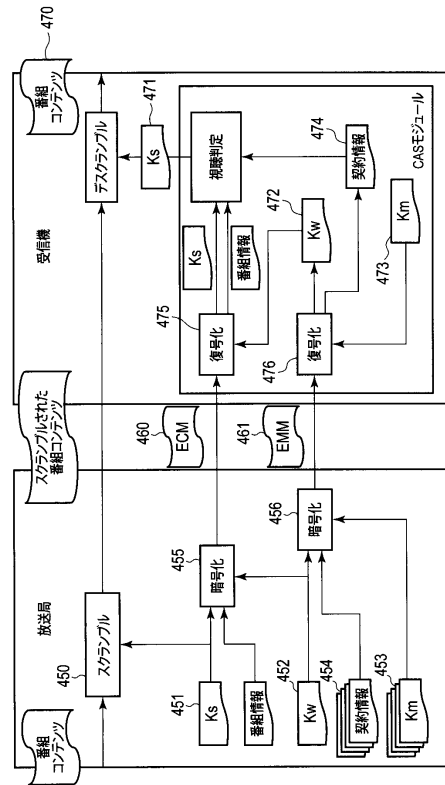
【 図 4 B 】

図 4B



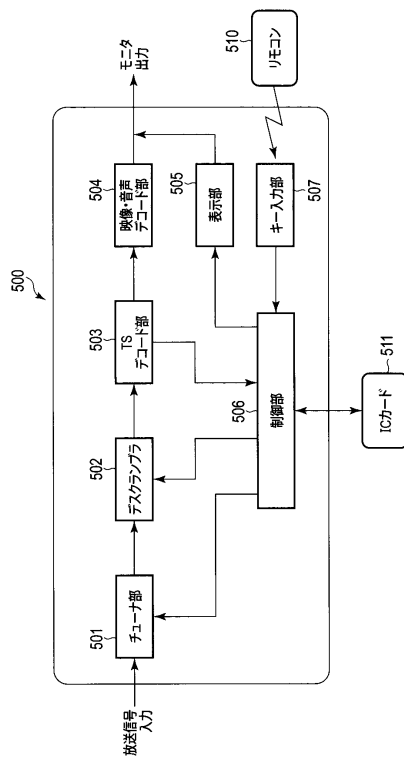
【 図 4 C 】

☒ 4C



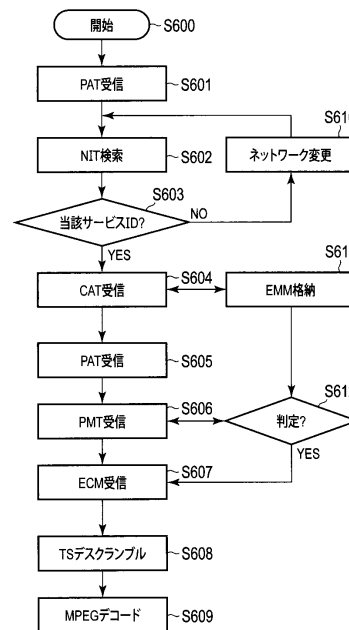
【 図 5 】

图 5



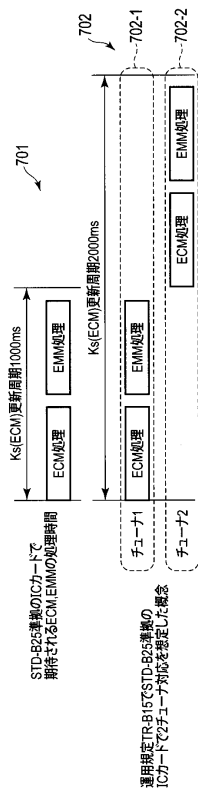
【 図 6 】

图 6



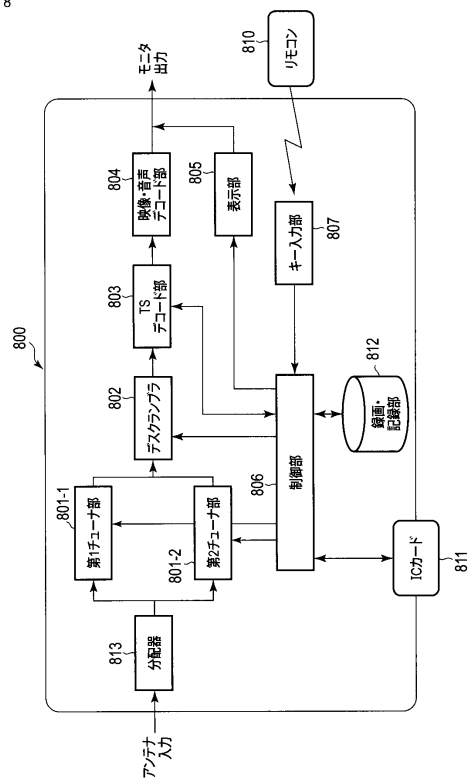
【圖 7】

图 7



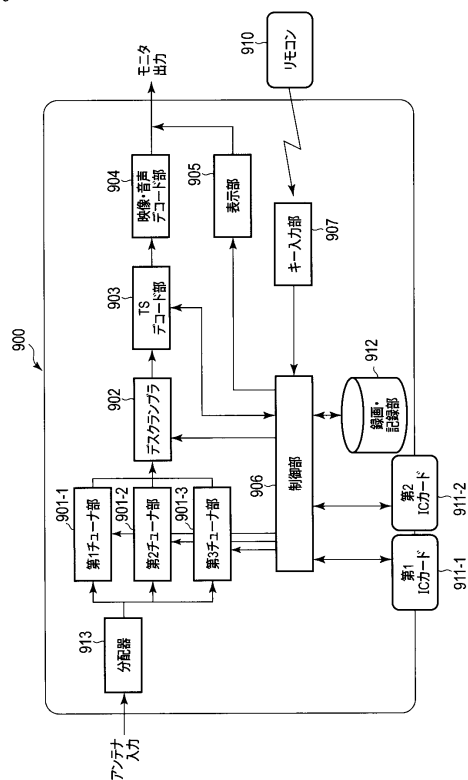
【圖 8】

图 8



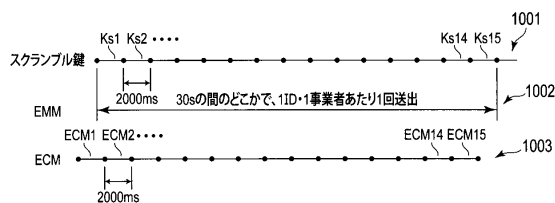
【图 9】

图 9



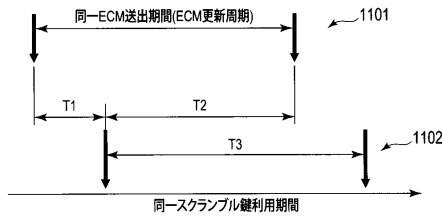
【 図 1 0 】

图 10



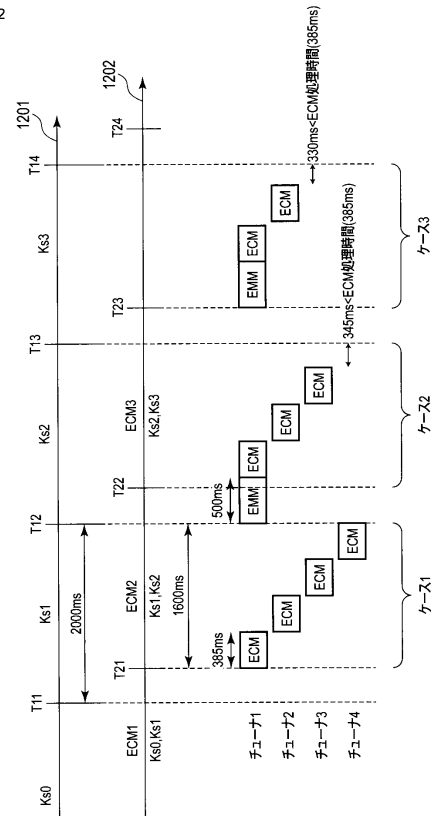
【図 1 1】

図 11



【図 1 2】

図 12

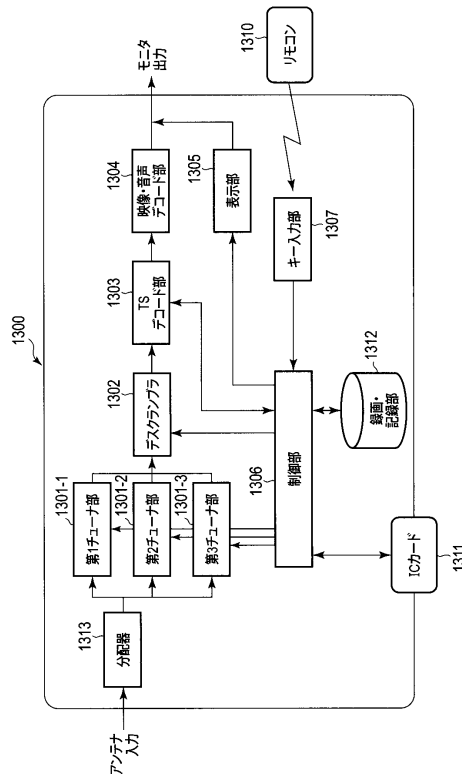


10

20

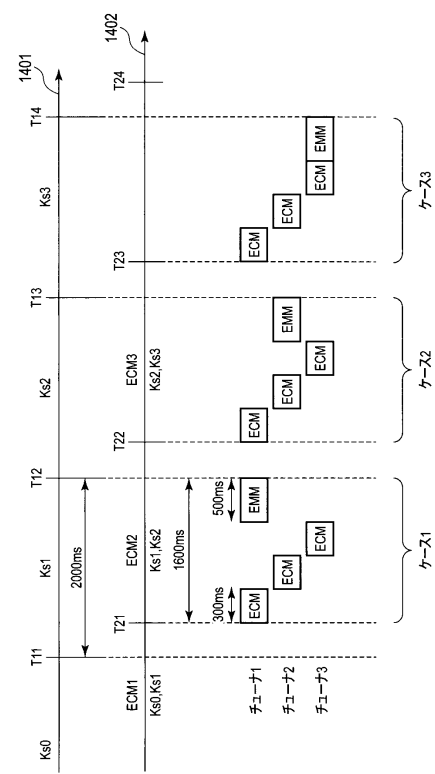
【図 1 3】

図 13



【図 1 4】

図 14



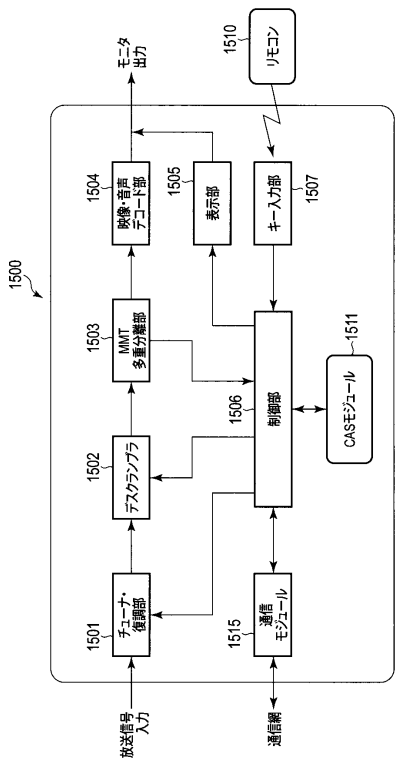
30

40

50

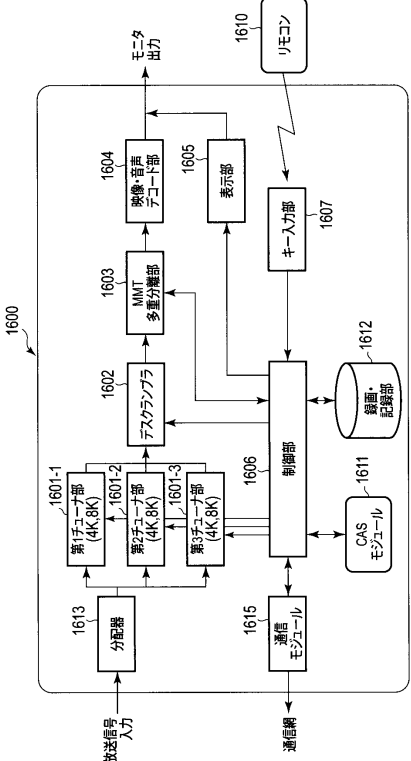
【図 15】

図 15



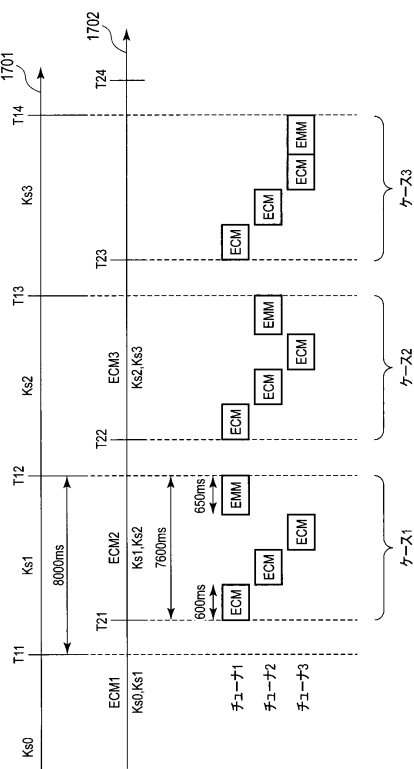
【図 16】

図 16



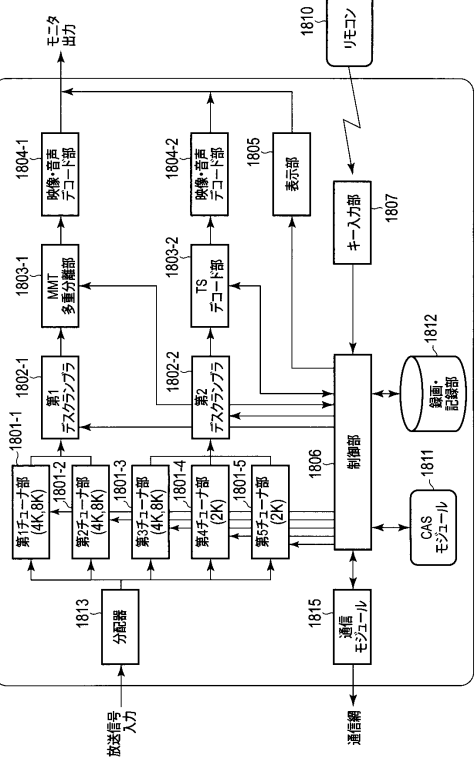
【図 17】

図 17

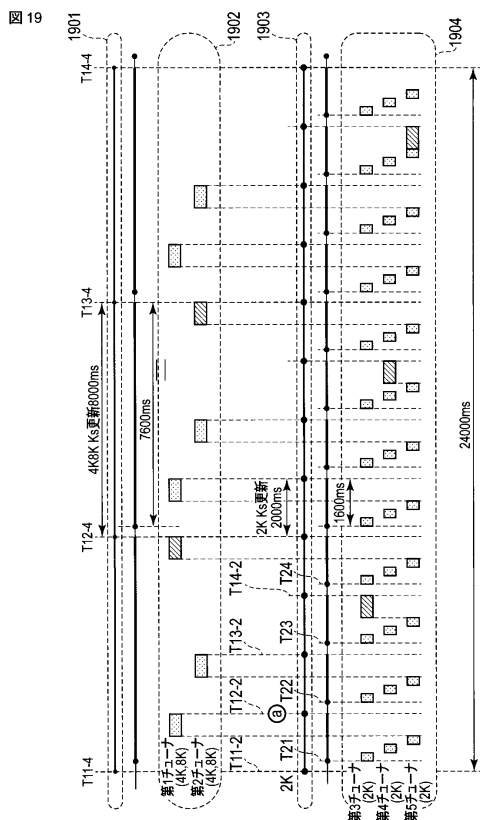


【図 18】

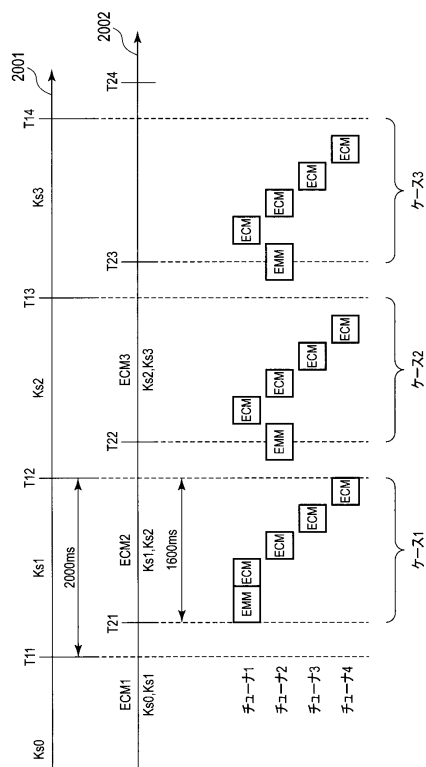
図 18



【图 19】

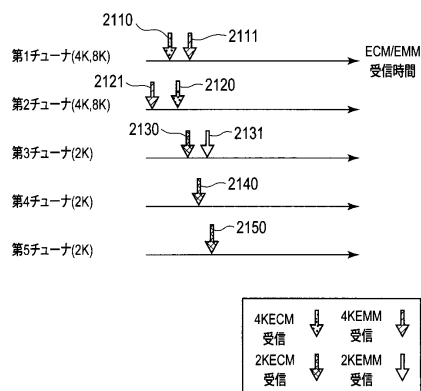


【 図 2 0 】



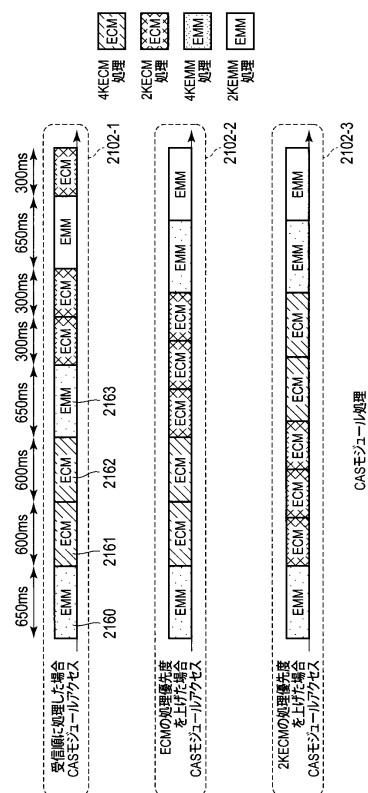
【 図 2 1 A 】

21A



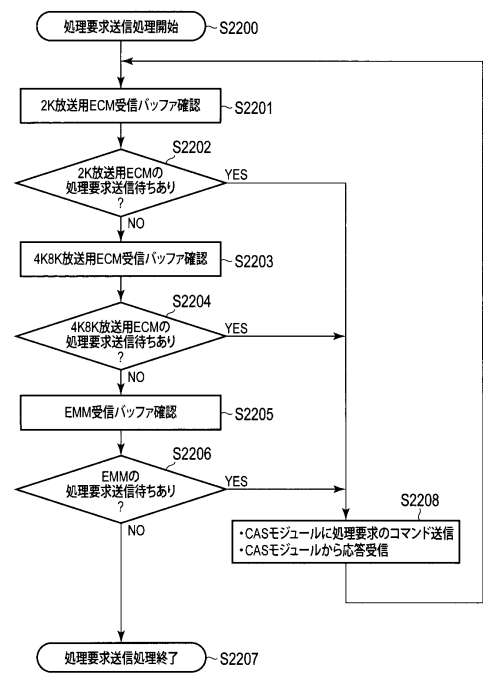
【 図 2 1 B 】

図 21B



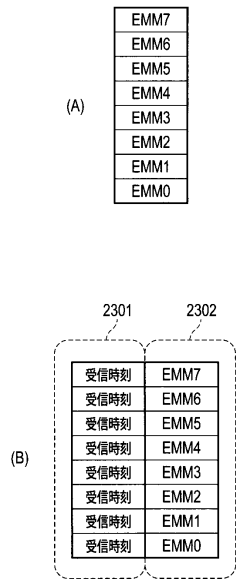
【図 2 2】

図 22



【図 2 3】

図 23

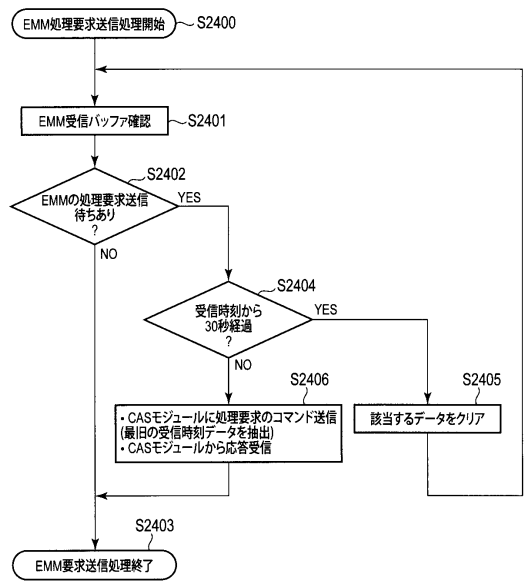


10

20

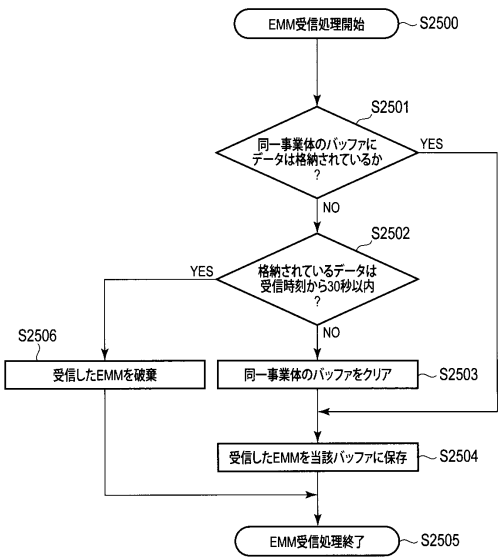
【図 2 4】

図 24



【図 2 5】

図 25

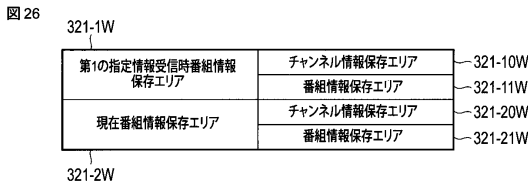


30

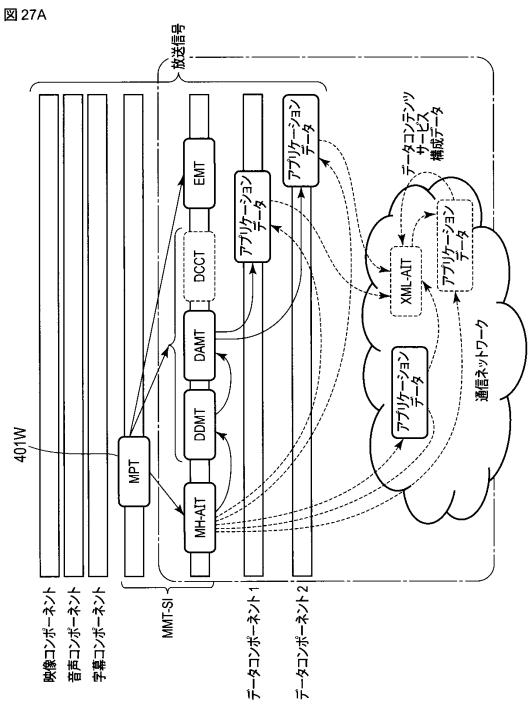
40

50

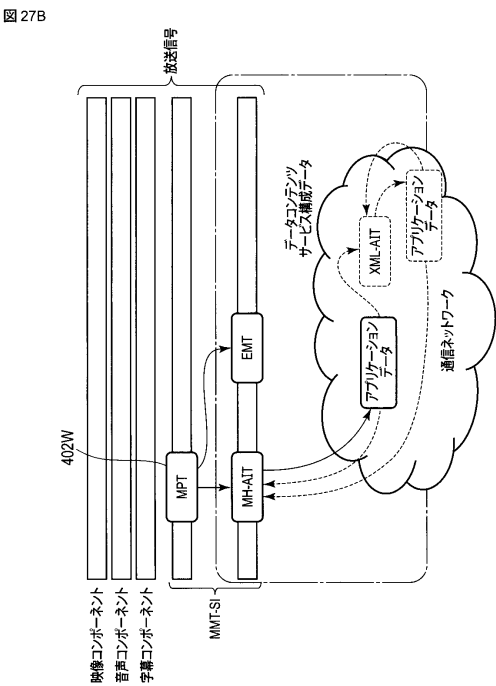
【図 2 6】



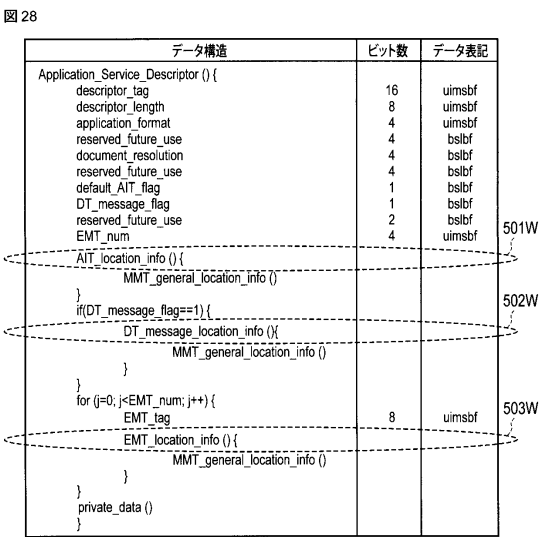
【図 2 7 A】



【図 2 7 B】



【図 2 8】



10

20

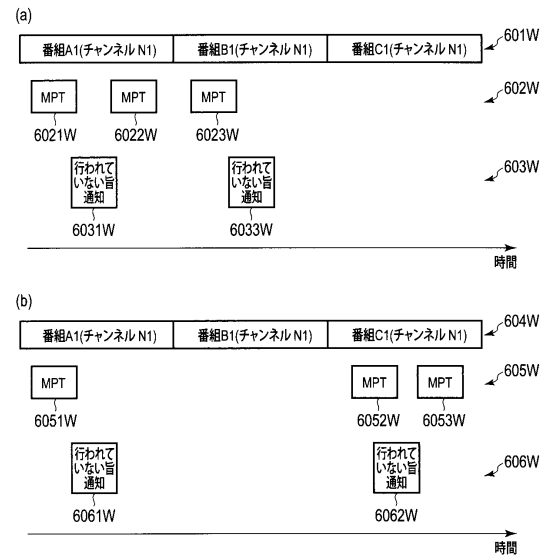
30

40

50

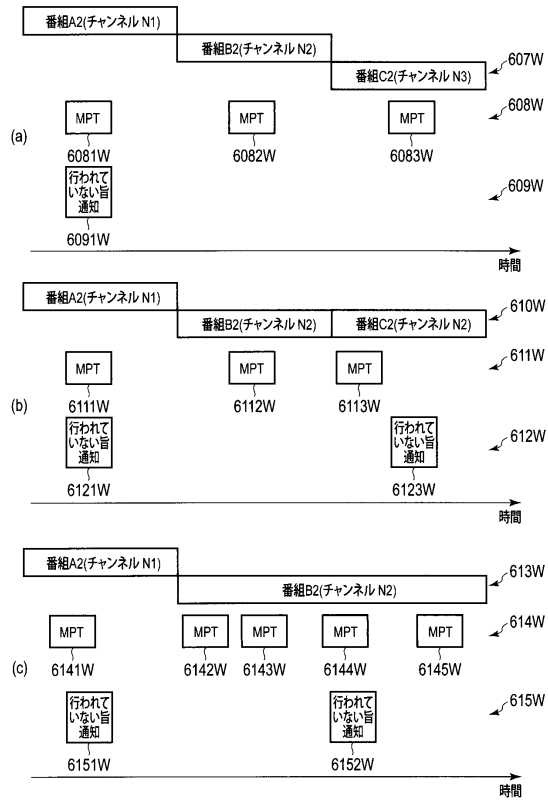
【図 29 A】

図 29A



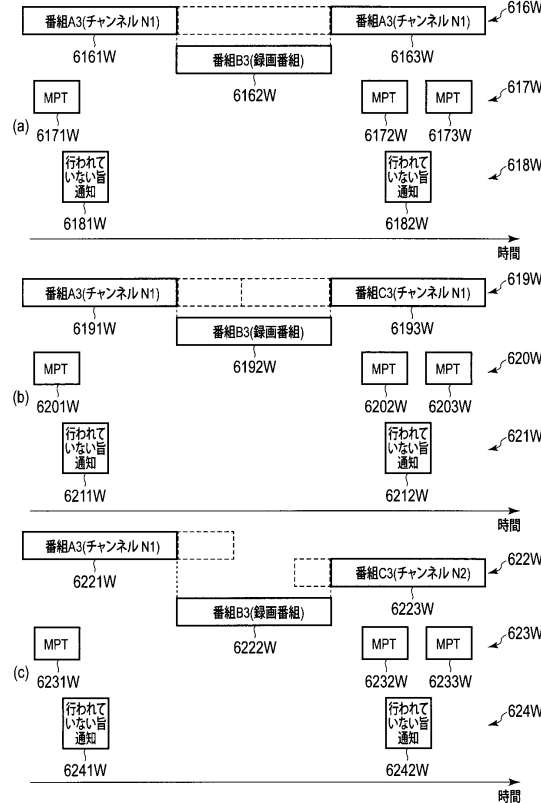
【図 29 B】

図 29B



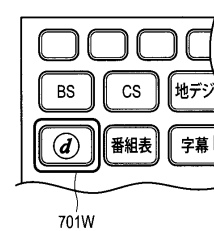
【図 29 C】

図 29C



【図 30】

図 30



10

20

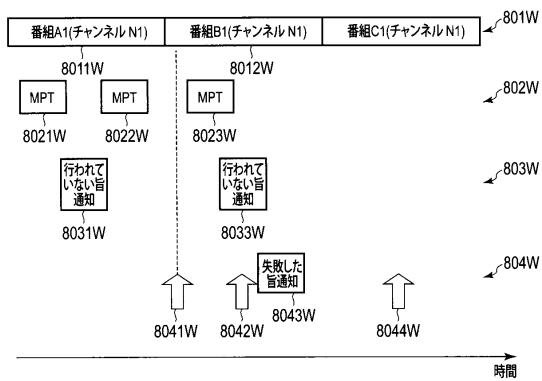
30

40

50

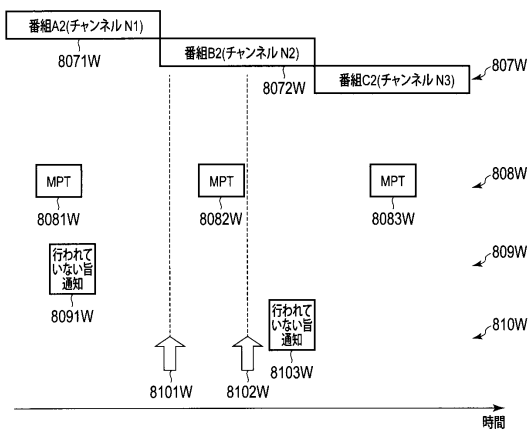
【図 3 1 A】

図 31A



【図 3 1 B】

図 31B

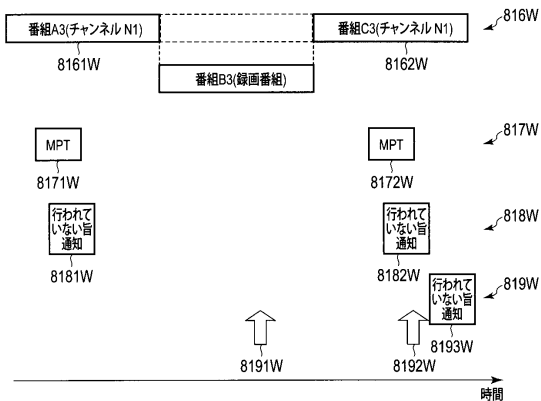


10

20

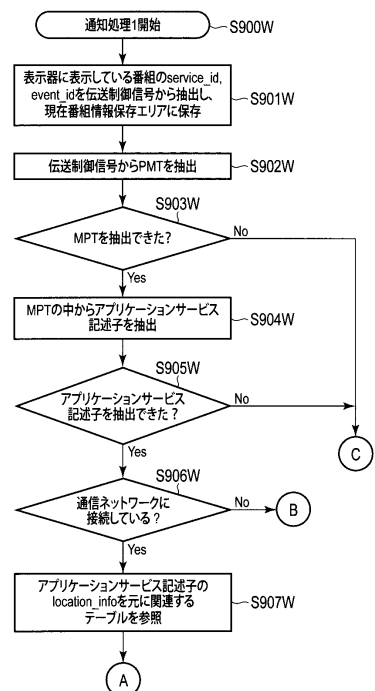
【図 3 1 C】

図 31C



【図 3 2 A】

図 32A



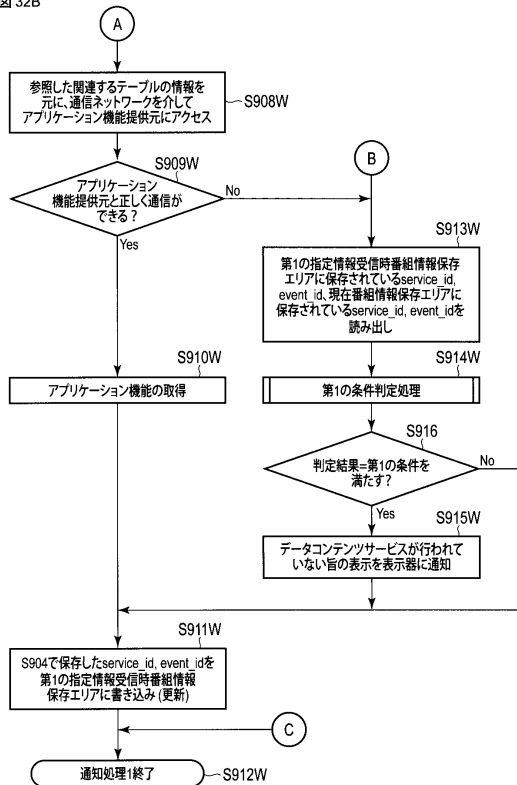
30

40

50

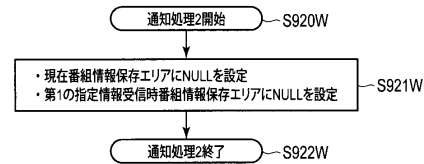
【図 3 2 B】

図 32B



【図 3 2 C】

図 32C

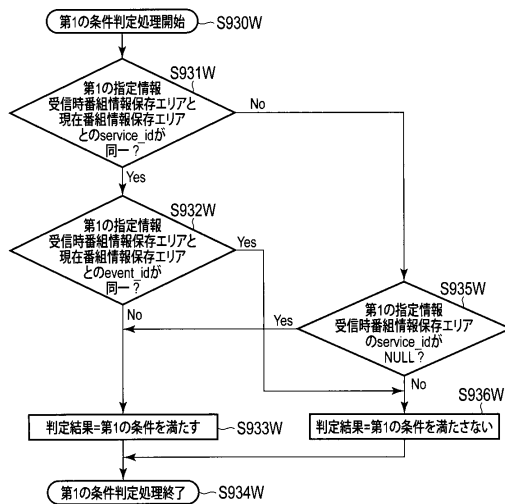


10

20

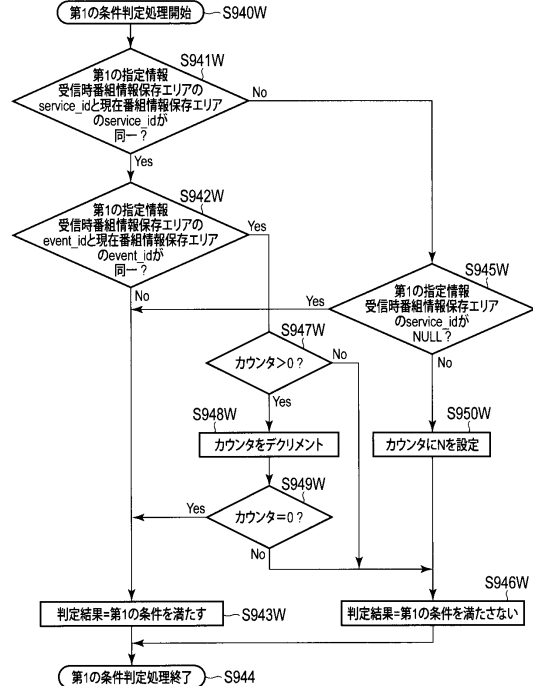
【図 3 2 D】

図 32D



【図 3 2 E】

図 32E

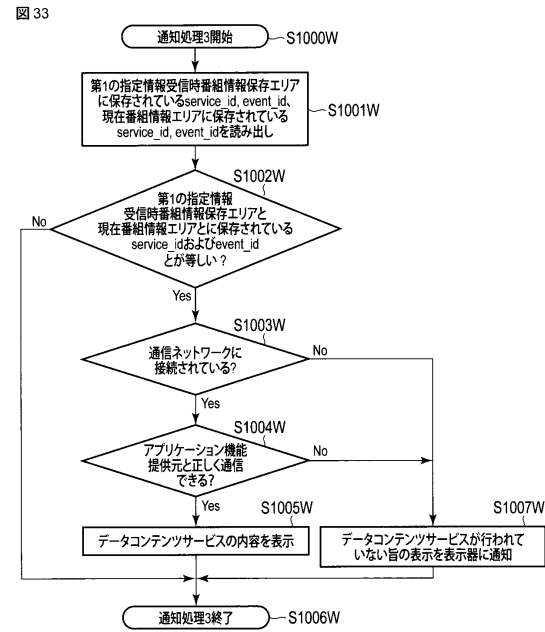


30

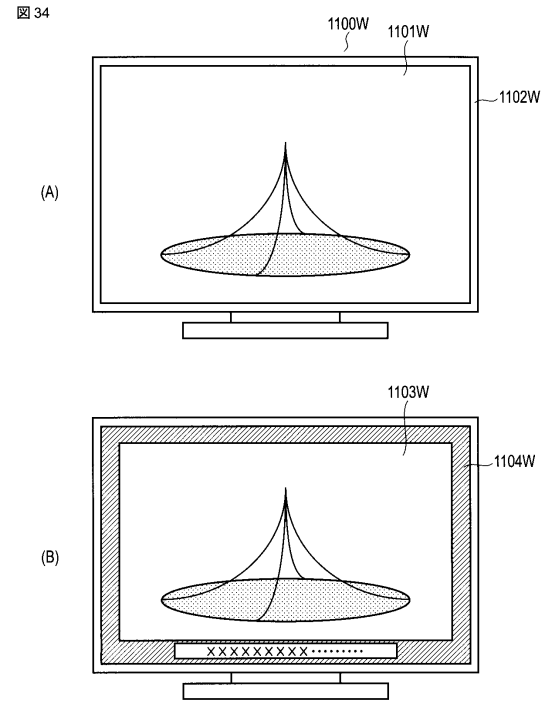
40

50

【図 3 3】



【図 3 4】



【図 3 5 A】

図 35A

データ構造	ビット数	データ表記
MH-Transport_Protocol_Descriptor () { descriptor_tag descriptor_length protocol_id transport_protocol_label for(i=0; i<N; i++) { selector_byte } }	16 8 16 8 4	uimbsf uimbsf uimbsf uimbsf uimbsf

1201W points to the descriptor_tag field.

1202W points to the transport_protocol_label field.

【図 3 5 B】

図 35B

値	意味
0x0000	reserved_future_use
0x0001_0x0002	reserved
0x0003	HTTP/HTTPS伝送
0x0004	データカルーセル伝送
0x0005	MMT non-timed伝送
0x0006_0xFFFF	reserved_future_use

1203W points to the reserved row.

10

20

30

40

50

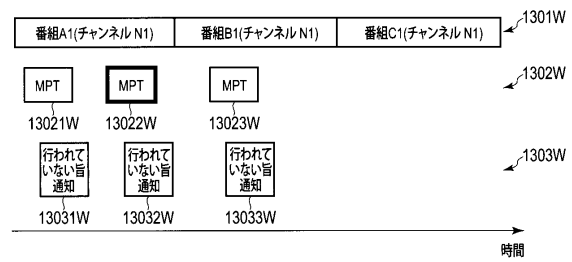
【図 35C】

図 35C

データ構造	ビット数	データ表記
for(i=0; i<N; i++){ URL_base_length for(j=0; j<URL_base_length; j++){ URL_base_byte } URL_extension_count for(j=0; j<URL_extension_count; j++){ URL_extension_length for(k=0; k<URL_extension_count; k++){ URL_extension_byte } } }	8 8 8 8 8	uimsbf uimsbf uimsbf uimsbf uimsbf

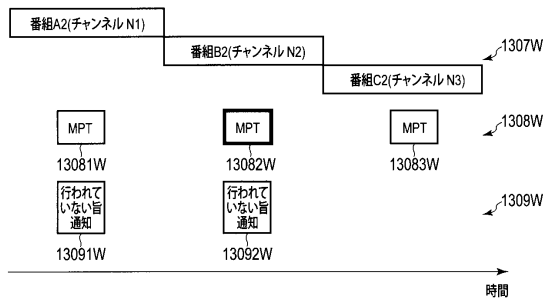
【図 36A】

図 36A



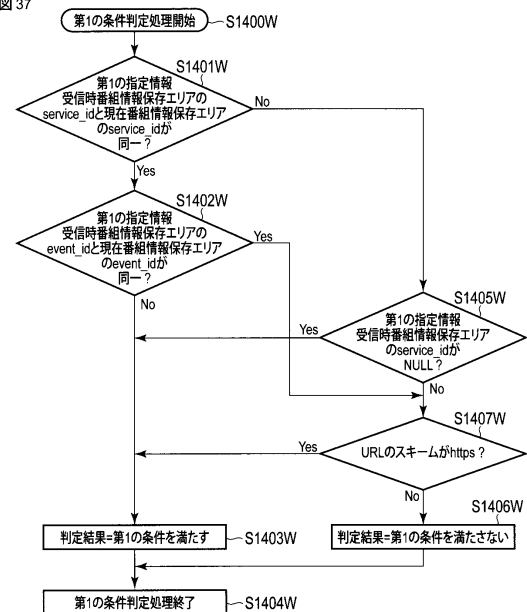
【図 36B】

図 36B



【図 37】

図 37



10

20

30

40

50

フロントページの続き

(51)国際特許分類

F I

H 0 4 H 60/13 (2008.01)

H 0 4 B 1/16

A

H 0 4 H 60/15 (2008.01)

H 0 4 H 20/28

H 0 4 H 60/23 (2008.01)

H 0 4 H 60/13

H 0 4 H 60/15

H 0 4 H 60/23

(72)発明者 筒井 幸彦

青森県三沢市南町三丁目3 1 番地 2 7 7 6 号 東芝映像ソリューション株式会社内

(72)発明者 茶木 宏之

青森県三沢市南町三丁目3 1 番地 2 7 7 6 号 東芝映像ソリューション株式会社内

審査官 鈴木 隆夫

(56)参考文献 特開 2 0 1 7 - 0 9 8 7 3 6 (J P , A)

(58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)

H 0 4 N 2 1 / 4 6 2 3

H 0 4 N 2 1 / 4 2 6

H 0 4 L 9 / 0 8

H 0 4 B 1 / 1 6

H 0 4 H 2 0 / 2 8

H 0 4 H 6 0 / 1 3

H 0 4 H 6 0 / 1 5

H 0 4 H 6 0 / 2 3